

次ページへ続く

Continued on next page...

嶋中道則

一、はじめに

『澹庵歌話』は、近世初期桑名藩の藩儒として活躍した三宅澹庵（正堅）の著。「歌話」の名の通り特に体系立った歌学書ではないが、その内容はおおむね次の三点にまとめることができる。

一、「万葉集」「古今集」等の和歌の注釈に関するもの。（本書の過半を占める）。

二、和歌と詩材・詩想の通い合う中国の詩文の指摘。

三、木下長嘯子・藤原愷窩・林羅山など同時代人の、和歌にまつわる雑話。

このうち、三の同時代人に関する記事も、他書に見えないものが多く、興味深いものがあるが、さらに、一・二の事項も注目すべき内容を含んでいる。すなわち、一の注釈的事項においては、契沖によって確立されたといわれる、自由な討究精神に立つての実証的な和歌研究の萌芽が見られ、個々の所説においても、むしろ今日の目から見れば、行き過ぎや足りない点は多々あるにしても、中には契沖の創見とされている説と同様の見解を既に示しているものもあり、それも一、二にとどまらない。

また、二の事項については、一の注釈を通して示される著者の和歌観とともに、当代の儒学者の古典享受のあり様を考察するにあたって資する点が少ないであろう。本書については、既に津田修造氏が「木下長嘯子資料雑編（一）」（『江戸時代文学誌』二、昭五六、一二）において、長嘯子関係の記事を抄出、翻刻されているにもかかわらず、あえて全文を翻刻しようとしたのも、そうした本書の意義を認めてのことにはほかならない。

なお、本書については、拙稿「澹庵歌話」について——契沖への道——（『文学』一九八三、四）をあわせて参照していただければ幸いである。

二、解題

本書は、宮内庁書陵部蔵の写本（請求番号——鷹四二六）以外、知るを得ない。今回の翻刻も同書によるもの、以下、その書誌の概要を記しておく。なお、本書の書誌については、既に津田修造氏による報告（前掲論文）があるが、筆者の実見を交えて記せば、次の通り。

装訂 袋綴一冊。縦29・0×横20・5cm。

表紙 縹色の洲浜型文様

外題 表紙中央に「澹菴詞話 全」と打つけ書。

内題 巻首に「澹菴歌話」。

本文 各面十行。本文同筆の訂正、削除、書入れ多数。初丁より22丁

ウラまで、朱で読点・濁点を打ち、固有名詞に朱引。以後、少

数ながら墨筆による濁点が見られる。

紙数 墨付85丁。遊紙なし。

奥書 裏表紙の見返しに次のようにある。

辛子年初秋従忠順卿借用令新写早

甚態切之書也 通善朝臣調畢

甲寅四月六日本紙者類失早(朱)

(花押)

蔵書印 「鷹司城南館図書印」「宮内省図書印」

以上にいささか付言すれば、(花押)は鷹司政通のもの。書陵部備付の図書カードには、「鷹司政通ノ奥書」と記されている。書写者の「通善朝臣」は、梅溪通善をさすこと、同じく図書カードに「梅溪通善写」と見える通り。

なお、「辛子年」は不審で、拙稿では、

維新資料編纂会編『華族略譜^{稿本}』によれば、通善は、文政四年(一

八二二)七月に生まれ、明治三二年(一八九九)一月薨去、もし

「辛子」を「庚子」の誤りとすれば、天保十一年(一八四〇)の書

写ということになるうか。

と記しておいた。これは「子年」のうち考えられる上限を記したまでであつたが、書陵部の図書カードに「壬子(嘉永五年)欵」とあるように、千支の順からいっても、「壬子」の誤りである可能性がきわめて強いと考えられる。ちなみに、宮内庁書陵部蔵『幽斎翁問書』(二六六・三四二)にも、

従忠順卿借用以通善朝臣令新写畢

辛子初夏

(花押)

と、本書同様の政通の奥書が見えるが、この「辛子」について、土田将雄氏は、「壬子で、嘉永五年であろう」と述べている(『細川幽斎問書』解題)。「上智大学・国文学論集」16、一九八三、一。また、「甲寅」は、嘉永七年(一八五四)でもあろうか。とすれば、「四月六日」の日付は、その年の京都大火をさすとも考えられよう。

ところで、本書が三宅澹庵の著述にかかることについては、表紙見返しに、

三宅正堅 字子柔号澹菴堀正意門人 越中司儒者

堀正意、^{下冷泉政為卿三五集碧玉作者}之門人、^{正意門人澹庵}

凡同四代、^{正意ヲ本}大倉好齋申也

惺窩門人長嘯子門人道春、^{正意ヲ本}門人正意、^{正意門人澹庵}門人正堅也

とある記述があるのみだが、前掲拙稿で、『三宅正堅書入本万葉集』(お茶の水図書館蔵)との照合をもとに論じた通り、澹庵の著述と認めてさしつかえない。また、前掲拙稿ではふれ得なかつたが、本書中に多数見える書入れや頭書等も、澹庵のそれをそのまま写したと考えられる。た

とえば、(7ウ)8オ)の書入「日本紀第十五弘計天皇曰、倭者彼彼茅原
浅茅原弟曰僕是也、(中略)弟曰僕者、頭宗天皇之御自称、仁賢天皇之弟
之由歟」は、「三宅正堅書入本万葉集」(以下「書入本」)にも、卷一、六
五歌の条に「卷十五(中略)倭者彼彼茅原浅茅原弟曰僕是也云云、是亦
頭宗為仁賢天皇之弟故也」と見え、また、(28ウ)の書入れ「渡辺ヲワタ
ナヘトモワタノヘトモイヘル類ナリ」も、「書入本」卷十六、三八八六歌
の注に「渡辺読和多奈敏、読和多能敏、同詞也」と見える。あるいは、
(46オ)の頭書で「万葉集」卷三、三三三三歌を引き「礼器云、曲礼三千、
註疏、曲猶事也、シカレハ曲々ハ事々也」と記すが、これも、「書入本」
同歌の条に、「礼器云、曲礼三千、註疏、曲猶事也、然則曲曲猶言事事也」
と見える、等々。以て、書入や頭書等も、澹庵自身のものかと判断して誤
りはあるまい。さらに、訂正や削除も、その内容からいって、大部分は、
書写時、もしくはそれ以後のものとは考え難く、澹庵の稿本のかたちを
おおむね忠実に伝えたものと考えられるのである。

三 凡 例

一、片仮名・平仮名は通常のそれに改め、漢字は、原則として通行の字
体に改めた。ただし、「万葉集」の和歌の表記は、それが本文で問題
となることもあるので、底本の文字に近い字体を残すことにした。
また「躰」と「体」、「寝」と「寐」など、あえて統一しなかった文
字も若干ある。

一、「」「」等々は、それぞれ「コト」「トモ」「シテ」とした。

一、底本に見られる書入・訂正・削除等については、次のような処置を

とった。

①書入については、()を付して、できるだけ本文中に挿入した。そ
の場合、○を付して挿入位置が示されているものはそれに従い、示
されていないものは、私に判断して入れた。(その区別の注記は省略
した)。なお、本文中に挿入することが困難な場合は、[90]等の場合を
除き、各章段の末尾に掲出することを原則とした。

②頭書は、各章段の末尾に掲出した。

③訂正箇所は、ミセケチを含めてすべて省き、改められた本文を()
を付して掲出、削った本文は「注記」に記した。なお、別案の語句
を併記してある場合は、併記のかたちで残した。

④抹消した本文も、同様に省略、「注記」に記した。

⑤語句や文の順序を変える指示のあるものについては、「一・二・三
……」「上・下」等の記号のものは、そのままとし、印刷上困難なも
のは、底本の指示に従って順を改めたかたちで掲出し、「注記」に記
した。

一、本文中の和歌は、行かえをして記すものについては、二字下げに統
一した。一行書きか本文に続けるかは底本のままとした。

一、22丁ウラまで、朱による読点があるが、すべてにわたって新たに句
読点を加えた。その場合、他書等からの引用部分は読点で続け、そ
の最後に句点を使用、引用部分を明確にするようにつとめてみた。

一、清濁の区別は、底本の濁点をそのまま生かし、新たに加えなかった。

一、22丁ウラまでの朱引、漢文の音訓符号等は省略した。

一、各丁のオモテ・ウラの終わりを、「(1オ)」、「(1ウ)」のように示した。

一、章段の最初に通し番号を付した。

なお、本書の翻刻を許可された宮内庁書陵部にお礼申し上げます。

澹庵歌話

[1] 詩者志之所之也、ヤマトウタハ、人ノ心ヲ種トシテトイヘレハ、カラノヤマトノサカヒコソヘダ、ラメ、時コソカハルベケレ、同ジ人ノ心ヲモテ、オナジ世ノ月花ヲナガメンニ、ナシカハ同ジカラザラン。詩ト歌ト相通ヒタル事、ツネニシモハベリ。フルクヨリ白氏文集ヲコソ、歌ノ意ニカヨヒテ、歌ヨム人ノ見ハヤシ、モテナスコトニスレド、杜少陵ガ詩コソ、歌ニモカヨヒ、取用ベキ事多カレト、長嘯子ハ申サレシ。景ニフレ、情ニ感ゼバ、必シモナニガシノ集、クレカシノ詩ニ限ルベキコトカハ。モトヨリ其詩ヲ用テヨミイデタラン歌ノ同ジキハ、イフニシモオヨバズ。ヲノヅカラニ相似タラン歌コソ、今ヒトシホ興アリテオボユレ。少陵ガ尚、憐、終南、山、回首清渭、浜トイヘルヲ、大江嘉言カ「(1オ)

思出モナキ故里ノ山ナレドカクレユクハタアハレナリケリ トヨメルニ同ジト惺齋先生ノタマヒシト、サル人カタリキ。又少陵ガ層巖余、落日、草蔓已、露多トイヘルハ、普光院殿歌、

異山八月ニナルマデタ日影ナラコソ残レ富士ノ高岑ニ、又、落花

遊糸白日静 トイヘルハ、

久堅ノ光ノドケキ春ノ日ニシツ心ナク花ノチルラン トヨメルニ

意オナジカルベシ。

[2] 〇季義山ワカ、リシ時、アソビアリキシテ、アル逆旅ニヤドリ取ケルニ、オリフシアルジマウケシテ、人アマタツドヘリケレバ、同ジムシロニ呼テゲリ。モトヨリ其義山ナルコトヲシラズ。酒タケナハナル時ニ、ヲノノ、木蘭花ノ詩ヲ賦シテ興ジアヘリ。義山イト後ニツクリテ曰、洞庭波冷、曉侵雪、日日征帆送、遠人、幾度、木蘭「(1ウ)舟上望、不知船是此花身。人々コレヲ見テ、大ニ驚キアヤシガリテ、誰ニカワタリイマス、ヘバ、スナハチ義山ナリケリ。誠ニ船材ヨリ花ヲ思ヒ出セル趣造、イトオモヒカケズ、メツラシクモ、アリガタクモ思ヒタマヘルニ、惠慶法師歌云、

奥山ニタテラマシカバ渚コグ船材モ今ハ紅葉シナマシ ヨク詩ニ似タルモノ哉。我国ノ歌、モロコシノ詩ニイカデヲトリハベラン。

[3] 〇拾遺集、能宣ニ車ノ軻ヲコヒニツカハシテ侍リケルニ、侍ラスト云テ侍リケレハ、藤原仲文、

鹿ヲサシテ馬トイフ人アリケレバカモヲモオシトオモフナルベシ此歌、シカラサシテトヨムベシ。カラサシテトヨムベカラズ。カノコナドハヨメレド、カトバカリヨメルハマレナリ。ミナシカトヨメルニヤ。ヤガテ此カヘシニ、能宣「(2オ)

ナシトイヘバオシムカモトヤ思フランシカヤムマトソイフベカリケル 是モシカトヨメレバ、仲文ガ歌、シカトヨメルコト疑ナカルベ

シ。史記趙高指鹿トイヘル古点モ、カトヨメルツタヘモハベラス。コレモシカトコソヨムベケレ。長嘯子モ、シカラサシテトゾ申サレシ。源氏物語ニモ、シカラ馬トイヒケントコソカケリケレ。

[4] ○春ノ初風・秋ノ初風ナドヨメル、倭詩ニハ常ノ事ナレド、カラウタニハ初雪・初日ナドハアマタキコエテ、初風ハメツラシキニヤ。唐、太宗首春詩、初風飄帶柳、晚雪間花梅、頓阿、雪中梅トイフ題ニテ

笑マジル花カトゾミル紅ノ濃染ノ梅ニフレル白雪 此詩ノ下旬ニオナジ。

[5] ○叢林詩僧ノ作レリトテ人ノ語リシ、工夫若似思君意、成仏須先老釈迦 拾遺集二(2ウ)

恋スルニ仏ニナルトイハマセハ我ヤ浄土ノアルシナラマシトイヘルニ同ジケレド、ハルハ詩ハラトリニタリ。

[6] ○僧希叟詩、一心只在梅花上、凍損吟身也不知。古今集歌ニ

サク花ニ思ヒツクミノアザキナサ身ニイタツキノイルモシラズテイタツキハ勞ノ字也。イタハリトモヨメリ。同事也。ソレラ鳥ノツグミ、矢ノイタツキナドマデヒキイデ、イフハワロカナリ。

[7] ○見恋ト云題ニテ定家卿

ウシツラシ浅香ノ沼ノ草ノ名ヨカリニモ深キエニハムスバテ
為家卿
ヨシヤタ、葦屋ノ里ノ夏ノ夜ニウキテヨルテフ其名許ハ 前ノ歌

ハ花ガツミヲヨミ、後ノ歌ハウキミルヲヨメリ。イツレモ見ト云コト

ラフクマセテ、トリハニオカシク(3オ)コソ。サレバ、是父是子ナレバヤ。俊成卿ハ、始ニウシツラシトヲケル、艶書ナドニハサモハヘリナン、歌合ナドニハ、タハフレゴトノ様ニヤトイヘル。実ニサルコトニテ、又、万葉集ニハ、ウケクツラケクナド、処々ニツマケヨミニタレバ、ソレニウシツラシト決シヨママモ、サシテハ、クルシミハベラザルニヤ。続古今集ニハ、両首トモニ撰ヒ入ラレタリ。

[8] ○唐ノ慈恩寺ハ、長安城ノ外郭、朱雀門ノ東第三街、皇城門ノ東第一

街、進業坊ニアリトカ。隋ノ代ニハ無漏寺トナンイヒケル。唐ニナリテ、武徳ノ初、コトハクニアレハテニケルヲ、貞観二十年ニ、高宗皇帝、其此ハイマダ春宮ニオハシケルガ、御母文徳皇后ノ御為ニ、オボシタチテ、重テ斧ヲ運サレケレバ、慈恩ヲモテハ、名トセルナリ。

是ヨリ先、貞観二年ニ、玄奘法師五印度ニワタリテ、如來ノ舍利一百五十粒、梵策六百五十(3ウ)七部ヲトリエテ、同キ十九年ニ、ミヤコニカヘリマウキ。又、ハシメハ洪福寺ニシテ、翻訳ナドシテ、慈恩寺ナリニタルニ及テ、スナハチスハリテ、住持ノ法師ト定リニケル。

永徽三年ニ、玄奘又寺ノ西院ニ於テ、浮図塔ヲタテタリ。六級ニシテ、高サ三百尺ニ及ヘリ。内ニハ梵本諸經數十匣ヲオサメ、前ノ東階ニハ、太宗皇帝ノ撰セシ三藏聖教序ト、高宗皇帝ノ述聖記ト二ツノ碑ヲ立タリ。サレハ、南ハ玉按・霧窟ノ諸峯ニ対シ、東ハ曲江ニソミ、北ハ丹鳳門トムカヘリ。西ニハ又瀑布アリ。竹樹森邃ニシテ、京城ノ勝境タリ。天寶年中ニ、高適・薛據・儲光羲・岑參・杜甫ノ人々、此塔ニ登リテ、各長編ノ詩ヲ賦シテ、千里ヲ眺望シ、尽日ニ逍遙セリ。何レ

モ盛唐名匠ノツドヒナレバ、イカバカリオモシロクモ、タノシクモハ
ベリケン。其詩ドモノ世ニ伝リテキ、ツゲル、今(4オ)ダニ眼モ高
ク、氣モ爽ニナリテ、サナガラ塵表ニアルコ、チスルヲ、マイテヤ、
マノアタリ其境ニ臨ミテ諸公ノ様体、吟案ノ気色ヲミンニハト、イト
ナツカシ。其詩ノ中ニ、杜甫カ云、高標跨アノコソニ蒼穹ソウキウ、烈風無レ時ト休
ムムト、俯視ムコト但レ一氣ナナツ、焉能ク弁ク皇州ワ。高適云、秋風昨夜至、
秦塞多ク清曠、千里何シ蒼々タル、五陵鬱ト相望シ。岑参云、秋色從レ西
来、蒼然トシテ滿ツ関中ニ、五陵北原ノ上、万古青濛々ト。イツレモ同ク
ヨク景象ヲ形容セル中ニ、子美ガ一氣ノ一聯ハ、緑兒ガ乱後ヲイヘリ
トイヘル註解モ侍レド、サマデ思ヒヨラデモ、高キニ登リテ、遠ク都
ヲナガメヤランニ、イツニテモ景氣ノカクハ侍リナンカシトゾオボユ
ル。大江正言、長楽寺ニテヨメル歌、

山タカミ都ノ春ヲミワタセバタヒトムラノカスミナリケリ 詩
ニモオサ(4ウ)ヲトルマシキヤ。

[9] ○或方ニテ人オホク集リテ、詩歌物語ナドアリシ次テニ、万葉集ニ

梅花チラマクオシミワガソノ、竹ノ林ニウグヒスナクモ ナドヨ
メルヨリ、倭歌ニハ竹ニ鶯ヲヨムコト、常ノ事ナリ、カラノウタニハ
イツレカト問レケレバ、忽ニ覚悟セト人皆申ケルホドニ、老杜カ詩、春
日鶯啼ツ脩竹ノ裡、仙家犬吠ク白雲ノ間トイヘル句侍リ、コレハ、晋ノ孫
綽カ蘭亭ノ詩、啼鶯吟シ脩竹ニ、游鱗戲シ瀾澗ニトイヘルヲ取用フトゾキコ
エシト申テ侍リケレバ、ゲニサコソ侍リヌレトテ、一座ヨロコビアヘ
リケリ。老杜ガ集ハ世ニオホクテ、書ヲヨムバカリノ人、此句ヲオボ

エ又ハマレナルベシ。サレド博聞強記ノホマレアル人モ、時ニアタリ
テ、アサハカナルコトヲモ、カニカクニ案ズレド、オモヒイデコヌコ
トモ、アルナラヒニコソ。詩歌ノミニカギルベキコトカハ。ソレニ
事(5オ)ノ失念ニヨリテ、イサヤモノシラヌ人ナメリナドソシラン
ハ、コレゾマコトノモノシラヌ人ナメリカシ。

[10] ○クヤ(ト)マツユフグレト今ハトテカヘル朝トイツレマサレルト

元良ノミヨコリ、ノタマヒツカハシケルカヘシ、藤原ノカツミ
ユフクレハ松ニモカ、ル白露ノオクルアシタヤキエハハツラン
又、待宵帰朝イツレカアハレハマサレルト、近衛河原ノ大宮ヨリオホ
セケレバ、小侍従、

マツヨヒニフケユク鐘ノ声キケバカヘルアシタノ鳥ハモノカハ
此フタウタ、カレハサリケリ、コレハサラズトイフベカラズ。其時ニ
シモアタリテ、心ニカナシトオモハ、待モ帰モ涙ハヒトツ涙ナルベ
シ。其後、千五百番ノ歌合ニ、左勝、小侍従、

タノメツ、コヌ夜モ侍シ古ヲシノブベシトハ思ヒヤハセシ 顕昭
法師判云、左(5ウ)歌ハ、タノメツ、コヌヨアマタニト、ヨミラケ
リ、シノフル事ヲ思ヒテ、我身ニシラレシ古ノ人ノツラサ、思ヒ合セ
ラレタルカト、ヲシハカル、モオカシクヤト。誠ニオカシクアハレナ
リ。

[11] ○黄太史 岳陽樓ノ詩、箇裏宛然多事在、世間遙望ニ但雲山。岑嘉

州カ太白中峯胡僧ノ歌、山中ニ有僧人不レ知、城裡ニ看レ山ノ空ノ黛色。王
右丞 桃源行、峽裡誰知有ニ人事、世中遙望ニ空雲山。コレハ彼

ニアリテ、此ヲオモヘリ。定家卿ノ歌、

タカ春ノ雲ノナガメニクレヌランヤドカル花ノミネノコノモト

トヨメルニオナジ。皇甫冉、曾山送別云、凄々遊子若飄蓬、明月清樽祗暫同、南望三千山、如黛色、愁君客路在、其中、

コレハ此ニアリテ彼ヲ思ヘリ。家隆朝臣歌(6才)

アケバ又コユベキ山ノミネナレヤ空行月ノ末ノ白雲 トヨメルニ

オナジ。

〔12〕○万葉集、正述心緒一歌百四十九首ノ中ニ、

緑兒之爲杜乳母者求云乳飲哉君之於毛求覽 スモリメノト、イ

ヘル、諸鳥ノ卵ノ内ニ、カヘラテ一ツ巢ニノコルヲ、スモリトイヘリ。

文字ニハ巢ヲ守ルト云ニヤ。又皆ノ雛ハスタヂユクニ、ヒトリ漏テノ

コルト云ニヤ。ソレニ、人ノ子ノヲロカナルモノヲ、俗ニスモリトイ

ヘリ。此歌ハ此義ニハヨモ侍ラジ。小兒ヲカシツキハグ、ムヲ、モリ

メノト、云リ、サテスノ字ハ、(イヤシキモノヲスコトイフタクヒニ、

スモリメノト、ハ、下賤の乳母也、モリスルモノヲイフナリト、ア

ルモノニカキタレト)、コレニテモ一首ノコトハリ、イカニゾヤオボ

ユ。今案ニ、杜当作社。同卷、悲別歌云、

時風吹飯乃瀧爾出居乍贖命者妹之爲社、コノ妹之爲社ト、緑兒

(6ウ)之爲社ト、句ガラモ、文字モ相似タレバ、伝写ノ誤リテ、社

ヲ杜ニナセルモノニコソ、トオモホエ侍ルナリ。乳母ノ字ハ、メノト

トモ、メナトモヨマセテ侍レトモ、日本紀ニ、チオモトヨミテ侍リ。

此歌モ、チオモトヨマセテ、

ミトリコノタメコソチオモハモトムテヘチノムヤキミガオモモト

ムラム ト点ジマホシク侍ルナリ。サニテハ、下ノ句ノ、乳ノムヤト

イヒ、母モトモトイヘルニムカヘテ、アキラカニキコエテモ侍ルベシ。

タトヘバ、コレハコモタルヤモメナトノ、ワカヤカナル人ノモトヨリ、

マメニマレ、アダニマレ、イヒヨレリケルカヘシニ、ヨメル歌ニコソ、

乳母ハ、ミドリコノタメニコソモトムトイヘ、君ハサモアラヌ年ノ人

シテ、オモ、トムルハ、イマタチノメルニヤト、我身ヲチオモニナシ

テ、カツハタハレ、カツハオシヘリテイヘルナメリ。ヤガテ此次ノ歌

ニ 悔毛老爾來鴨我背子之求流乳母爾行益物乎 テヘハ、トイヘ也。]

(7才)詞之詳略也。

〔13〕○同集第一人麻呂歌云、マカリキ 膠木乃彌繼嗣爾天下所知食之乎 按、スレニ 韻

書、ニハ 膠居尤切、木下曲也。詩南有マカリキ 膠木。此云麻賀利岐、亦

云多礼末我里岐。又、武彪、力昭、二切、木名、此云都紀乃

岐。シカレバ膠木ハ、マカリキトモ、ツキノキトモヨメリ。此歌ノ古

点ニ、マカリキトヨメルハ、イトモコ、ロエガタシ。下ノ句ニ、イヤ

ツギノキノイヤツギノキナドモヨメル、アマタ、ヒミエタリ。

ガノキノイヤツギノキナドモヨメル、アマタ、ヒミエタリ。

(万葉第三赤人歌、三諸乃神名備山尔五百枝刺繁生有都賀乃樹乃彌

繼嗣尔玉葛絶事無)

〔14〕○同卷(慶雲三年丙午幸于難波宮時)長皇子御歌

嚴打アラレ松原住吉ノ弟日娘ト見レドアカヌカモ 此嚴打ノ二

字ヲ、ハヤクヨリアラレフル、ミゾレフリナド点ゼリ。集中ニ、零ノ字、落ノ字、降ノ字、」(7ウ)下ノ字等ハ数処ニフルトヨマセタレド、打ノ字ヲフルトヨメル処ハ、又外二見エズ。韻書ニモ、フルトヨマン字訓モ侍ラズ。霰ハ雪ナドニハヤウカハリテ、音タカクテ、モノヲウツヤウニナンキコユレバ、アラレウツトヨマンコソ、メヤスクヨロシカルベケレ。義訓ナドイヒテ、フルトヨマンハ、モテマハリテムツカシ。古事記木梨ノ輕太子ノ歌ニモ、小竹葉^ヤニ字都ヤアレノトゾ侍ル。又アラレウツアラレマツバラトウケタレバ、ミゾレトヨメルモイカニゾヤ。

(安良礼松原ハ(アラ、カナル松原トイフ義ニテ)、必シモ名所ニアラサル歟。日本紀ニアラ、松原トヨメルハ、菟道ニテノコトナリ。

(アラレ、アラ、通音同事也)。サレハ、カクヨミヲキヌレハ、ノ

チニハヲノツカラ名所トナリテ、歌ニモサヨムコトニコソ。冬モ今日数ツモリノウラサヒテ雪ニモナリヌ安良礼松原 ナトモヨメリ。弟日娘トハ、只ヲトヒメト云コト也。日本紀第十五弘計天皇

曰、倭者彼彼茅原浅茅原弟日僕是也。」(7ウ) 釈云、彼彼者、其

所也、茅原以下処名也、弟日僕者、顕宗天皇之御自称、仁賢天皇

之弟之由歟。万葉同卷、太上天皇幸于難波宮時、清江娘子進長皇

子歌、草枕客去君跡知麻世婆岸之恒布尔仁宝播散麻思乎 太上天

皇ハ持統天皇也。清江娘子ハ姓氏未詳、即住吉弟日娘ト同シ人也。

歌ノ意ハ、松原ヲ娘子ト共ニ見ルヨシナリ」(8オ)

(15) ●春ノ日ニハレル柳ヲ取持テミレバミヤコノ大路オモホユ 大伴家

持越中守タリシ時、ヨメル歌也。時節ニ感シテ、京都ノ繁華ヲオモヒヤレル、マコトニ、ミルカサマニモヨクイヒオホセタリ。唐ノ孫逖、

山陰ニ客タリシ時、城西楼ニテ詩ツクル、其落句云、一見湖邊楊柳風、遙憶青々洛陽道。」(8オ)

[16] ○後鳥羽院ノ御時、春夏ハフトクオホキニ、秋冬ハカラビホソク、旅

恋ハエンニヤサシク、御ミツカラモヨマセタマヒ、人々ニモツカフマ

ツラセタマヒケル、コレヲ三体倭歌トイヘリ。壬生二位、夏ノ歌ニ

鳥羽玉ノ夜ハ明ヌラシ足曳ノ山子規一声ノ天 ワツカニ三十一字

ノ間ニ、二処マデ、ムバタマ、アシビキノマクラコトバライレテ、歌

ノタケヲアラセテ、高ク大ニヨメルナリ。カク不用ノ詞ヲ用テ、ソレ

ニテ其体ニヨミナセル、キハメテ上手ノワザナリ。シカモ此体、万葉

集ニモトツケルニヤ。

ヌバタマノ夜ハフケヌラシタマクシケニ上山ニ月カタフキヌ

[17] ○後柏原院ノ御宇ニ、大内防州刺史多々良義興上洛シテ、西芳寺ニマ

カリテ、日吉山ヲ眺テ」(8ウ)

カクハカリ遠キ吾嬬ノ富士ノ峯ヲ今ソミヤコノ雪ノ曙 天聴ニ及

シカハ、ヤサシトテ御製ヨリ初テ人々と答タフヒケリトナン。此歌ハ

伊勢物語ニ、不尽ノ山ヲ見レハ、五月ノ晦日ニ雪イト白ウ降レリ。其

山ハ爰ニ譬ハ、比叡ノ山ヲ二十許重ネ上タラン程シテトイヘルヲ思ル

ニヤ。世俗ニ都ノ富士トハ比叡山ナリト思ヘル、僻事也。拾遺集

ワカコヒノアラハニ見ユルモノナラハ都ノ富士トイハレナマシラ

トヨメルハ、定家ノ

クル、夜ハ衛士ノ焼火ヲソレトミヨ室ノ八嶋モ都ナラネハ トヨ
メル類也。林羅浮、二十二歳ノ時初テ惶齋先生ニマミエラレテ後、柳
宮ニ仕奉テ駿城ヨリフミヲ送り奉ラレケルニ、先生

フシノ雪ニ憶モ出ヨ見初テシ二十許ノ山ノ端ノ月 誠ニ用事〔9
オ〕入化トハ、カ、ル歌ヲヤ申スヘカラン。

〔18〕古今集

マテトイハ、ネテモユカナンシキテユク駒ノ足オレ前ノ棚橋 或
鈔云、此ハ前ノタナハシノホトリニテ足カイオリ〔フシテ〕^①、シタヘ
トモカヘレル人ヲト、メテヨト駒ニ下知シタルナリ、橋ニ下知シテ、
駒ノ足ヲオレトミルハ、ナサケナキ也。又云、此歌、誹諧ニ入りヌヘ
ケレト、恋ハワリナクイヘハ〔其〕^②ノ方ニテ誹諧ニハアラヌ也、カ、
ルワロキ歌ノ入レルコト、比集ノ会釈、勅撰ノ惠命也云々。イカ、。
棚橋ハ〔其足ナトモヨハクテ、高ク棚ノヤウナルキレ橋也〕。橋ヲ棚ノ
コト、高クシモカケタレハ、普通ヨリハアヤウクコソ。万葉ニハ、広
橋ヲ駒行ナヤミナトサヘニヨメルヲ、マイテ若タ、足ヲカイオルハカ
リノコトナラハ、イツコニテモアリナン。ワキテ橋ト取イテヨマンニ
ハ、橋ニ下知シタル義コソシカアルヘケレ。後撰〔9ウ〕集ニ、トマ
レト思フ男ノ出テ罷リケレハ、

シキテユク駒ノアシオルハシヲタニナトワカヤトニワタサ、リケ
ン〔トヨメルモ〕此歌ヲ思ヘリ。又、此歌ノワロキトハ、詞姿ノ宜カ
ラヌトニヤ。古事記・日本紀ニ載タル歌ハ、神ノヨマセタマヘル御歌
毛相マシハレ、ハ、トカクイハンモイトカシコシ。万葉集ヨリハシメ

テ、三代集ニ及ヒ、アカリテノ代ノ歌トモハ、オホヤウ此躰ノミコソ
オホカリケレ。歌ハ必姿詞ノエンニウツクシキ〔ヲシモ〕^③イフヘキコ
トカハ。詩ヲ選ヒ、歌ヲ集ルモ、アルハ心ハサマテナラネト、詞ノ至
レルヲトリ、アルハ姿ハアシケレト、心ノ深キヲ用ルコト、カラモヤ
マトモ同シカルヘシ。タトヘハ姿詞〔ノ具シテ〕^④心ノ正カランハ、周
ノ大姒^⑤ノ容貌才徳兼備セルカコトシ。姿ノミアリテ心ノワロキハ〔夏
ノ妹喜、殷ノ姐巴カタクヒ〕^⑥、姿ハアシケレト、心ノスクレタルハ、
齊ノ鍾離、漢ノ孟光カトモカラナルヘシ。此歌、其人ヲシモサ、テ、
シキテ〔10オ〕ユク駒ト駒ニカケタルモイトオシ。(或人シキテユク
人ノ駒トイレテミルヘシトイヘル。〔ソレハイヘルニモ〕^⑦モトヨリ人ナ
クテ駒ハカリナラハ、ナニシカ足オレトモイフヘキ)。トニモカクニモ
ワリナク切ナル心、アハレニナサケフカキ歌ナルベシ。那呵灘ト云歌
曲云、聞^⑧歎^⑨下^⑩揚州^⑪、相送^⑫江津^⑬、願^⑭得^⑮高槽^⑯折^⑰、交^⑱レ郎^⑲
到^⑳頭^㉑還^㉒。明^㉓鍾^㉔惶^㉕評^㉖曰、不^㉗祥^㉘語^㉙、不^㉚好^㉛〔心〕^㉜、一^㉝片^㉞深^㉟情^㊱在^㊲。此^㊳
トイヘリ。歎トハ、思フ人ハ我^㊴ヨロコフトコロナレハ、思フ人ヲサシ
テ歎トモ、所歎トモイヘリ。スナハチ郎ヲイフ也。歎ト郎ト同シキヲ
一首ニイフハ、古詩ノ風ナリ。和歌ニモ此躰アリ。万葉卷十云、吾^㊵
瀬^㊶子^㊷乎^㊸莫^㊹越^㊺山^㊻能^㊼喚^㊽子^㊾鳥^㊿君^㊿喚^㊿變^㊿瀬^㊿夜^㊿之^㊿不^㊿深^㊿刀^㊿爾^㊿。瀬^㊿子^㊿ト君^㊿ト同也。拾^㊿遺^㊿
ニハ、〔莫越山ヲ〕那良志ノ岡ト〔ナシ、刀爾ヲ時ト改メテ〕^㊿赤人ノ歌
トセリ。サテ舟路ヲユカン人ノカトテニ、サホモロモオレヨナトイハ
ンハ、ヨニイマ^㊿シク、サカナクヨカラヌコ、ロ、コトハソカシ。
然モ、アカヌ、オシト慕ヘルフカキナサケハ、コ、ニシモアルナルヲ

ヤ。古今集ノ歌〔モ亦此意ナリ。〕(10ウ)

(誠ニクカユケハ駒ノ足オレヨトイヒ、ウミユケハ櫓モカヒモオレ

ヨナトイフハ)

[19] ○本歌ニ義ヲモタセテヨメル歌、本歌ヲ知レバ、ソレトキコエ、シラ

ザレバ、何トモキコエガタキモノナリ。京極黃門ノ歌ニ、

秋ヨタマナガメステ、モ出ナマシ此里ノミノユフベトオモハマ
コノサトノミノユフベト思フトテ、イカデ眺（マヤ）拾テハイデントスラン
ト、意得ガタシ。本歌ニ、

サビシサニヤドヲ立出テナガムレバイツクモオナジ秋ノ晚闇 サ

テコソ此里ノミノサビシキユフベナラネハトハキコエテ侍ルナレ。先
頃（11オ）羅浮山人・杏庵老人ナド、ウチツレテ（東山翁長嘯カリ）

トフラハレケルニ、ヒサシウアヒ見デ、アヒミケレバ、様々ニ興アリ
テ、詩ズンジ歌ヨミナド、コ、タオモシロカリケルトゾ。其時ノ題、

草花露滋トイフコトヲ、長嘯子、

今日ゾ復昔ノツラニトブ鴈ノ泪ハラカズ芽子ノフスマデ 此ハ古

今ノ歌

鳴渡ル鴈ノ涙ヤラチツランモノオモフヤドノ芽子ノ上ノ露 定家

卿ノ歌

カリガネノ鳴テモイハンカタゾナキ昔ノツラノ今ノユフグレ 此

二首ヲ本歌ニテ、鴈ノ涙ノ、萩ノ露トハナレルトイヘルニヨリテ、露

ヲバ本歌ニモタセテ、祇今ノツユハ、鴈ノ泪ニハアラス、只ヨノツネ
ノツユナリトキコエサセ、又、萩ノフスマデトイヘルニ（11ウ）テ、

題ノツユシゲシノ滋ノ字ヲコトハレリ。久クワカレテ、モノオモフホ

ドコソ、鴈ノ涙ヲ落サメ、今又昔ノゴトクツラナレバ、涙ハラカズト
鴈ニヨソヘテイヘルナリ。

[20] ○小侍従ハ、八幡ノ檢校垂井光清法印ガ小大進ニカヨヒテ、ウマセタ

ル女也。一腹ノ弟成清法印ハ、千載・新古今ノ作者、其子幸清ハ新古
今已下ノ集、処々ニ入タリ。小侍従カ異母兄勝清ヲ田中ト号シ、成清
ヲ善法寺ト号ス。今ノ両家ノ先祖也。姉ヲ美濃局トイフ。其外兄弟オ
ホカリ。父光清歌、金葉集ニイレリ。建武ノ比、入江ノ通清ガムスメ、
義詮將軍ノ夫人トナリテ、義満ヲ産ス。紀良子トイヘリ。後隱居シテ
尼トナリヌ。曇華院ノ開山也。善法寺ノ末ニ、平等王院トテ侍リ。金
龍寺へ（12オ）花見ニマカリテ

山桜ミヌ世ノ春ノユフベマデ心ニウカブ鐘ノ声カナ 能因ガ歌ヲ
オモヘルトゾ。此人ノ姪ニ西竹娘トテ歌人アリケリ。諒闇ナリシ時、

及ナキ雲ノ上ナルアハレニモアメガシタトテヌル、袖哉 イツノ

時ニカ

人ナラバウキ名ヤタ、ンネヌル夜ノワガ手枕ニ通フ梅ガ香

[21] ○躬恒、紅梅ノ花ヲヨメル歌

紅ニ色ヲバ易テ梅花香ゾコトク、ニニホハザリケル 僧子元紅白

梅詩、日斜 照見 高低影、風過 難分 兩様、香。

[22] ○人ノ身マカリタランニ、悼ノ物トテ、歌ニテモ発句ニテモ、誹諧ス

ルコソ、無下ニヨラヌ事ナレ。早く其例アリトイフトモ、ヨキ人ハ必
スマジキコトナリト、肖推（12ウ）寺焉耳申侍リキ。

[23] ○新古今、定家卿、歌

ユフグレハイツレノ雲ノナゴリトテ花橘ニ風ノ吹ラム 実ニ風ノ吹タルニハアラス、甚ニホフトイフ事ヲヨメルナリト、長嘯子カタラレキ。幽艶無^キ限歌ナルヘシ。

[24] ○夢窓国師ノ歌トテ、人ノカタリシ。

シツカナル深山ノ奥モナカリケリ本ノ心ヲツレテスム身ハ 此モトノ心ヲ、妄心ト真心トニ見ル人侍リ。妄心ヨリイヘバ、身ハ山フカクコモリヌレド、心ハモト世ニアリシ時ニカハラネバ、イツコニテモシツカナラヌナリ。杜荀鶴贈^ル僧^ニ詩、只恐^ル為^レ僧^心不^レ了[、]為^レ僧^心了[、]總^ニ輸^レ僧^ニ。莊子曰、中山公子牟、身^ハ在^ハ江海^ニ、(13才)之上^ニ、心^ハ居^ハ乎^魏闕^ノ之下^ニトイヘル類也。真心ヨリイヘハ、清淨本然ノ心ナレハ、山林ニスムトテモ、アラタメテシツカナルコトモナク、

市朝ニマジハルトテモ、ヒカレテサハガシキコトモナキナリ。陶徵士詩、結^ニ廬^ヲ在^ニ人境^ニ、而^モ無^ニ車馬^ノ喧^レ、問^フ君^何能^レ爾^心遠^地自^ラ偏^{ナリ}。オヨソ人、清閑幽靜ノ地ニイタリテ、洒然トシテ心悦^ハ、ヨノツネ必^ニ勞^ノ擾^ノ動作^ヲニ厭^ケバナリケリ。其トコシナヘニ心ノシツカナルニアタリテ、アラタメテシツカナルヲヨロコブ心アラシヤハ。蘇東坡詩、冰蠶^ハ不^レ知^レ寒[、]火鼠^ハ不^レ知^レ暑[、]知^レ閑^見閑^地、已^ニ覺^レ非^ニ閑^侶トイヘリ。化蝶翁ガ大林丘山之善^ニ於^レ人^也、亦^ニ神^者不^レ勝^{トイ}ヘル、亦此意也。

[25] ○劉伯倫カ酒徳、頌、喜撰法師カ菟道山ノ歌、一篇一首ニテ、其名世ニ高シ。イタツラニ多キニ誇リテ靡^シキヲ闕^シムマジキコトニヤ。喜撰

カ歌、今一(13ウ)首玉葉集ニ見エタリ。

[26]

源氏物語夕顔卷ニ、イト青ヤカナル蔓ノ、ハヒカ、レルニ、白キ花ゾヲノレヒトリ笑ノ眉ヒラケタルト書ケルハ、杜工部^{カハラフ}除^ニ瓠^架一^ニ詩^ニ、幸^ニ結^ニ白^花了[、]寧^ニ辞^ニ青^蔓除^一トイヘルヲ用ルニヤ、マタヲノヅカラニ合ヘルニヤ、イトヨク相似タリ。詩字大成村居^ニ詩^ニ、綠^ハ偃^魯桑^風外^葉、白^勻勻^魏瓠^雨余^花。此下ノ句、夕顔花ノコト(也)④。莊子ヲ用(タリミユ)⑤。

(14才書入) 白ツユノナサケヲキケルコトノハヤホノく、ミエシユフカホノ花オモカケカヨヒテキコユ。

[27] ○京極黃門ノ著述ナリト世ニ伝愚秘鈔鶴本ト云モノニ、源三位頼政ノ歌ヲ論シテ曰、

住吉ノ松ノコマヨリナカムレハ月落カ、ル淡路嶋山 此歌ヲ新古今撰侍シ時(14才)申出シテ、イカナレバ今マデ代々ノ勅撰ニモレケルヤラント、沙汰セシニツキテ、御不審アリテ、各考申ヘキヨシ勅定アリシカバ、松ノコマトヨメル詞、ワロキニヨリテナリト、人々申サレキ、是ヲハサテナニトカナラスヘキト仰下サレシ時、西行ハ松ノ木ノマヨリトラクベキニヤト申キ、愚老ハ松ノ隙ヨリトゾヨミタキト申侍リ、是ハイツレカヨロシキヤラン、サダメガタクソトイヘリ。誠ニコマノ詞ノワロキニヨレルニヤ、マタコトニ思ヘル所モ侍ルニヤ、新古今以後十三代ノ集ニモ撰殘サレタリ。抑此コマノ詞ノワロシトハ、木ノ間トノミ、昔ヨリイヒシキニケルヲ、今詞ノ余レルマ、ニ、ワリ

ナクノ、字ヲ除テ、コマトヨメル、モノタラハヌヤウニテ、イヤシクテツ、ニナン聞ユトナルベシ。サレド此詞、三位ノ初テイヒ出セルニモアラズ。万葉集、大伴家持歌二、

ウチナビク春トモシルク鶯ハ植木ノ樹間ヲナキワタラナン トヨメルニモトツケリトミエタリ。タトヒ万葉集ノ詞ナリトモ、ヨロシカラザルハ、ヒキイデトリモチフベカラズト、代々ノ(14ウ)先達イマシメアレバ、ゲニサニコソト思フニ、又一首ノシタテニヨリ、ツゞケガラニテ、イヤシクフルメキコハくシキ詞モ、カクレテヨキ歌トナリ、ユフニヤサシクミヤビタル詞モ、ヒカレテアシキ歌トナレルモノニコソ。カラノウタニモ、以^テ俗^ヲ為^レ雅^ト、点^シ鉄^ヲ為^レ金^トナドイフメリ。又、何ノ詞モ、ハヤクヨリイヒモテキツレバ、耳馴テキ、ヨロシク、今ハジメタル詞ハ、ミ、ダチテキ、グルシキヲ、ソモ又イヒツギモチユケバ、サナラヌコトモ侍ルニヤ。マタ、イカニイヒモテクレド、ワロキハワロキガマ、ナルモ侍ルベシ。此歌ニ於テ、コマト云詞ノ、サシテシモワロクモキコエヌヤ。隙ヨリトイヘレバ、打吟ズルニ、ツネサマニ、ヤハラカニヤサシクキコユルナリ。コマヨリトイヘバ、スクヨカニ、チカラアリテオボユ。前賢ノ沙汰シラケルコトヲ、後生トシテ、トカクオモヒイフハ、蚍^{クマアリ}蜉^ノ大樹^{ウツコカス}ヲ撼^ススタメシニ、ミツカラハカラザルコトノワラハシケレド、聊イブカシミオモヘルコトハ、如何ナレバ代々ノ勅撰ニモレケルヤトイヒ、御不審アリナドイヘバ、スデニ^{叡慮}・^{黄門}ノ心ニハ、此歌ヨクカナヒテモキコエ、コマノ詞モヨ(15オ)ロシキニコソアメレ。サルハ後ニワロキニヨリテナリト、人

ノイフニシタガヒテ、ソコニハジメテワロシトシリテ、我ハヒマトゾヨマ、ホシナドイヘル、マタナウ水母ノヲノレシ目ハナクテ、蝦ニシモカレルコ、チセラル。ヲノレシ見^ミ地^{トコロ}堅^{カタク}定^サリニタラバ、人ハソコライフトモ、ワレハサハオボエヌナドコソアラマホシケレ。黄門ハ敷嶋ノ道ヲキハメテ、又ウヘナキ人ナメリ。歌知レルコトモ、人ニハスグルベシ。ソレニシモ、カ、ルコトノイカニゾヤトイブカシ。又、大ニイブカシミオモヘルコトハ、西行ノ事、^{因説}シタル^{繪詞}ト云モノニ、建久九年二月十五日朝、往生ヲ遂ニケリトカキタレト、此繪詞ハ、山家集ナドニモマ、タガヒタルコトオホカリ。タ、西行所詠之歌ヲ採テ、牽強付会シテ作りナセリトミエタレバ、其中マコトナルコトモナキニハアラザナレド、尽ニシモウケナヒガタシ。慈鎮和尚拾玉集云、文治六年二月十六日未時、円位上人入滅、臨終ナド誠ニメダク、存生ニフルマヒオモハレタリシニ更ニタガハズ、世ノ末ニアリガタキヨシ申(15ウ)アヒケリ、其後、ヨミヲキタリシ歌ドモ思ヒツゞケテ、寂蓮入道ノモトヘ申侍シ、

君ヤシル其二月ト云置テ詞ニ負ヘル人ノ後ノ世

風ニ靡ク富士ノ煙ニタグヒニシ人ノ行エハ空ニシラレテ

チハヤフル神ニ手向ル藻塩草カキアツメツ、見ルゾ悲キ 是ハ、願クハ花ノ下ニテワレ死ナン其キサラギノモチツキノ比 トヨミオキテ、ソレニタガハヌ事ヲ、世ニモアハレガリケリ、又、風ニナビクフジノ煙ノソラニ消エテユクエモシラヌワガ思ヒ哉 此ニ三年ノ程ニヨミタリ、是ヲワガ第一ノ自嘆歌ト申シコトヲ思フナルベシ、又諸社

十二卷ノ歌合、大神宮ニマイラセント管シテ、受採テ沙汰シ侍キ、外宮ノハ一筆ニカキテ、既ニ見セ申テキ、内宮ノハ、時ノ手書ドモニカ、セントテ、料紙ナド沙汰スルコトヲ思ヒテ、三首ヨメルナリ。定家卿拾遺愚草云、建久元年二月十六日、西行上人身マカリニケルヲ〔16オ〕、終リ乱ザリケルヨシヲ聞テ、三位中将ノモトへ、

望月ノ比ハタガハヌ空ナレド消ケン雲ノユクエカナシナ 上人先年詠云、ネガハクハ花ノ下ニテ春シナン云々。今年十六日望月也、返シ、三位中将

紫ノ色トキクニゾナグサムルキエケン雲ハカナシケレトモ 今考、文治六年四月十一日改元、為建久元年。今年二月大也。月大ナレハ十六日望ニシテ、月小ナレハ十五日望也。拾玉ニハ改元以前ノ年号ヲカ、レ、愚草ニハ改元以後ノ年号ヲ載ラレタリ。サテ新古今集者、土御門、天皇元久二年乙丑三月二十六日、依後鳥羽院、院宣、通具、有家・定家・家隆・雅経等撰進、之由也。自建久元年元至元久二年、既経十六年之後、西行此世ニ再タヒ来テ、松ノ木ノ間ヨリトラクベキナドイヘル、イカニゾヤトイブカシ。由是見レ之、此愚秘鈔ハ黄門ノ真説ニ非ルコト決定セリ。三五記・桐火桶ナト〔16ウ〕イフモノモ、亦准而可レ知之。又、代々ノ集ニモレヌルトテ、ヒタスラニアシキ歌トコ、ロウベカラズ。集ニノリタリトテ、コトハクニヨキウタトシモ思フベカラズ。僧正遍昭ノ歌

末ノ露モトノシツクヤ世間ノラクレサキダツタメシナルラン トイヘルハ、コヨナキ名歌ナリトキコユレド、七代ノ集ニモリテ、始テ

新古今ニノセラレタリ。貫之ノ歌

糸ニヨルモノナラナクニ別路ノ心ボソクモオモホユルカナ トヨメルハ、ミツカラモイミジトオモヘバコソ、古今集ニモノセタリケメ、人モマタヨロシトシレバコソ、拾遺集ニモエラハレタレ。スデニ二代ノ集ニ及ベドモ、ナラウタクツソシリアリ。ヨリテオモヘバ、人ヲノク好メルトコロアリ。歌ニオイテモ亦シカリ。其〔心〕ノ感ズル所ニシタガヒテ、ヒトフシノ詞ニツキ、イサ、カノ〔意〕ニヨリテ、〔ヨキモアシキモ〕サマデナキヲモ、取モシ捨モシ侍ルナルベシ。此コモノ歌モ、千載ノ子雲アラマシカバ、集ニモナドカノラデハ侍ルベキ。〔17オ〕

〔林羅浮〕住吉神社ニマウテ、淡路嶋山望落月、難波江水聴来潮ト作レルモ此歌ヲ思ヘルナルヘシ

〔28〕○劉文房題ニ靈祐和尚、故居ニ云、多時行徑空、秋草、幾日浮生哭ス故人。此レヲ明ノ譚元春ト云モノ、評ニ、七字、中有三層、意不覺トイヘリ。アル人三層意イカニト被レ尋シカバ、小野小町歌ニ、アルハナクナキハカズソフ世ノ中ニアハレイツレノ日マデナゲカントイヘルコソ、又一首ノ中ニ三層ノ意アリテ、オボエヌ歌ナメレ。此歌ヲオボエタマハ、此詩モオボエタマフベクヤト申シキ。

〔29〕○古今集、亡名氏

残ナクチルゾメダタキ桜花アリテ世ノ中ハテノウケレバ 或鈔物ニ、メダタキトハ愛シタキナリトイヘリ。然レバ、タキハ、見タキ、聞タキノタキニテ、欲スル意ナリ。イカニゾヤオボユ。メダタシトハ、

幸甚トカキヌベキナリ。幸ハメヅルトヨミ、甚ハイタシトヨメリ。イ
 ラ略シテ」(17ウ)、メデタシトイヒ、又、シヲ略シテ、メデタトイヘ
 リ。万葉ニ、事痛トカキテ、コヂタシトモ、コヂタトモヨメル類也。
 甚ノ字、痛ノ字、酷ノ字、傷ノ字等、日本紀・万葉集ニ皆イタシトヨ
 メリ。イタシトハ、ハナハダシト云、同事也。老杜ガ痛飲真吾師ト
 イヘルモ、ハナハダシクノメルコトナリ。又、アナミニクト云ヲ、万
 葉ニハ痛醜トカキ、日本紀ニハ太醜トカケリ。然レバ、アナミニクモ、
 ハナハダミニクトイヘルナリ。以テ準ゼハ、アナコシコトイフヲモ、
 太恐トモ、痛惶トモカクベシ。女房ノ文ノ末ニ、メデタシトモ、アナ
 カシコトモカクハ、男子ノ書状ニ、幸甚トカキ、恐惶トモ誠恐トモカ
 クヲ、ヤハラゲカケルナリ。昔ハ其コトハリニテコソカキタルヲ、今
 ハナニトモコ、ロエネドモ、カクコト、テカクナリ。或物ニハ、昔恙
 虫トテ、人ヲソコナフモノ侍リケレバ、穴ヲ掘テ、カシコクモリキ
 テ、ウレヘニアハザリケレバ、人ノガリフミヤルニハ、心安クシモオ
 ボセトイハントテ、穴賢トハカクナリトイヘリ。エマヒテハモトニイ
 タリヌベシ。アナカシコ人ニカタルナ、ドイフモ、ハナハダオ」(18オ)
 ソロシトイフニコソ。倭歌ニ、イトモカシコシトイフ詞、三ツノ義ア
 リ。一ツニハ最恐也。二ツニハ最賢也。三ツニハ最貴也。貴・賢・恐
 ノ三字、日本紀・万葉共ニカシコシトヨメリ。詞ハ同シケレド、意ハ
 カハレリ。イトモトハ、イタモト云同事也。ト、タト通音也。イタシ
 ノシヲ略シテ、イタトイヘリ。万葉ニ、イタフルナミトハ、甚振浪ト
 カケルガゴトシ。イタクユルナミノコト也。フル、ユル通韻ナリ。又、

源氏物語、民部ノオモトガ詞ニ、アナハラ〜トイヘルハ、痛腹トカ
 キ、小野小町ガ幽魂ノ歌ニ、アナメ〜トイヘルハ、痛目トカクヘシ。
 此ハ、イタシハラ、イタシメト云ナリ。腹痛、眼痛ノコト也。ハナハ
 ダハラ、ハナハダメトイヘルニハアラス。字モ詞モ同クシテ、意ノカ
 ハレルコト、倭語常也。タトヘハ、実ノ字、マコトトモ、サネトモヨ
 メリ。サネハ菓ノサネ也。意カハレリ。シカルヲ、マコトコントイフ
 ヲ、サネコントモイヘリ。(第九、核不所忘。過ノ字、スグストモ、
 アヤマツトモヨメリ。意カハレリ。シカルヲ、アヤマツコトナキト云
 ヲ、スクスコトナキ」(18ウ)トモイヘリ。善ノ字、ヨシトモオホシト
 モヨメリ。意カハレリ。シカルヲ、オホクモノクラフ人トイフヲ、ヨ
 クモノクラフ人トモイヘリ。故ニ、詩経ノ女子善懐、前漢志ノ岸善
 崩、後漢紀ノ鬻妻善収、晋春秋ノ陸雲善笑トイヘル善ノ字、ヨク
 トモオホクトモ点ゼンニ同事也。此等ノ類、不レ可ニ枚挙。今、痛ノ
 字、アナトヨミテ、ハナハダト云ニモ、イタムトイフニモナレルトシ
 ルベシ。日本紀・万葉ナドヨミテ、古語ヲワキマヘンニ、此意ヲシラ
 スハ、マトヒヌベクヤ。

[30] ○アサボラケハ、アサビラキナリ。ホトヒト、ケトキト、同音也。万
 葉集ニ朝開トカキテ、アサボラケトモ、アサビラキトモ、アサアケト
 モヨメリ。夜ノ明タルナリ。

[31] ○陸放翁詩、何方^ニ可^レ化^ス身^ヲ千^ニ億^ト、一樹^ノ梅花^一放翁^トイヘルハ、
 柳柳州詩、若^ニ為^レ化^シ得^テ身^ヲ千^ニ億^ト、散^ル上^ニ峯^ノ頭^ニ望^ム故郷^トトイヘルヲ用
 テ、アタラシクナシイ」(19オ)デタリ。西行上人歌

身ヲワケテミヌ椛ナクツクサバヤ万ノ山ノ花ノ盛ヲ 年代ヲ考ル
ニ、放翁、西行同時ノ人也。倭漢、詩歌、一口ヨリ出ルガゴトシ。誠
ニ此心ノ同ク然ル、豈有ニ東西ニ哉。又、趙師秀詩、瀑近、春風
濕、松多、曉日青、トイヘルハ、名句ナリトテ、モロコシノ人、伝誦
シテヤマズトソ。上人歌ニ

雲ハル、嵐ノ音ハ松ニアレヤ月モ縁ノ色ニハヘツ、 日青、月縁、
マコトニオカシクメヅラカナリ。

[32] ○或人ノ語侍シハ、津ノ国木津ノ今宮ハ、何レノ時ニカ、我国ヨリモ
ロコシヘ、モノ、フノイハヒマツルベキ神ヲタツネ侍リシニ、蜀ノ関
羽カ像ヲエカキテオコセタルヲ、ヤガテアカメタテマツリシ神也。此
神イトタケケテ、世ニオホクタ、リケレバ、今ノ(19ウ)京ノ今宮ニ
ウツシマツル。紫野ノ内ナレハ、紫野大明神ト号ス。後拾遺集、世ノ
中サハガシク侍リケル時、サトノトネ、宣旨ニテ、マツリツカウマツ
ルベキヲ、歌ニツナンイルベキトイヒケレバ、ヨミハヘリケル、藤原
長能

白妙ノトヨミテクラヲトリモチテイハヒゾ初ル紫ノ野ニ

今ヨリハアラフル心マシマスナ花ノ都ニ社サダメツ コレナンソ
ノオリノ歌ナリトゾ。サヤアリケン、オボツカナシ。

[33] ○正広ハ徹書記ノ弟子也。ヨミクチノウルハシキコトハ、アキヨリモ
アラカリ。逢恋トイフコトヲ

夕嵐アトニヒトスヂタツ雲ハコレモヤコヒノケフリナルラン ト
ヨミテ、ミゾカラヨメリトオモヒテ、書記ニ見セ侍リケレバ、ヨクヨ

ミナサレタルモノ、ナヲ初五文(20オ)字コソアンベケレトテ、嵐
ヲ暮ノトナヲサレタリ。心ユキテモオモハズナガラ、シタガヒアラタ
メテケリ。サテ、此夕暮ノアト、イヘル、イカマキコユラント、長嘯
子ニタツネケレハ、ユフグレノ雲ノトイレテミルガヨキナリ、アトニ
タツ雲ハトアルニテ、ユフグレノ雲ノアトトイフコトハシル、ナリ、
シモノ雲ニテ、上ノ雲ハイハネドモコモリテアルナリ、シカレバ、ユ
フアラシトイハンヨリ、ユフグレニテハ、恋ノコ、ロモ、オリカラモ、
アハレウカミテキコユルナリ、千五百番歌合、雅経歌、
コレヤサバ人ヲ思ヒノ初煙ナレヌナガメノ空ノ浮雲 ヨク似タリ
トカタラレキ。

[34] ○暁紅葉トイフ題ニテ、清範新古今
寄人

モミチバラ暁カケテナガムレバオシム椛ニアリアケノ月

雅経

鐘ノ音モ枕ニチカシ嵐山アケナバヨソノ秋ノ色カハ

家隆(20ウ)

ソメニケリ初瀬ヲトメノ山カツラカカル椛ノタグヒナキマテ 此
歌ドモ、家集ニハミエハベラネド、イツレモ自筆ノ懷紙ヲ見侍リシウ
ヘニ、ヨミクチ疑ナカルベシ。此外ノ歌ドモ、イクラカ集ニカキラ
トシケン。韓退之、擬スル范蠡与ヘシ大夫種ニ書、意出チ千古ニ、理振フ群疑ト
孫何カ称セシモ、今韓集ニ無ニ此文ニ。皇甫湜、涉江、文一首、便チ可レ敵ニ
公卿ト白楽天ガ嘆セシモ、皇甫集ニ不レ載セ之ヲ。ノコリオホク、ホイナ
キコトナリ。雅経ノ歌、キコエグルシトテ、人々イロくト案ジ侍リ

シヲ、中院中納言通村卿申サレシトテ、雄徳山ノ松花堂カタリシハ、鐘ノ音ト云ニテ暁ヲコトハリ、枕ニチカシト云ニテ、嵐ノイタク吹ヲシラセ、サテ嵐ニ対シテ、アケヌルトテ、此山ヨリ外ニイヅベキ秋ノ色ニテモアラス、今夜ノホドハ、サノミ紅葉ヲチラサズモアレカシトイヘルニコソ、秋ノ色トハ、即紅葉也トゾ。又カタリ「(21才)シハ、烏丸大納言光広卿モノガタリニ、先年歌アマタヨミテ、細川兵部大輔入道玄旨ニ見セハベリシニ、山紅葉

山ノ名モワキテ紅葉ニ立田姫手染ノ木々ノタグヒナキマデ 此歌宜シトテ、合点セラレキ、後ニ家隆ノ歌ヲキ、テ、ヨク似テハベルモノカナ、ツユシラヌ時ノコトナリシカド、人ハヤハサハオモフベカラシ、似タルニツケテ、イヨク玄旨ノ合点、信ゼラレキトナン。

[35] ○連句・連歌ハ、詩人・歌人ノサシテホイトセルコトニハアラザルベシ。サレド、古人ノ集ニモミエ、コ、ロタカク、ヤサシキカタマ、オホカリ。オリニフレテハ、又ヒトカタニステガタカルベシ。心敬僧都、醍醐寂静谷ニテノ発句ニ

チル花ノヲトキクホトノ深山カナ 孟郊カ桐廬山中ニシテ李明府ニ贈「(21ウ)リシ詩、千山不隠響、一葉動亦聞、シツカナルサカヒ、サゾアリケン。

[36] ○裴交泰長門怨云、一種峨眉明月夜、南宮歌吹北宮愁。章孝標詩、長安一夜千家月、幾処笙歌幾処愁。元稹詩、月色照榮辱、長安千万門。源氏物語簪木卷二、月ハ有明ニテ光収ルモノカラ、影サヤカニ見エテ、中々オカシキ曙ナリ。何心ナキ空ノ気色モ、

タミル人カラ、エンニモスゴクモミユルナリケリ。

[37] ○同卷ニ、源氏中川ノヤドリニテ、ヨルハスガラニ、カタラヒウラミタマヘド、空蟬ハツレナクノミモテナシタリ、イトカクウキ身ノホドノ、サダマラス、アリシナカラノ身ニテ、カ、御心バヘヲ見マシカバ、アルマジキワガタノミニテ、見ナラシタマフノチセモヤトモ、思タマヘナグサメマシヲ、イトカウカリナルウキネノホドヲ思ヒハベルニ、タグヒナク思フタマヘマドハル、ナ」(22才)リ、ヨシ今ハミキトナカケソ、トテ思ヘルサマ、ゲニイトコトハリナリ。此段、空蟬一生ノ心ノ底ナルベシ。アハレニモ、タフトクモ、誠物語ノ中ノ貞女トモイヒツヘシ。張籍節婦吟云、君知妾有夫、贈妾双明珠、感君纏綿意、繫在紅羅襦、妾家高楼連苑起、良人執戟明光裡、知君用心如日月、事夫誓擬同生死、還君明珠双淚垂、何不相逢未嫁時。空蟬ト同シ心ニヤ。其後、夕顔卷ニ、伊予介ニ具シテクダリケルニ、源氏、タムケ、心コトニセサセタマフ。カノ小樹モツカハス。

逢フマデノ形見バカリトミシホドニヒタスラ袖ノクチニケル哉御返リ、空蟬、

セミノ羽モタチカヘテゲル夏衣カヘスラミテモネハナカレケリ 余嘗評曰、余觀蟬婦之於源郎、始終纏綿、不忘乎情。女而好色、豈得稱貞。曰、景陵鍾伯(22ウ)敬有云、男女幾於狎一矣、而不及亂、真所謂好色不淫、世上淫人与好色自是兩種、阮嗣宗曰、狎隣女而終無所私、死又哭

之、真好色惟一、人若有所私而狎之而哭之、便是泛泛用情矣。烏乎好
余於蟬婦亦云、女中嗣宗。

[38] ○新勅撰、養和ノコロヲヒ百首歌ヨミ侍リケル、秋歌、定家

天原オモヘハカハル色モナシ秋コソ月ノヒカリナリケレ 潘緯中

秋月云、豈是月華別、祇応秋気清。

[39] ○逢事ハタナハタツメニヒトシクテタチヌフワサハアエスソアリケル

又、金葉集、連歌、(アユラミテ)ヨミ人シラス、

ナニニアユルヲアウトイフラン 匡房卿妹

ウ舟ニハトリイレシモノヲオホツカナ アウルトハ肖ノ字ヲヨメ

リ。日本紀第十(23オ)昔田天皇、既産之、宍生ニ腕上一、其

形如レ軀、是肖下 皇太后為ニ雄裝一之負上レ 軀 故称ニ其

名一、謂ニ昔田、天皇。 註上當時俗号、病弱衰
武多二蜀、肖此三同假一。

按韻書、肖、似也、象也、類也ト註シテ、(ノレリトモ、タウハレリト

モ)ニルトモ、アウルトモ、(アエカルトモ)ヨメリ。(ミナ同意也)。

万葉集第九、詠霍公鳥歌、鶯之生卵乃中尔霍公鳥独所生而已、爾似而

者不鳴已、爾似而者不鳴字能花乃開有野辺從飛、翻來鳴令、響、橋之花

乎居令散終日、雖喧聞吉幣者將爲還莫去吾屋戸之花、橋爾住度鳥

此似而者不鳴ヲ(ムカシヨリ)ニテハナカスト点セリ。ソレニテハ、

文字モタラス、キ、ヨクモハハラサルニヤ。万葉集ノ長歌ニ文字タラ

スヨメルコトモ、マ、オホカレト、ソレハソレニテコトハリタチ、詞

キハマリテ、コトニ点センヤウモナキナリ。第一卷人丸歌、(カケマク

モユ、シキカモイハマクモアヤニカシコキ) (ナトイヘル類也。又、

点シヤウノワロクテ文字タラス、ト、ノホラヌモオホカリトミユ。然

レハ、此歌モ、アエテハナカスト点シタラマシカハ、文字モタラヒト、

ノヒテ、詞モフルメカシク、マコトニ万葉ノ歌トモイヒツヘクヤハ

ラン)。(23ウ)アウルトハ、アエルコトナメリトノミシリテ、イカナ

ル文字ヲカケルソトシル人マレナルニヤ。源氏物語、籥木卷、織女ノ

タチヌフカタヲトメテ、ナカキチキリニソアヘマシ。諸本如比。アヘ

マシハ、ヘノカナツカヒワロシ。 ニノカナツカヒヨシ。タトヘハ、絶

ノ字、タエ・タユル、堪ノ字、タヘ・タフル、生ノ字、ハエ・ハユル、

延ノ字、ハヘ・ハフル、肖ノ字、アエ・アユル、相ノ字、アヘ・アフ

ルト云カコトシ。エトイヘハ、ユトイヒ、ヘトイヘハ、フトイフ。ヤ

イユエヨ、ハヒフヘホ、五音相通ノ故也。余ハ推而可知之。

[40] ○長嘯子、葦ノ歌ニ

キリくスアマヨノトコモウチシメリナクヤ枕ニタエミタエスミ

白香山秋夜詩、早葦鳴復歇、殘灯消又明、隔窓知夜雨、芭

蕉先有聲。秋葦夜雨ノ感情、詩歌ヲノツカラニ相カナヘリ。(24オ)

[41] ○長嘯子(播州)龍野侍從ト申シコロ、飾摩河ハ当国ノ名所ナリ。万

葉二、

ワタツミノ海ニイテタルシカマ川タエンヒニコソワカコヒヤマメ

トヨメレハ、シカマカハニ海ニイテタルト云詞ライレテ、当季冬ノ歌

ヲ各ヨミハヘリケル会ニ、

イカタシノカサニツモリテシカマカハ海ニイテタルミネノハツユ

キ

トヨメリケルト人ノカタリシマ、ニ、長嘯子カリマカリシツイテニ、カタリイテ、マコトニ御歌ニコソ、イトモメテタクナト申シカハ、ケニサルコトハヘリシ、招月ノ歌ノサマシテトテ、イトモホイナラヌサマナリ。又、海辺月ト云題ニテ、

ラクアミノナカニシツメル月カケラヲノカモノトヤアマノヒクラン コレモ御歌ナリトテ、人口ニ鱠炙セリト申セシカハ、コレハサモヤハヘルランナド申サレキ。後ニ草根部類ヲ見ハヘリシニ、川上ノ雪ソ一村クタリタルコヤ山人ノウチノシハフネ」(24ウ)

此歌ノコトヲイヘルニヤ。又、サナラテモ、一首ノ「趣造、ケヤケキ所」^①似タルニヤ。世ニ、二条殿被撰天神御詠百首和歌トテ侍リ。其中ニ、里マテハフリモツ、カヌ初雪ヲ筏ニノセテクタス仙人 此三首ヨク似タル中ニ、長嘯子ヲトラマホシ。初カタリシ人ハ、山ノハツユキト申シヲ、長嘯子、サニハアラス、ミネトコソヨミツレト申サレシ。イサ、ケノカハリニテ、意味ハルカニヘタ、レリ。スヘテ歌物語スル人ノアシクカタリナシテ、其歌ノ面フセニナレルコト、コヨナクイタマシキコトナリ。又、一条院御時、無名氏、

ウラヤマシ雲ノウヘ人ウチムレテヲノカモノトヤ月ヲミルラン
後冷泉院春宮ノ御時、良暹、

ウラヤマシ春ノミヤ人ウチムレテヲノカモノトヤ花ヲミルラン

此歌、後捨遣ニノセハヘレトモ、マタク和歌ノ浦ノ白浪イサヤニテコソハレトモイヒヌヘシ、長嘯子ノ歌コ」(25オ)ソ、マコトニヲノカモノニテ、換骨奪胎トモ、コレラヲヤ申スラントソオホユル。

[42] ○統後撰、源兼明歌 ヨソニミテイクカキヌラン東路ハサナカラ富士ノ山ノ麓ヲ 玉葉集、前大僧隆弁 目ニカケテ幾日ニナリヌ東路ヤミ

国ヲサカフフシノシハ山 沉南江詩、東関千里吟鞍上、晴雪趁人三五州。惺齋先生詩、青天忽見素羅笈、羅笠擔中十五州。詩歌トモ高キコ、ロヲヨクイヘリ。更級記ハ菅原孝標女ノ作也。^①常陸国ヨリミヤコサマニノホレル道スカラノコトナトカケルニ、足柄ト云山ハ、四五日カネテ、オソロシケニクラカリワタレリトイヘル詞ヲ見ハヘリシニ、子美カ、岱宗夫如何、齋魯青未了トイヘルモ思ヒイテラレテ、富士ノ詩歌ヨリナヲオカシ」(25ウ)カリケリ。豊臣秀吉公、北条氏直ヲ征伐セントテ小田原へ進発ノ時、長嘯子扈從シテ下ラレケル(紀行ノ歌ノ中)ニ富士ノ山ヲ、

イツキエテヲノカ春ヲモマチエマシ富士ノタカネノ雪ノ下草トヨメルヲ見ハヘリシニ、又、子美カ嵌空大始雪トイヘル、思ヤラレテイトアタラシクオホエハヘリ。

[43] ○堀河院太郎百首、逢不会恋、俊頼、

山兒ノアシヤニカケルタカスカキフシニクシトモオモヒケルカナカケルタカスカキトハ、所結竹簀結トカケリ。結飯マツ廐ハサスキカク、結構ハヤクラカク、結マツ跣ハアクラカク、結構マツ鼻禪ハタウサキカク、共ニ結ノ字ヲカクトヨマセタリ。アクラトハ、足座ナリ。タカミクラト云モ、高御座ナリ。トクラト云モ鳥」(26オ)座ナリ。日本紀第十五ニ、居下風トカキテ、クラシリニヤリト訓セルモ、座後ノ義也。

[44] ○衣ノツマ、櫓ノツマ、思ノツマ、皆端ノ字ヲヨメリ。ツマ戸ノツマ

モ端ノ字ナリ。和歌ニオホク妻ノ字ニソヘヨメリ。

(枕^{ウシ}附妻屋ノ内ニトクラユヒスエテソワカカフマシラフノタカ
ツマヤハ端屋也)

[45] ○新古今、俊成卿、ミシフツキウエシ山田ニヒタハヘテ又袖ヲラス秋

ハキニケリ、此ハ、万葉集第八 衣手ニ水浚付マテ殖シ田ヲ引^{ヒキクワレ}板吾ハ
ヘ守^モレル苦シ トイフラ用ラレタリ。水浚トハ、水ノ上ニ浮タルサヒ
ライフナリ。俗ニハ、ソフトイヘリ。シフ・サヒ・ソフ、五音ノ通用
ニテ、イツレモ同事也。(ヒキタ・ヒタ、同事ナリ)。衣手ハ、コロモ
テトモ、ソテトモヨメリ。御衣トカキテ、オンキヌトモ、オンコロモ
トモ、オンソトモ、ミソトモヨメリ。此類オホシ。タトヘハ、浅茅原
ハ、アサチハラトヨメルヲ、又、アサチフトモヨメリ。芋原トカキテ
ハ、オフトヨメリ。勢州ノ所ノ名ナリ。〔26ウ〕浅茅生ハ、アサチフ
トヨメルヲ、亦アサチハラトモヨメリ。桃生トカキテ、モヽハラトヨ
メリ。奥州ノ所ノ名ナリ。サテ、俊成ノ歌ノ意ハ、又〔衣手^①〕ヌラス
トイヘル又ノ字ニテ、初メ早苗トリシトキ水浚ニ付テヌラセシ衣手ヲ
コトハレリ。コレヤ、頓阿カイヘル、本歌ノ意ニナリカヘリテ、シカ
モ本歌ヲヘツラハスシテ、アタラシキ意ヲヨメル躰ナルヘシ。長嘯子、
鳥羽観十首題詠ノ中

ミシメハヘキノフカウエシトハタオサカルテラサムミ秋風ソフク
ミシメハ、御註連トカケリ。万葉ニハ繩ノ字、(標ノ字、印ノ字)ヲモ
シメトヨメリ。ミシメナハトモ、ツヽケヨメリ。ハフルハ延ノ字、引
ノ字、緜ノ字ヲヨメリ。

(住吉^{26ウ}トカキテ、スミヨシトモ、スミノエトモヨミ、日吉トカキテ、
ヒエトモ、ヒヨシトモヨメリ)

[46] ○千載集橘頼綱歌 トモシヽテハコネノ山ニアケニケリニヨリ三ヨリ

逢トセシマニ トモシハ射照トカケリ。フタヨリミヨリトハ、二度三
度トカケリ。ソレオ箱〔27オ〕ノフタトミトニソヘタリ。鷹ノヨリヲ
キラヌト云モ、度不断トカクナリ。日本記^②ニ、六齋日トカキテ、ムヨ
リノイミヒト訓セルモ、六度ノ忌日ノ義也。二寄三依ナトカケルハ、
ヒカカキナリ。

[47] ○万葉第廿、国史国人歌 ニホトリノオキナカカハヽタエヌトモキミ

ニカタラ武コトツキメヤモ アル鈔物ニ、奥中河トハ、湊川ナトノ海
ヘ入タルハ、未潮ニアハスシテ、潮ハ潮、水ハ水トミユルヲ云、或ハ、
河ノ水尾ノコトナリ、ヒヌコトナリ、ツキヌナリト云々^①。息ノ字、オ
キトモ、イキトモヨメル、通音ニテ、同事也。鳩ハ、イキナカクテ、
水ニクヽリテ久クオレハ、サテコソ鳩鳥ノ息長トツヽケタレ。奥中ニ
テハ、鳩ニシモカキルヘキコトカハ。鴨トモ鷗トモ鷺トモスヘテ、水
鳥ヲハミナイヒツヘシ。鳥長ハ、所ノ名也。日本紀第廿八云、男依等^{オヨリヲ}
与^②近江軍^{チヲキナカノヨクカハニ}二戦^③息長横河^④二破^⑤之。〔27ウ〕

(サテ鳩鳥ノ冲中川トハ息長ト意ナリ。意ニ入テ久アレハ、イキ長
キト云心也。イキトヲキト相通ナレハ、イヘルニヤ。中ト云字、
長トヨム故也)

長トヨム故也

[48] ○古今集、常隆ヘ罷リケル時ニ藤原公俊ニ詠テ遣シケル、籠

アサナケニ見ヘキ君トシ憑ネハ思タチヌル草枕ナリ 或物ニ、ア

サナケトハ、朝夕ナリト註セリ。イカニ意得ケルニカ。万葉集二、朝爾異爾トヨメルハ、毎朝ノ義也。異ノ字、ケトモ、コトトモ訓ス。別ノ字ト意同シ。假令ハ、人別コトヘチ・家別ト云ハ、人ナレハヒトリノ、家ナレハ一問ノ残ヲヌコトナレハ、每人・每家ト云ト同義ナルカ如シ。万葉ニハ、月爾異爾トモ、日爾異爾トモ、彌日異爾トモ、日異ヲ亦ヤカテヒゴトニトモヨメリ。万葉ニ朝爾異トヨメルヲ、古今ニアサナケニトヨメルハ、ニトナト通音ナル故歟トモ、又、アサナユフナトイハハ、此アサナハ、唯アシタトイヘルハカリナル歟トモオヘレト、万葉第十六、為蟹述痛作歌ニ、日乃異爾トイヘリ。此アサナケニモ、朝乃異爾ナルヘシ。乃ノ字・廻ノ字等、日本紀・万葉集ノ歌ニ(28オ)ナトモ、ノトモ点セリ。両音アルカウヘニ、通音ナレハナリ。(タトヘハ、田上ヲタナカミトモ、タノカミトモイヒ、渡辺ヲワタナヘトモ、ワタノヘトモイヘル類ナリ)。奴ノ字・農ノ字ヲモ、ノトモ、ヌトモ点セリ。農播ウヤ柁摩ト書テ、ヌハタマトモ、ノハタマトモヨマセ、之新野奴比ト書テ、シノヒトモ、シヌヒトモヨマセリ。古語ハ通音同響ナレハ、オホクハイツレヘモイヒナシテ、ソノカミハメツラシキ詞ニモアラサメルヲ、後ノ世ニ至リテハ、イヒツケキナレタルホカハ、新シク怪シキコトニオモフナメリ。(万葉二眉ヲマヨトイヒ、夜床ヲユトコトイヘルタクヒ、不可勝計)。知波乃奴乃トヨメルハ、千葉之野之ナリ。(野島ヲ奴原トモカケリ)。其時其処ニテハ、野ヲヌトモイヘルヲ、今コトニテキケハ、アヤシウカタコトノヤウナメリ。サレト、今モイツレヘモカヨハシテイヘル詞モ、マヽオホカリ。タトヘハ、手巾ヲテノ

コヒトモ、テヌクヒトモ、タノコヒトモ、タナコヒトモイヘルカコトキ、ナニヌネノ、〔同〕^①音ナルカ故ナリ。因リテ思ヘハ、人ハ万物之靈ニシテ、言語・音声(音聲)天地自然ノ妙ヨリオコレハ、東夷西戎・ヒサメ・カハラモノマテニ、郷談方言ノカハリハヤハヘルトモ、コトノク陰陽律呂ヲハツルコトアルマシケレハ、ヨクノクワキマヘナハ、アヤシウカタコトナトオモヘルコトモ、皆カヨヒテシリヌヘシ。古ニヨク律呂ニ(28ウ)達セル人ハ、風声・水音・禽語・獸言ヲモワキマヘシレリトナン。況ヤ、同胞ノ人倫ニ於テヤ。サテ万葉ニ、朝爾食爾、日爾食爾トカケル所アリ。食ハ借字也。ケトイフヨミヲ用ルハカリナリ。食ノ字ニ惑ヒテ、不可取義。又、此龍ハ、女ノ名也。蝶トナマリテヨムヘカラストイヘリ。奥義鈔ニハ、或人云、コレハウツクトヨム也、彼人ノ形ノメテタクテ、君ノ覺ニテハヘリケレハ、ウツクトハイカヽ可奮ト譏ケルニ、オホエナルニヨリテ、龍トカキテ、ウツクトハヨム也、今タクミ出シタル事也トソ、堀河ノ右ノオホイトノハ語リタマヒシト、大宮ノオホイトノヽアリシトテ、故一条殿ノ仰セラレケルナリ、故將作モウツクトソ侍ケル、又或人云、兼房朝臣ハ、仮字ニテ、テウト書タリトソ、知リタリケン物ヲ、トイヘリ。今案、ウツクトハ、ウツクシトイヘルコトナメリ。韻書、龍、丑勇切、愛也、恩也ト註セリ。然ルニ、古今集多ノ本ニ龍トカケリ。誤也。龍、魯孔切、穴也。ロウノ音ニテ、アナノ訓也。(29オ)

[49] ○頭昭法師ハ、歌道ニ於テ頗博治之〔士〕也。サル〔カラ〕ニヤ、人ニハカハリテ、キヽナレス、メツラシキコトトモコノミテ、トリイテ

ヨメル歌オホカリ。六百番歌合、寄河恋、

聞渡ルアリナレ河ノ水ニコソ影ヲ並テスマ、ホシケレ 阿利那礼

河ハ、新羅国之河名也。見日本書記第九卷。歌ノ意ハ、阿利那礼ヲ、

在馴ト云ニ(ソヘ)ヨメリ。万葉ニ、アリマツ、アリカヨフ、アリフ

ル、(アリナクサム)ナトモヨメリ。アリハ皆、ヒサシクナカラヘアル

義也。(存ノ字、存命ト書テ、ナカラフルイノチトヨミ、見存ト書テ、

イマニアリナトモ訓セレハ、アリナレトハ、存狎トモカキツヘシ)。此

比、平安城ノ誹諧師貞徳カヨメル元日ノ歌トテ人ノ語リシ、

雲ノ夢アレナレ河ノ氷マテ今日日本ノ風ニトクラン アレナレト

ヨメルハ、此歌ヲオホエタカヘルニヤ。又、同歌合、寄絵恋

イトハレテ胸ヤスカラヌ思ヒヲハ人ノ上ニソカキウツシツル 此

ハ、太平広記、晋願愷之、字長康、妙丹青、挑一隣女、不從、画女形、

於壁、以棘針釘其心、女心(29ウ)痛、愷之因致其情、女從

之、去針而愈ト云故事ヲ用タリ。サテ、第一句ハ、菅家万葉集ニ、被

厭テ今ハ限ト成ニシラ更ニ昔ノ被恋、トヨメル五文字ヲトリ、第二

句ハ、万葉第十三、長歌ニ、思ヘカモ胸ヤスカラヌ恋レカモ心イタマ

シ トイヘルヲトレリ。ウツシツルトハ、写ノ字ニ、移ノ字ノ義ヲコ

メタリ。又、同歌合、寄草恋、

百夜草モ、ヨ迄ナトタノメケンカリソメフシノ榻ノハシカキ

此ハ、万葉第二十二、チハカトノ、シリヘノモ、ヨクサモ、ヨイ

テマセワカキタルマテ ト云歌ト、(歌論義ニ)、暁ノシチノハシカキ

モ、ヨカキ君カコヌ夜ハ我ソカスカク トアル歌トヲトリ合テヨメリ。

万葉ノ歌ハ、天平勝宝七歳乙未二月、相替遣筑紫防人、遠江国佐野郡

生玉部足国カヨム也。トノ、シリヘハ、殿ノ後也。百夜草ハ、月草也。

此草、百夜花開。故有此名。歌ノ意ハ、(我)鎮西ニ被遣道(ヨリカヘ

リ来ルマテ)「(30オ)ツ、カナカレト父母ニイノリテ待タマヘトヨメ

ルナリ。イテマセトハ、祈マシマセ也。イテハ、乞ノ字ナルヘシ。万

葉ニ、祈禱トモカキテ、共ニコヒノムトヨメリ。コヒノムト云モ、ネ

キイノルト云モ同シ事也。イテト云モ、コフト云モ亦同事也。歌論義

ノ歌ハ、古今集ニハ、暁ノ鳴ノハネカキモ、ハカキ、トアリ。両説共

ニフルクヨリイヒツタヘタリ。好悪ハ人ノ心ニ随フヘシ。吉水僧正歌

ニ、

トニカクニウキカスカクハ我ナレヤ榻ノ端書鳴ノ羽憂 誠ニ何レ

ニテモアリヌヘキコトナリ。頭昭モ、袖中抄ニハ、鳴ノ羽カキヲ宜ト

ス、トミエタレト、今ノ歌ニハ又榻ノ端書ヲモ取用タリ。

[50] ○アル所ニテ縊素スヘテ五六人ツトヒテ、歌物語シイテ、イニシヘ

イマトリ、イフニ、アル人、世ニ夕去三首ノ名歌トイヘルハ、(30

ウ)

夕去ハ汐風コシテ奥陸ノ野田ノ玉川衛鳴ナリ 能因法師也

夕去ハ門田ノ稻葉音ツレテ葦ノ丸屋ニ秋風ソ吹 経信卿也

夕去ハ野辺ノ秋風身ニシミテ鶉鳴ナリ深草ノ里 俊成卿也

此等ハ皆、夕クレトハヲキツヘクモ侍ラヌニヤ、ユフサレトイフニテ、

風情ヲ持テ心アルナリト也、詩ニモ、此意得侍ルヘシ、音ニヨミ、訓

ニヨムニサヘ、ソレニヨリテ、ヨクモアシクモ聞ユルモノナリ、古ノ

博士、是ヲヨク味テ、典籍ノ訓点、イツレモイヤシクモシ侍ラサルニヤ、今ノ世ニ残レルモ、オカシキ(点)^①ハ古書ニコソ侍レ、白樂天詩、蘭省花時錦帳下、廬山雨夜草庵中、此花時・雨夜ノ四字ヲ、音ニクワシ・ウヤトヨミ、錦帳・草庵ヲ、訓ニニシキノトハリ・クサノイホリトヨミ、(ランセイイクハシニキノトハリノモト、ロサンヤウクサノイホリノウチ、トヨミ)テタラマシカハ、詩ノ感情モウスクヤ侍ラン、ランセイノハナノトキキンチャウノモト、ロサンノアメノヨサウア(31才)ンノウチ、トヨムニテコソ、アハレモウカムヤウニ聞エ侍レト云ヲ、アル人、モロコシニハ皆音ニノミヨメハ、モロコシニテハ、此詩モコソニテヨリハ、アシクヤキコエハヘルヘキトイエハ、ソレハイサヤシラス、コソニテハ音訓ノカハリ侍ルナリ、般若ハ智慧也、天竺ニテハ、般若トイヒ、唐土ニテハ智慧トイフ、同事ニテ侍レト、智慧トイヘハアサクキコエ、般若トイヘハフカクナルトテ、般若ヲハ翻訳セスシテ、諸經ニオホクハソノマソニテ侍ル事モ侍ルニヤトイフニ、又アル人ノ、法花ノ偈ニ、寂寞無人声、読誦此經典トイヘルモ、音ニヨミタルカイカニモ物シツカニテ、深山幽谷ノ寺ナトニテ、ヒトリ経ヲヨミタラン景氣、ソラニウカミテ、訓ニヨミタルヨリ一入タフトクオホエラル、ナリトイヘレハ、又アル人、仏經ハコレノミニモカキラス、イツレモノ、訓シタルヨリ音ニテキ、タルカ、コトアリケニテ、タフトクオ(31ウ)ホユルナリトイフヲ、居タリケル僧ノ、ケニモ、読經ニ就テ、音訓ノ勝劣ヲ論スルニ、音読ハ多義ヲ含ミ、訓読ハ一義ニ付クト、先徳モ申サレケレハ、音ニ読ムコソ、マサリ侍リケレトイ

フニ、ナラビノ僧、ソコノハサルコトナレト、アナタニコトアリケニテナトイヘルハ、イトナメシニコソオモヒタマフレ、彼偈ノ音ニヨミテ物シツカナリトイヘルモ、其訓ヲ知りテ、ソレカ心ニウカヘハナリケリ、文字シラヌ人ノキ、タランニ、シツカナリトモ、サハカシトモ、オモヒワカンヤハ、コソニシリヌ、タトヘハ、スコノトシテ、ヒトコエモナキトコロニテ、コノソメカミヲヨミマツラマシカハ、ワレソノトキニモテ、キヨラニテリアカルミヲモテ、アラハサマシト訓(シニタリ)^⑤トモ、ソノ義ノフカキヲシリテ、ソレカ心ニアキラカナラマシカハ、イカテタフトクオ(32才)ホエサラント、イトムツカリイヒケルホトニ、歌ノ物語ハカタヘニナリニケリ。イトオカシカリキ。

[51] ○李青蓮詩、桃花潭水深千尺、不及王倫送我情、貫之土佐ヨリ上リケルトキ人ノラクリケレハ、

棹サセトソコヒモシラヌワタツミノフカキ心ヲ君ニ見哉 トヨメルニ同クオカシ。ソコヒハ、底辺也。ヘトヒト同音ナル故ニ、万葉集ニ通シテ多ク詠メリ。海辺ヲウナヒ、浜辺ヲハマヒ、(下樋ヲ下部)、春日ヲハルヘト云ル類、不可勝計。

(32才)
岡辺ヲ乎加肥、山辺ヲ夜麻備、浜辺ヲ波麻備

[52] ○万葉第六、湯原王月歌 愛也思不遠里乃君來跡大能備爾鴨月之照有

大能備ハ、大野辺也、(トオモヘル人モアレト、大延ト云ナルヘシ)^⑥頭昭(ノ説ニハ)云、オホノヒトハ、オホノサヒト云詞歟、又只ノサヒト云詞モアリ、サレハ、オホノサヒヲ、サノ字ヲ略歟、又オホノサ

ハ、オホヌサト同詞也、「ノ」、ヌト」(32ウ)同音也、古今云、オホヌサノヒクテアマタニナリヌレハタエヌモノカラウレシケモノナシ 是ハ祓ノオホヌサニソヘテ、オホノサト云詞ヲオモヘル也、或書云、オホノヒニトハ、ユタカニシツカナリトイフ也、是、江都督説也云々。^⑥又、此歌、袖中鈔ニハ、ハシキヤシマチカキサトハ君コントオホノヒニカモ月ノテリタル トアリ。愛也思ヲハシキヤシトヨマンコトモイカ。顯昭、オホエタカヘル歟。但、顯昭ミタルトコロノ本ニハ、サハヘルニヤ。オシエヤシトハ、ヨシエヤシト同詞也。今ノ世ニ、ヨシトモ、ヨシくトモイフ詞ナリ。サモアラハアレナト云詞ニモカヨヒテキコユ。万葉ニハ、略シテヨシエヤトモ、シエヤトハカリモヨメリハシキヤシトハ、ハシキヨシト同詞也。釈日本紀ニ、端清トカケリ。端正清淨ノ義也。万葉ニハ、ハシケヤシトモ、ハシケクトモ、ハシキトハカリモヨメリ。喜撰法師歌式・俊頼朝臣無名抄・仲実朝臣綺語鈔・清」(33才)輔朝臣與義等ニ、男ヲハ、ヨシエヤシトモ、ヲシエヤシトモ、女ヲハ、ハシケヤシトモ、ハシキヨシトモイフトイヘル、皆僻案也。古事記・日本紀・万葉集等ノ歌ヲヨク不考之誤也。又、顯昭袖中鈔引万葉鈔云、ハシキヨシトハ、御門ノモトヘ人ノマイルヲ云也、今案云、朝參ト書テ、ハシキヨシトヨミタレハ、イフナメリ、義ニ付テカクコトモアレハ、朝家ニツカフルハヨキ事ナレハ、ハシキヨシトヨメル歟云々。是亦僻案也。万葉卷十八曰、朝參乃伎美我須我多乎美受比左爾比奈爾之須米婆安礼故非爾家里 一頭云、波之吉歟思伊毛我須我多乎云々。是ハ、朝參乃五文字、一説ニハ波之吉與思トアルソト

云ル也。朝參ヲハシキヨシトヨムトイフニハアラス。顯昭、此等ヲ見テアシクコロエラレタルナメリ。朝參ハ、ミマイリトモ、ミカトマテトモ訓スヘシ。マテハマウテ也。

^{(32ウ)33才} 万葉第三、阿倍広庭卿歌、兒等之家道差間遠鳥野于玉乃夜渡月爾競敢六鴨 コレハ、兒等カ家遠キホトニ明月ニ乗シテ我カユカン

コトライヒ、愛也思ノ歌ハ、月ノイサヨフテ大延ニ出テモヤラハ、ウレハシキナリ、然レトモ、ヨシサモアラハアレ、遠キ里ナラハコソユフヤミノミチモタトくシカラメ、マチカ」(32ウ)キサトヨリキタラン君ナレハ、ミチヲタトルホトモアルマシキト思テ、月モ大ノヒニテラセルモノナラントナリ)

[53]

○阿良多麻能伎倍乃波也之爾奈乎多氏天由吉可都麻思目移乎佐伎太」

(33ウ) 多尼 万葉卷十四相聞、遠江国歌也。伎倍ハ所名也。アラタマノトラケルハ、アラタマノトシノ来リ経ルトツケン料也。所謂頭辞也。古事記、美夜受比売御歌曰、阿良多麻能登斯賀岐布礼婆阿良多麻能都紀婆岐間由久云々。新年之来経者、新月者来歴行ト云事也。奈ハ汝也。由吉可都ハ、難行也。ユキカツトモ、ユキカテトモ、ユキカネトモ、ユキカヌトモイヘル、皆音韻ノ相通也。移ハ己也。日本紀・万葉集、ヲノレト云コトラ、イトモ、サトモ、シトモ、シヤトモ、シエトモイヘリ。ミナ己ノ字也。歌ノ意ハ、伎倍ノ林ニ汝ヲ先立テハ、ユキカタカラマシ、己ヲサキタテヨトイヘルナリ。己トハ我ヲイヘリ。タニニハ、タテネト云詞也。今世流布ノ万葉ニ、目ノ字ヲ自トセリ。板行ノ誤ナルヘシ。第一卷ニモ、玉匣將見圓山乃狭名葛佐不寐者遂爾

有勝麻之目 トヨメルアリ。又、万葉ニ相聞ト云ハ恋ノ歌也。此歌ニ

就テ案スルニ、卷十一云、アツク璜之寸ハキ（34才）戸我竹垣編目從毛妹志所見者吾戀目八方 此寸戸ノ二字モ、キヘト訓スヘキ歟。アラタマノキヘトツケタルカ故也。^①キヘガ竹トイヘルモ、キヘノハヤシト云ニ同シ。

〔或物〕ニ、スコカタケカキトイヘリ。スコトハ、イヤシキモノ、意ニイヘル歟。奥義鈔云、アラタマトイフハ、年ト知りタレト、集云、

秋ハキノシタ葉モミツルアラタマノヒノヘシユケハ風ハヤキカモ又云、アラタマノストカ竹カキアミメヨリモイモシメスハワレコヒメヤモ カヤウニヨメリ、タ、アラタマルトイフ意ナリ、コノカキモアタラシキカキトイヘルニコソ、スト、ハ、寸戸トソカキタル云々。カクモイハレテハヘレト、アラタマノキヘトツケタルハ、猶髓ナル事ニヤ。又、集ニハ所見者トハヘルヲ、ミエスハトイヘル、大ナルタカヒナリ。又、卷十云、秋芽子乃下葉赤荒玉乃月之歴去者風疾鴨ト

ハヘルヲ、ヒノヘシユケハトイヘルハ、月ノ字ヲ日ノ字ニ見タカヘルニヤ。是モ、ヒノヘシユケハト云ヨリ、故事記ノ詞ニモカナヘレハ、月ノヘユケハト云ハ、タシ（34ウ）カナルヘシ。風イタミ、風ハヤキハ、イツレモアラキ意ナレハ、イツレニテモアリナン。スヘテ、奥義鈔ニ、万葉・古今・後撰・拾遺等ノ歌ヲ（イフ）ニ、違依セルコトノ

ミオホシ。サテシモ義理ラツクルホトニ、アラヌスチニヒキモテナセリ。人マトハシトモイツヘシ。ソレヲ後世ニハ、清輔朝臣ノ説也、奥義鈔ニハヘリナト、ヲチマヒカシコマリテ、手サ、ヌコトニスルナリ。智者千慮必有一失、愚者千慮有一得トイヘルモノヲ。^④彼鈔云、

カケロフニ見シハカリニヤハナチトリユクエモシラヌコヒニマトハン カケロフニミシハカリトハ、ホノカニミシトヨメルナリ、ハナチトリトハ、コニイレテカフトリヲハナチタルライフナリ、イツチカユ克蘭シラネハ、ユクエシラヌコトニヨムナリ云々。今考後撰集、浜千鳥トアリテ、放鳥トハナシ。古今集第十八、ワスラレム時シノヘトテ浜千鳥ユクエモシラヌアトヲト、ムル 此詞ニモ同シケレハ、浜千鳥ヨロシクコソ。万葉ニ放鳥トヨメルハ、池ニマレ、園ニマレ、放テカフ鳥ライヘリ。人ニナレヌホトハ、ツハサヲキリテ放ツコトモア（35才）ルナリ。籠ニイレカヒナトシタル鳥ヲ虚空ニハナテルヲ放鳥トヨミタル歌ハミエス。伊勢歌、

放鳥翼ノナキヲトフカラニイカテ雲居ソオモヒカクラン トヨメルヲ、籠鳥恋雲コ、ロナリト云人モハヘレト、籠ニイルコトハ、モトヨリツハサノアル鳥ナレハ、外ニニカサシトノ料ナメリ。翼ヲタチナカラシメテイレンハ、^⑤何ノ用ニカハヘラン。〔若〕^⑥

〔筑前国司山上億良聊布私懷歌
（34才書入）〕

万葉第五 加久能未夜伊吉豆伎遠良牟阿良多麻能吉倍由久等志乃可伎利斯良受提

〔54〕○万葉第十卷、七夕歌云、水良玉五百都集 乎解毛不見吾者千可太奴相以待爾 是ハ日本紀ヨリ出タル〔詞〕ナメリ。神代上卷曰、天照大神、便以三八坂瓊之五百箇御統、マツワフソノミツツ經ニ其鬘ミヅノミツツ及腕ヒラフサニ。又曰、其頸ソノクビ所嬰五百箇御統之瓊。註曰、御統、此云美磨屨。釈云、昔、神人、以珠玉為飾、頸玉・手玉・足玉之類、是也、闕穴於玉、聯綴數玉、令嬰

纏也、故称五百箇御統之玉、鈔云、八坂者出玉之地名、又、坂与尺訓

同、言貫珠之緒長八尺也、瓊赤玉也、五百箇五百顆也、御統謂貫五百

(35ウ) 顆玉於糸也云々。今案韻書、統、総也、総、聚束也ト註セ

リ。統ヲスマルトイヘルハ、アツマルト云義也。昴星ハ、七ツアルニ

ヨリテスマルホシト云モ、此義也。俗ニハスハルホシト云フ。マトハ

ト同響ナレハ、タカハス。又、古事記下、昭姬歌云、阿米那流夜游登

多那婆多能宇那賀世流多麻能美須麻流云々。由是思之、万葉ノ五百都

集モ、イホツスマルト訓スヘキ歟。集ノ字、アツマル・スタクナトモ

ヨメレハ、スマルトヨマンコト、何ノクルシミカハ侍ラン。イホツ、

トヒトヨメル、ワロキニハアラサナレト、イホツスマルトヨマンハ、

古事記・日本紀ニハヨク叶テ侍リ。

(第^{35ウ}十八)、家持歌、思良多麻能伊保都都度比乎手尔牟須妣於許世牟

安麻波牟賀思久母安流香)

(撰^{35ウ}理也。統、総也。統、聚束也)

(55) ○万葉卷八、紀女郎折攀合歡花并茅花贈大伴宿禰家持歌二首其一曰、

戯奴和氣之為吾手母須麻爾爾春野爾拔流茅花曾御食而肥座 戯奴ハ、アノ

トモ、アヌトモ点(スヘシ)。(36オ)註シタレハ、ワケ

トモヨメリ。サテ、アヌモワケモ、吾也。五ノ字、ワトモ、アトモ、

ワレトモ、アレトモ、ワカトモ、アカトモ、ワキトモ、アキトモ、ワ

ケトモ、アケトモ、ワヌトモ、アヌトモヨメリ、通音之転也。アヌト

ハ、ワレノト云事也。日本ヲ倭奴国ト云モ、此国ノ人初テ漢土ニ入シ

時、漢人問曰、汝ノ国ノ名如何、曰吾之國耶、漢人、サテハ名ヲワノ

ト云ト意得テ、ソレヨリ倭奴国トモロコシヨリ名付ケルナリ。此歌奴

ヲ略シテ倭国トモイヘリ。ノアヌハ、アヌカトハ、ワレノカト云ルナ

リ。日本紀ニ、其下ト云ヲソノカモト云ヒ、万葉ニ、セナカト云ヲ

セナノカト云ヒ、シヒカト云ヲシヒノカト云ル類也。サテ、アヌハワ

レナレトモ、コノ歌ハ人ヲ指シテ云リ。人ヲワレト云ハ、シタシムル

詞也。吾妹・吾君・吾殿・吾御前・吾主・吾男ナトノ類也。又、只ワ

レトハカリモ云リ。日本紀ノ伊装阿藝伊佐智須区祢ト云(36ウ)ヒ、

古事記ノ佐邪伎阿藝之言ト云ル類ナリ。日本紀ニ、備ノ字ヲ、ヲレト

ヨメリ。今ノ代ノ俗、(自)ヲレト云ヒ、人ヲワレト云フ。己ノ字モ、

ヲノレトモ、ナンチトモ、ヲレトモヨミテ、人ニモワレニモナルナリ。

歌ノ意ハ、五主カタメニワカヌキタルツハナソ、トヨメルナリ。ワカ

タメニワカツメルト云フヲ人ノイフカシミ思フ故ニ、委シク註侍ルナ

リ。其二曰、晝者咲夜者戀宿合歡木花君耳將見哉和氣佐倍爾見代 此

君ノ字、吾ノ字ニ作ルヘシ。字形似タルニヨツテ、伝写ノ誤也。和氣

ハ吾也。亦人ヲ指テ云リ。或人曰、頭昭袖中抄ニモ君耳トアリ、シカ

レハ昔ヨリ君ノ字ナルヲ、今改シ事如何。答曰、頭昭以前ヨリ誤レリ。

頭昭不及了簡(勘弁)(歟)。日本紀、握ニ天香山之五百箇真坂樹

(云々)。握ハ掘字之謬也。頭昭、袖中抄ニ引用ルニソノマ、握字ヲ

不改。又、日本紀、湯津杜(木)ト云フ。杜ハ桂(37オ)字ノ謬ナ

リ。シカルヲ、奥義鈔ニソノマ、杜ノ字ヲ用タリ。清輔・頭昭、不足

雙據歟。字過三写鳥成焉馬トイヘリ。清輔・頭昭時タニ如此。況ヤ爾

来數百年ヲ經テ今世ニ至テハ、日本紀・万葉、誤文脱字亦幾多哉。人

不具一隻眼、争読古書其闇壞乎。

(ワカ) ワキ ワク ワケ ワコ ワラ ワレ ワロ

(戯ハ吾也。奴ハ之也。アカトイヘル同シ)

[56] ○万葉

テモスマニウエシ萩ニヤカヘリテハ見レトモアカヌコトソツクサン 童蒙抄曰、手モスマニトハ、又モナク独ト云フ也云々。今按、スマニトハ、不住ト可書歟。ヤスマス、トマラサル意也。スムト云モ、トマルナリ。タスマト云モ、立住也。タチトマル(ライヘリ)①。日本紀歌ニ、不忘ヲワスラニト云ヒ、不知ヲシラニト云ヒ、万葉ニ、不厭ヲアカニト云ヒ、不肯ヲカヘニト云類多シ。不住ノ字、(スマ)ニ。(スマ)ネ。(スマ)ヌ。(スマ)テ。スマザ。スマジ(37ウ)・スマズナトヨム、皆音韻ノ相通也。伊勢物語ニ、イハエニイハネハムネニサワカレテ心一ツヲサタメカネツル 此イハエニモ、言者不得ト可書。イハハイヒエスト云事也。

[57] ○伊勢物語歌 アフナ〜思ヒハスヘシナソヘナクタカキヤシキクルシカリケリ

或物ニ、アフナ〜ハ念比ナル意ナリ、ナソヘナクハ平等ノ義也、歌ノコトハリハキコエテハヘレト、文字ノイカニカケルニカオホツカナシ。今案、アフナ〜ハ、ナツサ〜ト同詞歟。アトナト通音、フツツト同韻ナリ。ナツサ〜ハ、ナフサ〜トモイフ。随分ト書ケリ。白居易詩、随分ナツサ〜管絃ハ還ハ自足レリ、等閑ナホヤリナカラノ篇詠ハ被レ二人ニ知ル。

(世ノ中ニタカキヤシキナソヘナクナトアリソメシオモヒナルラ)

ン 山姫ノコキモウスクモナソヘナクヒトツニソメヌ四方ノモミチハ)

[58] ○同物語 ワタツミノカサシニサストイハフモ君カタメニハオシマサリケリ 或物ニ、イハフハ愛スルヤウノ意也云々。今案、イハフハ、齋ノ字也。モハ藻也。万葉ニ、齋礼トカキテ、タムクルトヨメリ。齋児イハヒコ、齋姫イツキヒメ、齋宮イミミヤ。イハヒ・イ(38オ)

ツキ・イミ、皆潔清ノ義也。祭ノ字ヲモ、イハフトヨメリ。神ライハヒマツルトハ、奉祭トカク也。然レハ、神ニタムケマツル潔清セル藻ト云也、藻菜トテ、神ニタムクルコトノアルナリ。

[59] ○冠萊公詩、野水無人渡、孤水尽日横ト云ラ、画図ニカセケルニ、

ヘ一行分欠

[60] 万葉第三、(鴨君足人香具山歌) 人不コカスアラクモレルシヤカリスルガカヘトテ榜有カス雲知カス之潜カス爲カス鶯カス与カス高部カス共カス舩カス上住カス

シルシトハ、イチシルシト云ラ略セリ。著ノ字ヲ、シルシトモ、イチシルシトモヨメリ。顯著ノ義也。知ノ字ハ借字也。(万葉ニカクカキタルユヘニ、和歌ノ抄物トモニ)①、シルシハ知ノ字也ト(オモ)ヘリ。万葉ニハ字ヲサマ〜ニカキタレハ、ヨクワキタメシラスハ、正字・借字ニマトヒヌヘシ。第十一、雲谷クモタニモルケレタ、ハナクサメニミツクシヤクニフマナニ灼クモタニモルケレタ、ハナクサメニミツクシヤクニフマナニ發クモタニモルケレタ、ハナクサメニミツクシヤクニフマナニ意クモタニモルケレタ、ハナクサメニミツクシヤクニフマナニ追クモタニモルケレタ、ハナクサメニミツクシヤクニフマナニ見クモタニモルケレタ、ハナクサメニミツクシヤクニフマナニ乍クモタニモルケレタ、ハナクサメニミツクシヤクニフマナニ爲クモタニモルケレタ、ハナクサメニミツクシヤクニフマナニ及クモタニモルケレタ、ハナクサメニミツクシヤクニフマナニ真相クモタニモルケレタ、ハナクサメニミツクシヤクニフマナニコノ灼ハ正字也。灼然トカキテ、イチシルシトモヨマセタリ。日本紀ニ(38ウ)ハ、イヤチコトモ訓セリ。タカヘハ鷓トカケリ。小鸭ノ類也。③香具山ハ、藤原宮ノ御世ノ離宮トミエタリ。第二卷ノ長歌ニ、我大君ノ萬代トオモホシメシテ作レリシ香久山ノ宮トアリ。此歌ノ長歌ニモ、

天ノ芳来山霞夕チ春ニ至レハ松風ニ池浪立テ櫻花〔コ〕^①ノクレシケニ
トモ、大宮人ノ夕チ出テ遊フ船ニハトモヨメリ。今ハアレテ船ニ梶棹
モナクテ榜人モナクサヒシキサマヲヨメリ。此等ノ歌ニヨリテ、第一
卷、高天原広野姪天皇御製歌ニ

春過而夏來良之白妙能衣乾有天之香來山

トヨメルソ、詞林采葉ニハ、此山ニ衣ヲホスト云事、甘檀神トテマシ
マススハ、人〔実〕^⑧事、虚事ヲタ、シ玉フ、然レハ、衣ヲ神水ニヌラ
シテホスト申伝タリ、正義ヲ不知、今考之、香具山ハ、藤原ノ宮ノ御
宇、離宮トミエタリ、池ナトモアリケル〔39オ〕也、此山ニハ昔人ス
メル故ニ、衣ヲモホシケル歟、必科ヲ糺ス許ニテハアラシ云々。此歌、
新古今・百人一首ニハ、夏キニケラシコロモホステフト引直シテ入ラ
レタリ。或物云、此歌、新古今夏部ノ巻頭ニ入タリ、更衣ノ歌ト云所
ヲヨクミタテタリ、更衣ノ歌トスル意ハ、天ノカク山、春ノ間ハ霞フ
カクオホヒカクシテ、ソレトモミエサリシカ、春過ヌレハ、霞モ夕チ
散シテ、此山明白ニミユルヲ、白妙ノ衣ホストハイヘリ、ホスハ衣ノ
縁ニイフナリ、イカテカ明ニミユルハトテ、白妙ノ衣ト云ソトナレハ、
春ハ霞ノ衣ニオホハレタル山ニ、其衣ヲヌキタルヤウニナレハ、イヘ
リ、霞ノ衣ヲ以テイヘル詞也、定家卿、此歌ヲトリテ、
花サカリ霞ノ衣綻テ峯白妙ノ天香久山 花ニテ峯ノ白クナリタル
也、又云、
大井河カハラヌ井セキヲノレサヘ夏キニケリト衣ホスナリ 井セ
キニカ、ル浪ヲ衣トイヘリ〔39ウ〕、此等ニテ知ヘキナリ、天香来山

ハ、天照大神、アマノイハトニヒキコモリタマヒシトキモ、天兒屋根
尊ヲ始テ、八百万神タチ、神樂ナトシテ、此山ノ榊ヲキリテサ、レシ
事アリ、其後、イハトヲヒライテ、二度此界ヲテラシタマフ也、サレ
ハ、クラヤミニナリタルモ、テリカ、ヤキナトスルトイフ意ヲコメテ、
霞ノ衣ヲヌキテ明白ニ此山ノミエタルヲ、白妙ノ衣トイヘルニヤ、衣
ハ白キモノナレハ、カクノコトクイヘルナルヘシ。或人曰、霞散シテ
山ノ明白ニミユルヲ白妙ノ衣ホストイハンコト、イハレス、白氏文集
ニモ、春有錦綉谷花、夏有石門澗雲、秋有虎溪月、冬有廬峯雪トイヒ、
願頌之四時辞ニモ、夏雲多奇峯トイヘレハ、雲ハ夏ヲ宗トセルナリ、
春過テ霞ノ衣ハ散シ、夏来テ雲ノ衣カ、レルヲ、白妙ノ衣トハイフ也、
霞トモ雲トモイハテ、衣トハカリイヒテ、ソレトシラセタルカ妙ナリ。
又或人曰、白妙ノ衣トハ、卯花サキテ衣ホスニ似タルヲ云也云々。カ
クサマクニイヘル中ニ、詠歌ノ時代ヲ以テミレハ、当時ノ詠作ハ、
語意共質直也。而又有〔40オ〕自然之妙。非如後世華構艶巧之所作
也。然レハ、霞トモ雲トモナキヲ、衣ト云一字ニ付テ、霞ノ衣ソ、雲
ノ衣ソナトイハンモ、イリホカニキコユヘシ。春ハ霞ノ衣ニオホハレ
タル山ノ、其衣ヲヌキタルヤウニ明白ニミユルヲ、白妙ノ衣トイヘリ
ナト云、〔ウタテ〕^⑨アルコトニヤ。卯花トイヘル、ヨリトコロモナキコ
トナリ。詩モ歌モ、言外ニ意ヲ求ムルコトモハヘレト、此御製ニトリ
テ、此御意ニハアラシカシトソオホユル。唯采葉〔ノ説コソアラマホ
シケレ〕^⑩。春過テ夏ハキヌラシトヨメルハ、〔文書モ〕露往霜来、寒往
暖還トモ作り、万葉十七ニモ、ミ冬ツキ春ハキタレトモヨメル類多

シ。夏ハキヌトハカリイヘルヨリ、春過テト(上ニヲケル)イヘルニ
テコソ、四時ノウツリカハレル間断ナキ感慨モハヘレ。勿論ノ事也ナ
ト云ハンハ、無下ノコトナメリ。衣ホスコトハイツトモハヘレト、夏
ハコトニ物ノ乾ヤスキコトナレハ、イヘルナリ。衣ノホシタルヲ御覽
シテ、サテハ夏ニナリヌルヨトシロシメシタルナリ。白妙ヲケルハ、
万葉ニ、白妙ノ袖トモ(40ウ)、衣トモオホクヨメリ。諸色アル中ニ、
白ハ本色ナレハ、イヘルナメリ。

[61] ○謝宣城詩、大江流日夜、客心悲未央ト云ルハ、古今ノ奇作也トソ。

此詩、上ハ夫子ノ逝者如斯、夫不舍昼夜トノタマヒ、下ハ戴叔倫カ沅
湘日夜東流去、不為愁人住少時トイフ(意)ヲ兼(タリ。ケニ)オモ
シロ(クモ)キコエハヘリ。鴨長明カ方丈記ハ、文章、歌ヨリハヲト
リテキコユ。サレト、行川ノナカレハタエスシテ、シカモトノ水ニ
ハアラヌ、ヨトミニウカフウタカタハ、カツキエカツムスヒテ、シハ
ラクモト、マルコトナシトイヘル発端ノミソ、語意共ニヨロシウ(オ
ホエ)ハヘル。林羅浮ハ、詞ハヤサシケレト、昼夜ラステサル光采ヲ
ハ、イカテカシリハヘラントイヘリ。誠ニ夫子ハ、天地之化、道跡之
本然ヲトキタマヘレハ、高クモ深クモハヘルヘケレト年月ノ(往来ヲ
シウツリ)生死ノ転処イトマナキコトハリ、亦其中ニアラスハアラ
ス。建王ミウセタマヒシトキ、齋明天皇ノヨマセマヘル(41オ)

明日香川ミナキラヒツ、行水ノ間モナクモオモホユルカモ

夫子ノ語ヲ用ヒタマヘルニヤ。イトアリカタクモ、アハレニモ侍ルヘ
シ。(誠生死昼夜ノ相ユキキタレル、一息ノ停リナケレト、其キハニシ

モ至ラ)ネハ世ヲノトカニ思ヘルハ人皆ノ(ナラヒナリ。然レハ、聖
人、其ミヤスキモノニツイテ、川流ヲサシテ示シタマヘリ)。

[62] ○東坡詩、此水与此人、相追而云々、山谷詩、逝川云々トイヘルハ、

人ノ生死ノ一息ノ停リナキハ、逝川ノ昼夜ナキカコトシ、トイヘルナ
メリ。誠ニ其ト、マルコトナキモノヲ(タトヘミンニハ)、川流ニシ
クハ(ナカルヘシ)。故ニ、詩歌ニモ多クヨソヘイヘリ。(然レトモ、
ミナ夫子ノ語ヨリイテタリ。ヲノレシモハシメタルニアラス。近時)、
長嘯子ノ歌ニ、クモキエテ空ノカキリニスム月ノ行トモミエスアハレ
世ノ中トヨメル(ゴソ)、イト(メツラシク)、蘇新黃奇ヲカヌトモ
イヒツヘケレ。此歌、ハシメ得庵玄同予ニカタリシハ

ナカメツ、雲ノキヨラニスム月ノユクトモシラスアハレ世ノ中
(コレ)長嘯子ノヨメルナリ、ナカメツ、(41ウ)ト云五文字ノメテ
タサ、ケニタ、人ノヨムヘキトモオホエス、ナトイ(ヒシ後)、長嘯
子ニアヒテ、カクナンハヘリシ、ナトトヒハヘリケレハ、イツノコト
ニヤ、ヲノレシモヨミタリトハ、タシカニシモオホエス、キヨラナト
云詞ノミ、タチテ、ナトイヘリ。其後、ハルノホトヘテ月ノ歌トモ
アマタヨメル中ニ、此歌ノハヘリケレハ、得庵カタリシモサルコトニ
テ、心ニカナハテ、カクヨミカヘラレタルニコソトシリハヘリキ。古
人曰、賦詩十首、不若改詩一首、少陵有新詩改罷自長吟之句、雖少陵
之才、亦須改定文字、頻改工夫自出トイヘリ。歌ニ於テモ亦可然。

[63] ○万葉第二云、八多籠良家夜晝登不云行路乎吾者皆悉宮道叙為是ハ
日並皇子尊殯宮之時、皇子宮舍人等慟傷作歌二十三首、其一也。ハタ

コラハ、旅籠等也。旅行ノ時モタラス食籠ヲ云ナリ。ソレヲ負スル馬ヲハタコムマトイヘリ。宇治物語ニモ、旅籠馬、皮籠ナトイヘリ。①今モ道路ニ鄙食ヲ設テ旅人ヲ(42才)停ル(亭子)②ヲ、ハタコヤト云モコレ也。歌ノ意ハ、樞岡ハヨノツネ旅人ノユキカフミチニテ、何心ニカクルトシモアラサリシヲ、皇子ヲ葬リ奉リシヨシ③宮道ノコトク我カユキカヨフコトノハカラサルヲイタメルナリ。同時歌云、外爾見之檀乃岡毛君座者常都御門跡待宿為鴨 皇子ハ天武ノ御子、文武ノ御父、〔天武十年ニ〕④皇太子ニ立チタマヒテ、〔持統〕⑤四年ニ薨シ玉フ、草壁太子ト申セシ御事也。

島、宮、勾乃、池之放鳥人目爾戀而池爾不潜

島、宮上、池有放鳥荒備勿行君不座十方

御立為之島乎母家跡住鳥毛荒備勿行年替左右

鳥埴立飼之鴈乃兒栖立去者檀崗爾飛反來年

初一首ハ人丸歌、後三首ハ舍人等カ歌也。袖中抄ニハ、勾乃池ヲ勿乃池之トア(42ウ)リテ、マナノイケナルトヨメリ。日本記ニ、莫ヲマナトヨメレハ、勿ノ字ヲマナトヨメルハ、同事也。八雲御抄ニモ真名池トハヘレハ、勿池可然歟。但、二条院ノ本ニ、シマノミヤマカリノイケトハヘレハ、尤用之ト先達モイヘリ。不潜ヲ、顯昭ハク、ラストヨメリ。アサラストモ訓スヘシ。コレハイツレニテモアリナン。

〔64〕○定家卿歌 〈歌欠〉

サナカラハ其随トカケリ。ソノマ、ト云ト同詞也。(随ノ字、マ、トモヨメリ)。続日本紀・万葉集等ニ、神随トカキテカミナカラトヨメリ。

カミカラ・トコロカラナト云モ、神随・所随トカケリ。カンカラカモトモヨミ、カンナカラカモトモヨメリ。トコロカラカモトモヨメル、同詞也。アフ人カラノ秋ノ夜ナレハト古今ニヨメルモ、逢人随トカクヘシ。万葉ニハ、皆悉トカキテ、サナカラトヨメリ。コレハ、サナカラソレニ似タリナト云ヲ、音ニカイシツ、ソレナリナト云意ナ(43オ)ルニヤ。

〔65〕○吉水僧正ノ歌ニ、マチクタリヨロホヒイテ、ミワタセハ物ノコトハリミナシラレケリ

マチ(ハ町堤、坊トモカケリ)。クタリハ行トカク。マチナミ・マチツラト云ト同詞也。行樹トカキテナミキトヨミ、雁行トカキテカリノツラトヨミ、書行トカキテフミノクタリトヨメリ。(韻書)行、寒剛切、列也。ヨロホフハ、(日本紀ニ)徒倚トカケリ。(楚詞)步、徒倚而遙思。註、徒、遷移。倚、立也。モノ、コトハリハ、物理トモ、物情トモカケリ。孟子曰、物之不齊、物之情也。註、情、理也。

〔66〕○微雲ノ点綴ヲ愛スルハ、太清ヲ滓穢ストカ、心キヨカラヌコトニイフメレト、千載集 タトヘテモイハンカタナシ月影ニ薄雲カケテフレル白雪

山家集 中々ニ時々雲ノカ、ルコソ月ヲモテナスカサリナリケレ此景色、又一方ニステカタルヘシ。望月ノクマナキヲ、千里ノ外マテヨルハスカラニナカ(43ウ)メタランハ、ケニ常ニサルコトナレト、西行ノ歌ハ、即チ西行ノ歌ニ、

中々ニクモルトミエテハル、ヨノ月ハ光ノソフ心チスル トイ

ヘル意ナリ。月色如昼ナトイヘル意ハ、詩ニモ歌ニモオホクミエハハレト、此上人ノ歌ニ、

月ノタメヒルトオモフカカヒナキニシハシクモリテヨルヲシラセヨ
イカハカリサヤカナリケン、オモヒヤルタニイトサヤカニコソ。
誠ニ、ツネノコトニテカクアタラシクヨミイタセル、柿本ノ再タヒ世ニ〔キタレル〕^①ナト、帝ノノタマヒシモアリカタクヤ。

[67] ○意ハ同シケレト、詞ノモテナシニテスナホニモ、タクミニモキコユルナリ。

疊リナキ月ノオモテニトフカリノ影ヲ雲カトマカヘツルカナスナヲニヤスラカナリ。清見カタ雲モマカハヌ波ノ上ニ月ノクマナルムラチトリ哉

タクミニキヨラカナリ。〔44オ〕

[68] ○ウスミニカク玉章トミユルカナカスメル空ニカヘルカリカネカラスハニカク玉章ノ心チシテ雁ナキワタルユフヤミノ空

〔以下八行分欠〕〔44ウ〕

[69] ○万葉卷十一、寄^{キテ}物^ニ陳^ル思^フ歌^ニ曰、云云物者不念^ト斐^ト太^ト人^ト乃^ト打^ツ墨^ス繩^ス之^ヲ直^ク一^ト道^ニニ

〔第七〕^①卷、羈^ル旅^作、斐^ル太^ル之^ノ真^ニ木^ト流^ル云^フ尔^ノ布^乃阿^事者^雖通^船曾^不通

花鳥余情云、トカクト云詞ハ兔ノ角トカケリ、兔ノ耳ヲ角トイヘルヨリ始レリ、ソレニヨリテ、兔ニ角ニ、兔スルモ角スルモ、兔テモ角テモナト云詞ハ出来レルナリ。壺囊抄曰、トカクトイヒ、トモカウモ

ト云、詞ハ替リ侍レトモ、又同シ詞ニモ成也、其故ハ、トカクトハ常ニ兔角ト書也、是ヲ兔毛角モト云ハハ、同シ詞ニ成也、トモカウモトハ、左右ト書ケリ、兔、角ハ無物也、大師三教指帰ニモ、亀毛先生・

兔角公・蛭牙公子トテ、各無物ヲ出サレタリ、亀ニ毛ナシ、蛭ニキハナシ、兔ニツノナシ、爾ルニ詞ニ申サンハ、兔角ニ不及、兔角案シ巡スナト云ハハ、物ヲイヒモテユキ、物ヲ思ヒ廻ストテハ、有マシキ事マテ案シツ、クレハ、シカイヒナラハセルニヤ、トモカ〔45オ〕ウモトハ、左右ト書侍リ、万葉〔第三〕ニ、藤原八束歌ニ

イモカ家ニサキタル花ノ梅ノ花実ニシナリナハ左右セ^②ン ト侍リ、又トモカクモトモヨメリ、同集ニ 武藏野ノ草ハ諸向左右君カマニ

〔我ハヨリニシヲ ト云リ、又東南ト書テ、トサマカウサマトヨム

也、或人管丞相ノ御作ノ詩ヲ北野ノ社頭ニシテ、東行南行雲眇々、二月三月日遅々、ト詠シタリケレハ、天神御託宣アリテ、トサマニユキカウサマニユク雲ハル、キサラキヤヨヒ日ウラ、トコソ詠ス

ヘケレト被仰ケルト也、東西ハ縦、南北ハ横ナレハ、左右縦横共ニ其心叶ヘル也〔トイヘリ。今案〕^④、花鳥余情ニ兔ノ耳ヲ角トイヘル、首楞嚴經ニ、僧伽梨角動及^二傍人^一 トイヘル時モ、角ヲミ、トヨマセタレハ、サモ侍リナシ。但ソレニヨリテ〔トスルモカクスルモナ〕^⑤

ト云詞ハ出来レルトイヘルハ、ワイ、シクモ侍ラヌヲヤ。兔角〔ノ字ハモト〕^⑥伝灯録ニ出タリ。ソレハ倭語ノトカクト〔45ウ〕云詞ニカナヘル意〔モミエハラス〕^⑦。壺囊抄ニ〔兔、角ハナキモノナレハ〕アラヌコトマテモ思ヒ廻スヲ兔角案スル〔等ト〕イフヘシト〔オモ〕^⑧

ヘル、サモアリケナレト、又トモカウモトイヘル時ハ、二様ノ詞トキ
コユレハ、一カタニナキコトノミニモナシハテカタシ。万葉ニ左右ヲ、
トニカクニトモ、トモカクモトモヨメルハ義訓ニシテ、正訓ニアラス。
左右ノ字、訓多シ。日本紀ニタスクトモ（ヨメリ）。佐・佑ノ字ノ義
也。ヲモトトモ、モトコトモヨメリ。（御許ノ意）、侍者ノ義也。万葉
ニ（亦）^⑨、マテトモヨメリ。両手ノ義也。（ヤカテ）ニ一手トカキテモ、
マテトヨマセ（タリ。一手ヲハ、カタテトイフ。両手ヲマテト云。左
右ナレハ、マテヨムナリ）^⑩。東南ヲトサマカウサマトヨメルモ義訓ナ
リ。（此ヲ例シテイハ、）^⑪、西北トモ東西トモ南北トモカキテ、トサ
マカウサマトヨマセンニ、クルシミアルヘカラス。又前後・上下・（有
無・是非）^⑫ノ字ヲサヘニ。白楽天琵琶行ニ、東船西舫ト云ヘルトキ、
東西ヲコナタアナタトモヨメリ。日本紀ニハ、ヤマトカウチトモ訓セ
リ。是亦ミナ（義）^⑬訓（也）^⑭。今、此歌ニハ云々トカキテ、（トニカク
ニトヨマセタリ）^⑮。（46オ）日本紀ニハ、シカノトヨメリ。（按）韻
書曰、云々、猶言如此如此也^⑯ト侍レハ、シカノト云ヘルニカナヘリ。
又曰、云云、衆語也トモ註シタレハ、トニカクニトイハンニタカフヘ
カラス。^⑰以上ノ説トモノ中ニ、左右・東南・云々ハ、正訓ナラテモ
コトハリイヤチコ也。兎角ノ字ソ、唯音ヲカリテイヘルハカリニテ、
意アリテモキコエス。タトヘハ、（スサヒトイヘルヲ取蛇尾トカキ）、
イツシカトイヘルヲ何鹿トカキ、タツキトイヘルヲ鶴寸トカキ、アサ
マシトイヘルヲ浅猿トカケル類也トソオホユル。モシ（蛇尾）・猿・鶴
ノ字ニツキテ（意）^⑱ヲ求メンハ、痴人ノ前ノ夢ナルヘシ。サテ、トカ

クトハイカ（ナル字ソト云フニ）^⑲、何斯ト可書也。ナニカトモ、トカ
クトモヨム、同シ詞也。斯ノ字ヲカクトモ、カトモヨメルコトハ、メ
ツラシカラス。何ノ字ヲト、ヨメルトハ、イカテ知りヌルニカトナラ
ハ、トカクニツケテト云ヲ、ナニカニツケテト云、トニカクニト云ヲ、
ナニ、カニ（46ウ）ト云、トモカクモト云ヲ、ナニモカモト云、（ト
テモカクテモト云ヲ、ナニニテモカニテモ云、トスルモカクスルモト
云ヲ、ナニスルモカスルモトイヒ）、トマレカクマレト云ヲ、ナニマレ
カマレト云、トサマカクサマト云ヲ、ナニサマカサマト云、トイヒカ
クイヒト云ヲ、ナニトイヒカトイヒト云、トヤカクヤト云ヲ、ナニヤ
カヤト云、トセンカクセント云ヲ、ナニセンカセント云、ドラゾカウ
ゾト云ヲ、ナンゾカゾト云、ドウトモカウトモト云ヲ、ナントモカト
モト云フ。亦トデモナキコト、云ヲ、ナンデモナキコト、云、ドラデ
マレト云ヲ、ナンデマレト云、ドウナリトモト云ヲ、ナンナリトモト
云、ドレホドゾト云ヲ、ナニホトソト云、ドノ氏ゾト云ヲ、ナンノ氏
ゾト云フ。亦歌ニ、トモスレバト云詞モ、ナニトモスレハト云也。（然
レハ、ト、ナトハ、イツレヘモイヘル詞）。コレハ、ト、タト通音ニシ
テ、亦タトナト同響ナルカ故也。タトヘハ、那ノ字ニ、トトモ、ナト
モヨブ音ノアルハ、音響通転ノ故ナルカ如シ。余ハ推テ知ルヘシ、不
暇枚挙。又源氏物語ニ、ナニクレト云モ、ナニカノモノト云詞也。何
斯物トカク也。クレハ、コレ也。カキクケコ通音也。又源氏ニ、ナニ
カシクレカシト云モ、何某某也。又万葉ニ、カ、（47オ）クト云詞
アリ。彼此ノ字也。カニカクニトモ云（フ）、同字也。タトヘハ、トカ

クトモイヒ、トニカクトモ云類也。徒然草ニ、ソノコトカノコト、イヘルハ、彼事ソノコトカノコト此事也。万葉ニ彼所此間トカキテ、ソココ、トヨミ、日本紀ニ彼彼茅原トカキテ、ソノくチハラトヨメリ。其事ソノコトカノコト彼事ト〔カ、ンモクルシミアルヘカラサレト〕、其ト云モ彼ト云モ同意ナレハ、彼事此事ト〔カ、ン〕ハ、アマタニワタレハ、味ヤ、深カルヘシ。サレト、彼事此事トハ常ニシモカキナレズ、ミナレサレハ、カノコトコノコト、ナラテハ人ヨムマシケレハ、(此等ハ其意ヲサヘ得タラマシカハ)、マケテ俗ニシタカヒテ、其事彼事トカ、ンニハシカシトモオモヘリ。又斐太人ハ飛弾人ナリ。昔飛弾国ヨリ〔大工ノ出ケルカ中ニ名替アルモハヘリケルナリ〕。一人ノ名ニハアラス。続日本紀ニ、斐太人ヲヒタツトイヘリ。同事也。拾遺集ニハ、ヒタタクミウツスミナハノタ、ヒトスチニト引直シテ、人丸ノ歌トセリ。又ウツスミナハトハ、45才書入 緋ノ一字ヲモヨメリ。

(耳ト角トハ、本カハリタルモノナリ。サレト今、耳ヲ角トモイハ、45才書入 テイヘル歌。イト) (以下欠)

(万第三、帥大伴卿歌、浅茅原曲トヤカウサマニモシオモハフリニサトノオモユルカモ二物念者故郷之所念念可モ可聞念可モ礼器云、曲礼三千。註疏、曲猶事也。シカレハ、曲々ハ事々也。)

(日本紀、東西、トサマカウサマ)

(又東西ヲ横トシ、南北ヲ縦トス。七雄ノ合縦連横ト云モ此義也。46才書入 下)

人南ニ向フヲ正トスレハ、南八面、北ハ背ナリ。スクニ見ワタセルユヘニ、南北ヲタテトス。東ハ左、西ハ右ナリ。ソハタテミル

ユヘニ、東西ヲ横トス。蓋囊ノ説ハコレニタカヘリ)

(70) ○万葉第七、芳野作

神左振磐根コト已凝敷三芳野之水コト分山乎見者悲毛

神祇ノ事ニツケハ勿論、サナラテモ、物ノヒサシクナリモシ、又フルメカシクモアンナルコトヲ、カミサフルト云ナリ。神宿トカケリ。源氏物語ニ、琴ノ音ヲカミサヒテナトイヘルモ、物ニマレ、所ニマレ、ヒサシクナリニテフルメキタルハ、スミワタリテスコキ意待故ナリ。今アタラシクツクリナシタル物ヤ所ヤトハ、ニキハ、シウ亦アサハカナル意モ侍ルモノナリ。宿ノ字ハ素也。註シテ宿草・宿世・宿習・宿諾ナトイヘルモ、素ヨリアリテヒサシクフルキ意ナリ。神ト云モ上ノ字ノ訓ト同シ。上代トイヒ、神代トイフ、皆ヒサシクフルキコトナリ。神ハ乾坤未分ノ昔ヨリ天地已開ノ今ニ至ルマテ、ヒサシウフルクオハシマスナリ。此ヲ国常立尊トモ申スメリ。然レハ、カミト云訓ハ、ヒサシクフルキ義也。万葉ニ遠神ト書テ、ソノカミトヨマセテ、往昔ノコト、(48才)セリ。又源氏物語(榊卷)ニ、黒木ノ鳥居トモハ、サスカニカウくシクミワタサレト云ヘルカウくシクモ、神々敷ナリ。此モフルメキタル義也。俗ニ月サエ霜コホリタル夜ナトヲ、カノくトシタル夜哉ナトイフモ、神々ノ字也。夕霧卷、此鬼コソヲソロシクモアラス成ニタレ、カムくシケテソヘハヤトイヘルモ、同文字也。コリシキハ、凝重ノ字也。凝固重疊之義也。重ノ字、シケトモ、シキトモ、シクトモヨムハ、通音ナレハナリ。(第三二八、足日本能石根許其男美トモヨメリ。シモト云モシケキコト也。以下虫損) 今己凝

敷トカケリ。(第十三、長歌ニハ、石根之許擬敷道トモカケリ。許ノ字)・

己ノ字ニ意ナシ。添字也。万葉ニ此類多シ。カハラ河波トカキ、カケ

ヲ下雞トカケルカ如シ。(第三八、己ノ字・許ノ字ナクシテ、磐金之擬

敷トモカケリ。第七二ハ、石金之擬木敷トモカケリ)。敷ノ字ハ、ヨミ

ヲカリテカケル也。凝重ヲ、コリシキ、コ、シキ、コキシキナトヨメ

ル、音響ノ通也。何レニテモクルシミアラス。水分ハ、ミツワケト頭

昭ハヨミタリ。ワロシ。ミコマリトヨメル、ヨシ。古事記上曰、水分

神、註、訓分云久麻理ト云リ。分ハ物ヲワケクハルト云クハルノ字也

クハリトモ、クマリトモ、コマリトモ云ハ、亦音響ノ通也。悲トハ、

ウケクツラケキ意(48ウ)ニハアラス。イトラシクアハレナル義ニ

テ、オモシロキコトニイヘリ。第十九、大伴家持

六帖、伊勢歌

塩竈ノ浦コキツラン船音ハ聞シカ如クキクハカナシモ

此等モ皆面白キ意ニイヘリ。又イトラシミアハレムコトヲ、ナケクト

モイヘリ。万葉第一、額田王長歌

黄葉乎婆取而曾思奴布青乎者置而曾歎久

日本紀第十七、春日皇女歌

隱国乃泊湍乃川從流來竹之本方乎者箏爾作末方乎者笛爾造吹鳴

三諸之上爾登立吾令見者角障磐余乃池乃水下歷(49オ)魚毛

上爾出而歎

此等皆、感歎称美之義也。

[71] 右同芳野作ノ内ニ

能野川石迹柏等時齒成吾者通 萬世左右二

イハトカシハ、古来不分明。千載集、俊賴歌

難波江ノ藻ニ埋ル、玉柏アラハレテタ二人ヲコヒハヤ

トヨメルヲ、或鈔ニ、玉ハ褒美之詞也、柏ハ石也トイヒナラハセト、

故不知待ルヲ、称名院殿考出サレシトテ、杜子美古柏行ニ、孔明廟前

有老柏、柯如青銅根如石トイヘルヲ引証セリ。如石トイヘルトテ、ヲ

シテ柏ヲ石トイハンコト、イカニソヤ、堅固ナルモノヲタトヘイハン

ニ、柏ノミニ限ルヘキコトカハ。凡詩歌ニ、ナニ(49ウ)ハナニノコ

トシ、ナニ、ニタリナトイフヲ皆ソノモノトナシツヘケンヤ。如石ト

(イフト)① 柏ハ石也トイハ、已ニ如青銅トモイヘレハ、柏ハ銅也ト

モイヒツヘ(クヤ)②。顯昭云、イハトカシハトハ、岩ニ生タル柏也、

柏ハトキハ木ナラネト、岩ニヨセテ如此ヨメル歟、或人、石ヲハカシ

ハトイヘハ其意歟ト申セト、是ハ柏ト書タレハ非石歟トイヘリ。愚案

カシハトハ、カタキイハト云歟。日本紀ニ、堅磐ト書テ、カタシハト

ヨメリ。タラ略シテ、カシハト云歟。古語ニハ、常ニイフヨリ詞ノオ

ホキモアリ、スクナキモアル也。又常磐堅磐ノトキ、カキハトヨメ

リ。キトシト同響ナレハ、カキハ、カシハ、同詞歟。イツレニテモ、

カシハトハ堅磐ト可書歟。文字ヲ様々ニカケル、万葉ノ常也。イハヒ

ヘハ忌筥ナルヲ、忌戸トカケル類多シ。但此歌、堅磐ナランニハ、木

ノ名ノ柏ノ字ヲハ、カクマシキ歟。此ハ万葉ニ能通達セル人、定メラ

ルヘシ。又或物ニハ、イハトカシハトハ、石近トカク(50オ)ナリ、

又或物ニハ、イハトカシハトハ、岩ノ稜ノ白キヲ云ナリトイヘリ。此ハ、迹ノ字ヲ近ノ字ニアヤマリカキテ、柏ノ字ノオチタル本ニ、点(ハカハラス)⑤ツキタルヲ見テイヘルナルヘシ。逢坂ノ関ノイハカト、ヨメル歌モ、石門^{イハト}トモ、石稜トモイヘル説モ侍レハ、此歌ノイハトモ、石ノ稜トモイヒツヘシ。カシハラシロキトイヘルコトソ、未見及コトナル。此モイハトライイハカト、アヤマリ点シ、柏ノ字ノヘンヲヲトシカキタル本ヲ見テイヘルコトカトモオホユ。此等ハ、筆ツカラシニトリモチ(カキノス)⑥ルニタラサルコトナメレト、初心ノ後生ハ是様ノ事ニマトフコトナレハ、次テニ知ラシムルナリ。袖中鈔ニハ

ヨシノ河イハトカシハノトキハナルワレハカヨハン万代マテニト侍リ。顕昭所見之本ニハ、カシハノト侍ルニヤ。(尤宜歟)。今世板行ノ本ニハ、柏等ト侍リ。等ハ笑ノ字ノ謬ナルヘシ。万葉ニ、ノト云ニ笑ノ字ヲ数処ニ用ヒタリ。成ハナストヨメルカヨキ也。第以下欠(50ウ)トカケリ。ナストハ、(如ク)⑦トイフ意也。通ハ、今世ノ本(ノ)ニハ、カヨハスト点シタリ。カヨハスハ、カヨフナリ。ハスノ反ハ、フナリ。サレト、カヨハントヨメルカ宜歟。歌ノ意ハ、石迹柏ノトキハナルカコトク、ワレモ(カハラス)⑧吉野ヘカヨハントイヘルナリ。昔ハ吉野宮トテ離宮アリテ、代々ノ御門ノ(ミュキ)⑨ナ(リ)マヒラセシコト、日本紀・続日本紀・万葉集等往々ニ見タリ。君ヲモ祝シ奉リテ、万代マテニトハヨメルナルヘシ。

(石迹^{50オ}ハ、イハノアト也。迹、イハトハ、イハアト、云ヲ、アラ略セル也。迹ハ所ノ義也。イハノ所ノ堅磐トカサネイヘルコトモ、

古歌ニ例オホケレハ、イハレタルコトナレト、石ノ所ニ生タル柏木トイハンヨリハヲトレルニヤ。又トキハナストイヘルニハ、柏木トイハンヨリ堅磐トイハンハ、マサリヌヘシ。第十三、川^{カハ}瀬^セ之^ノ石迹^{イハト}渡^{ワタ}ナトモヨメリ。

[72] ○万葉卷十八

(安萬射可流比奈能美夜故爾安米比等之可久古非須良波伊家流思留事安里)⑩

王宮国都トテ王宮ハ王朝之内也。国都ハ諸侯所之地也。然レハ、国都ヲヒナノミヤコト云コトモアリ。又昔ハ諸国ヘ国(司)⑪ヲ遣シテ、其国府ニ置テ政ヲ為シム。是(51オ)ヲ治所ト云。一国ノ都会ナレハ、ヒナノミヤコトモイヘリ。此歌ハサニハアラス。夷ノ天都ニ齊ト云ヲ、ヒナノミヤコニアメヒトシト句ヲツクリタルナリ。顕昭云、ヒナハ田舎也、ミヤコハ京也、アヒメトシハ天齊也、然ハ、ヒナノソラトミヤコノソラト同シトヨメル歟、是ハ家持カ越中(ノ国)⑫ニテ作也、アマサカルヒナトミヤコトハヒトツソラニテアルニ、ワカヒナニギナカラミヤコヲ恋フルモ、世ニイキテアルカヒナリ、他ノ田舎人ハ我ノ様ニ都ヘモ上ルマシケレハ、人々シク京ヲモ恋フマシトヨメル也トイヘリ。此義イカ、ハヘラン。此歌ハ、平城ノ姑大伴坂上郎女カ許ヨリ常人ノ戀フト言フヨリハ餘リニテ我ハ死ヌヘク成リニタラスヤトヨミテ贈リタル歌ノ返ナリ。越中ト平城ト隔リタレト、同シ空ノ中ニ居(51ウ)テ恋フルコトモ猶世ヲ並ヘテ活テアル驗也、恋死ナンコトハ由ナカルヘシト、郎女カ死ヌヘクナリタルトイヘルニムカヘテイ

ヘルナリ。

忘レスハ同空ト八月ヲミヨ程ハ雲居ニメクリアフマテ

惶齋先生ノ歌

命ナリ此世ノ内ハ天地ノヨソナラヌモノヲ遠キ別モ 此等ニテ心得合スヘキナリ。

〔73〕袖中鈔

ナリタツニフナノリセント月マテハシホモカナヒヌイマハコキコ

頭昭云、ナリタツトハ、熟田津トカケリ、但考日本紀云、熟田津、此云爾枳^(マ) 枳豆、然者、万葉ニテモニキタツト可読歟、ナリタツハ伊与ニアル所也、イマハコキ^(52オ)コナハ、許藝乞菜トカケリ、コケコ

ナトモヨメリ、同事也、又柔田津トモカケリ、又熟田津ラムキタツトモヨメリ、同意歟トイヘ。今考、万葉第一、額田女王歌、

熟田津爾船乗世武登月待者潮毛可奈比沼今者許藝乞菜

右檢ニ山上、憶良、大夫類聚歌林一曰、飛鳥岡本宮、御宇、天皇^(ミコト)元年己丑九年丁酉十二月己巳朔壬午、天皇太后幸ニ于伊豫、

湯宮^(ニ)。後、岡本宮、取、宇天皇七年辛酉春正月丁酉朔壬寅、御船

西征始就ニ于海路一。庚戌、御船泊伊豫、熟田津湯行宮一。天

皇御覽昔日猶存之物一、當時忽起感受之情一、所以因製ニ歌

詠為^(ミ)之哀傷也。即此歌者天皇御製焉。但額田王歌者、

別有^(ミ)三(52ウ)四首云云。又第三、山部赤人至伊豫温泉作歌、三湯

之上乃樹村乎見者臣木毛生繼爾家里鳴鳥之音毛不更遐代爾神左備將

往行幸處^{上略} 反歌云、百式紀乃大宮人之飽田津爾船乗將爲年之不知久

云云。由是見之、熟田津ヲ飽田津トモイヘル歟。又飽ノ字ヲニキトヨ

メル歟。(第二)卷二ハ、和^(ニ)田津トモカケリ。熟・柔・和ノ三字、共

ニキノ訓アレハ也。シホモカナヒヌトハ、潮モ叶ヒヌルトイヘルナリ。

潮時ノヨクナレルナリ。(頭昭モ諸本ニモ許藝乞菜ヲ)コキコナトイヘ

ルハ、(榜来)ナントイヘル義歟。コレニテハイカ、キコユ。乞ノ字、

イデ(ト云訓アリ)。コキイテナトヨムヘシ。榜出ナントイヘル也。堀

河院百首、基(53オ)俊、海路歌云

月影ニ四方ノ嶋辺ヲ見ワタセハ潮モカナヒヌ舟出セヨキミ トヨ

メルハ、此歌ヲ用ラレタリトミユ。

〔74〕○万葉第十一、寄物陳思歌

玉緒之島意哉年月乃行易及妹爾不逢將有

頭昭云、玉緒ハ短キ由ニツ、クル事モアレハ、シハシノコ、ロトソヘ

タルニヤ、シハシノ心ナレハ、年ノ易ルマテアハヌソトヨメルカトオ

ホエタリト云々。コレモイハレテ侍リ。但第七

事痛者左右將^{カニカク}為^{セン}乎^ニ紅之寫^ニ心哉於妹不相將有

第十二、玉緒乃徒心哉八十梶懸水手出牟^コ船尔後將居(53ウ)

此両首ヲ以テ見レハ、島ト寫ト字形似タルニ因テ、誤テ寫意ヲ島意ト

カキナシタル歟ト(モ)オホユ。此ハイカ、侍ラン。姑ク臆見ヲ加テ

君子ノ了簡ヲ庶機スト也。ウツシコ、ロトハ、ウツロヒヤスキ心ヲイ

フ也。万葉第十二

百尔千尔人者雖言月草之移情、吾將持八方 トモヨメリ。又正シキ

現在ノ心ヲイヘルモアリ。万葉十一

健男現心吾無夜昼不云戀度

第十二

虚蟬之字都思情毛吾者無妹乎不相見年之經行者

現心ヲウツ、コ、ロトモヨメリ。同事也。万葉ニ寤寐ノ寤ノ字ヲウツ、トヨメリ。ユメウツ、ト云ハ、夢ハ寐ルカ内ノモノナリ。ウツ、ハ、寤メテアルトキノコト也。心ノ(54オ)ウカトシテ、タ、シカラヌ人ヲ、ウツ、ナシト俗ニイヘルモコレナリ。又現人ト書テ、ウツシヒト、ヨメリ。日本紀ニ現人神ヲアラヒトカミトモヨメリ。

〔75〕○万葉第七、臨時作歌

今年去新島守之麻衣肩之間亂者誰取見

サキモリトハ防人ト書リ。防戦之士也。孝德天皇大化二年初被置防人之由、見日本紀卷二十六。其初ハ何レノ国ニテモ朝敵ノ押トシテ、兼テヨリ被遣ケルニヤ。其後ハ專、筑紫ハ西蕃ニ近ケレハ、不時ニ襲来ノ異賊ヲ守シメンカタメニ、オホクハ東国ノ人ヲ差シテ筑紫ニカタマタセルトミエタリ。其我国々ノ兵ヲ引率スル統領ヲ防人部領使ト云ナリ。第二十、防人歌ニ、健男ノ韞トリ負テナトモヨメリ。マヨヒハ間結也。マユヒヲマ(54ウ)ヨヒトイフハ、通音也。足結ヲアヨヒトメル類也。第十一ニハ、白細之袖者間結奴トモ詠セリ。後鳥羽院隠州ニ狩シタマフトキ、百首ノ御歌ノ中ニ、

ワレコソハ新島守ヨ隠岐ノ海ノ荒キ浪風心シテタテ

イトシモカシコクアハレナル御事ナルヘシ。此新島守ヲニヒシマモリ

トカキタル本アリ。ワロシ。コレモニヒサキモリナリ。第二十、防人歌ニ、大王乃麻氣乃麻爾麻爾島守爾我我多知久禮婆ト云ルトキモ、島守ヲサキモリトヨメリ。防人ノ内ヲ島ナトヘモアカツツカハシテマモラシムレハ、島守ト書テモサキモリトヨメルナメリ。島ヲサキト云ハ埒ノ義歟ト云人ヲアレト、サニハ侍ラシ。防ノ字ハ、フセキトモ、ホセキトモヨメリ。セトサト同音ナレハ、上略(55オ)シテサキト云歟。

〔76〕○万葉卷十一、寄物陳思歌

里中爾鳴奈流雞之喚立而甚者不鳴隱妻羽毛一云里動鳴成雞カケトハ庭鳥也。雞ノ一字ヲヨメリ。然ルニ、万葉ニ家雞ト書タル所アルニヨリテ、伊勢物語ノ歌ニ、クタカケトヨメルヲ、或鈔ニ、クタトハ家ライフ、カケトハイヘノニハトリトカケリ、クタカケトハ重詞也トイヘリ。僻案也。文字ヲ様々ニフルマフハ万葉ノ常也。カケヲ家雞トカケルノミナラス。可雞トモ、下雞トモカケリ。シカレハ、カケトハアシキ下ノニハトリライフトイフヘキヤ。カケヲ家雞トカケルハ、(カハ)ヲ河波トモ河泊トモカキ、馬ヲ黒馬トモ古馬トモカキ、梅ヲ烏梅トモ字梅トモカキ、草ヲ久草トカキ、楊ヲ楊奈木トカキ、石ヲ異石トカケル類也。万葉ノ文字ヲ詠テ其意ヲ得スンハ、惑オホカルヘシ。(55ウ)

〔77〕○万葉第十四、相聞歌

夜麻籽里乃乎呂能波都乎爾可賀美可家刀奈布倍美許曾奈爾與曾利

雞米

旧説曰、山鳥ハメオトコーツ所ニハネス、山ノオヲヘタテ、ヌルニ、
曉ニヲトリノハツオニメトリノ影ノウツルヲ見テ鳴ケハ、ソレヲハツ
オニ鏡カクトハ云也、又曉ニ成テ、雄鳥ノ尾ヲ抬テ丸クシテ見ルニ、
雌鳥ノアル所ノ鏡ニ見ユルナリ、是故ニ山鳥ノ鏡ト云事ハ云也トモイ
ヘリ。然レハ、顯昭ハ、山鳥ノ尾ニ曉コトニ雌鳥ノ影ノウツランコト
イカ、ト聞ユ、文書ニモイハス、イカテカサル事アルヘキト云リ。愚
案、右説ハ山鳥ノ故事ニツラ一ツニ取成シテイヘルナリ。サルカラ人
ノイフカシミモイテクルナメリ。山鳥ノオヲヘタツト云フハ、万葉第
八、家持長歌「(56オ)

足日木能山鳥許曾婆率向爾嬪問為云打蟬乃人有我哉如何為跡可

ト云ヘルニモトツケリ。(或人)田舎ナトニテヲノツカラ見ルニ、山鳥
雌雄一所ニフストイヘハ、山ノオヲ隔ツルニハアラス、雄ノ尾ヲ折返
シテ中ニ隔テ寐ル也トモ申スメレト、山鳥ハオホヤウ峯ヲヘタテ、ヌ
ルモノニコソアメレ。ヲノツカラニナラヒネタルコトアリトモ、オホ
ヤウニツキテヨメルナラシ。昔アリテ今ナキコトモオホカメレト、イ
ヒツキキヌレハ、其定ニヨムコトニコソハヘレ。サテカ、ミカクトハ、
異苑曰、山鷄愛其毛羽映水則舞、魏武帝時南方獻之、公子蒼舒令人取
大鏡著其前、山鷄鑿形而舞不止(ト云ニモトツケリ。由此)清慎公第
三度表(ヲ)後江相公(ノ) (作ル文ニモ)、類山雞之対円鏡舞、而何
為同海鼈之載方壺并而難勝トカケリ。山鳥ハ峯ヲ隔ル事ノアルニ、又
鏡ヲ見テ舞シ事ノアルナリ。峯ヲヘタテキテ鏡ヲカ「(56ウ)クト同時
ノ事ニ云ニハアラス。顯昭コソヨクコトハリテハヘレ。顯昭曰、ヲロ

トハ雄鳥也、次ノハツヲハ尾ニハアラス、ソレモ尾ト云文字ヲハカ、
ス、乎ト云文字ヲカキタレハ、ナラ雄鳥ト意得ヘシ、ハツトハ初トイ
フニハアラス、友ヲ離レタレハ、鞍ヲカヌ馬ヲハハツムマトイヒ、ハ
ツセトイフヤウニ、ヒトリアル雄鳥ヲハツヲト云ヘシ、鏡ヲ其雄鳥ノ
尾ニハ懸ネト、唯カタハラニ懸テ見スレハ、鏡カケトハヨメリ、同事
也、尾トヨム時ニハ皆尾ト云モシヲカケリ、

念友念毛金津足槍之山鳥尾之永此夜平

足日木之山鳥尾乃一岑越一目見之兒爾應戀鬼香

同 足日木乃山鳥之尾乃四垂尾乃長永夜乎一鴨將レ宿

庭津鳥下雞乃垂尾乃亂尾乃長心毛不所念鴨」(57オ)

然(ハ)、此歌ニハ、ハツ乎トカキテ尾トハカ、ネハ、雄トコ、ロウ
ル也トイヘリ。今考仮字遣ニ、雄ノ字ハ端ノヲ也。尾ノ字ハ(奥)ノ
オ也。万葉ハ文字ヲハヤウ(ニ)モテナシタレト、サスカニ仮字遣ヲ
ハミタラス。イツコニテモ乎ノ字ヲハ端ノヲノ所ニ用タリ。(第十四ニ
モ、己カ男ヲトイヘルヲ於能我乎遠トカケリ)。因テ此歌ノヲロ、ハツ
ヲ、皆雄ナリトオモヘル、尤有其理歟。明魏法師ト云モノ、仮字モシ
遣ヲ破リテ、ヲオ・イキ・エエ、(皆ヒトツニカクヘシトイヘリ)トナ
ン。活達トハイフヘカラス。狂惑トイフヘシ。夫(ワカ)ヤマトコト
ノハ、ワツカニヨソチアマリナ、モシ(ナリ。其)内(ニ)イキヒ・
ヲオホ・エエヘトワカテルコト、深キ旨アリトシルヘシ。(万葉ノミニ
アラス)、古事記・日本紀(統日)本紀等、カナ(モシ)ツカヒタカ
ヘルコトナシ。思ノヲヒイトカキ、鶯ヲウクイストカキタルコトヤハ

アル。世ニ伝フ〔仮〕^⑩字遣トイヘル物モ、定家・親行ノ〔ハシメ定メテ〕^⑪作出セルニハアラス。古書ニヨリテカキアツメタルナリ。昔ハカナツヒナシナトイフハ、ワロカナルコトナリ。又奥義抄云、此歌〔57ウ〕意得カタシ、ナキヨハリケメトソアラント思フニ、集ニモナニヨソリケメトアル、オホツカナシ。顕昭曰、ナニヨソリケメトハ、ヨソリハヨルト云詞也、ヨソルトモヨサレトモヨメリ、トナフヘミハ唱ト云事也、鏡ノ影ヲ見テナケハ、山鳥カ、ミヲ見テナクトハ、ヤカテ名ニヨレルコトナリトヨメルナルヘシ、万葉十四、上野歌

ニヒトヤマホコナナワニヨソリハシナルコラシヤニカナナ
爾比多夜麻祢尔波都可奈那和爾余曾利波之奈流兒良師安夜尔可奈
思母

歌ノ意ハ、ニヒタ山ニハツカスシテ〔ワレ〕^⑫ニヨリテハシナルコラハカナシトヨメル也、ハシトハ山ノ外ヲ云意歟、ネハ山ノタカネ也、ワハ我也、サレハ、奥義抄ニナキヨハリケトコソアラメトアルハ、ヨク此歌ノ意ヲホメケル詞也、ニヒタ山ハ上野ノ新田山也。愚案、顕昭〔ヤカテ名ニヨレルコトナリトヨメルトイヘルト〕、ニヒタ山ノ歌ノ註〔トハイチシルシクモ〕^⑬キコエス。マツ万葉ニオクツマ・ハシツマト云コトハヘリ。我家ノ内ニムカヘテ〔58才〕常ニシモ相見ヲハ奥妻トイヒ、外ニアリテヨリノニカタラフヲハ端妻トイフ。亦遠妻トモイヘリ。ネハ峯也。奥妻ニタトイヘリ。ツカナ、トハ、著ナ、ントイヘル也。不著トイフニハアラス。一首ノ意ハ、ヒタスラニ我家ニシモムカヘラレヨ、我ニ心ハヨリシタシミナカラ、常ニモエアハテ外ニアルイモハマスノカナシトイヘルナリ。カナシトハ、イトオシキ意ナリ。

万葉ノ歌トモニテ意得ラルヘシ。第十二

浪間從雲位爾見粟島之不相物故吾爾所依兒等

吾爾所依ヲワレニヨルトヨメルモ、コトハリハタカハネト、ワニヨソルトヨメルカヨキナリ。此モ右ノ意也。第十四

多可伎祢爾久毛能都久能須和礼左倍尔伎美尔都吉奈那多可祢等毛
比氏〔58ウ〕

此モ高峯ニ雲ノ著クカ如ク、我モ君ニ付ナントイヘルナリ。能須トハ如クト云詞也。モヒテハ思テ也。同卷

比登祢尔伊波流毛能可良安乎祢尔伊佐欲布久母能余曾利都麻
波母

ヒトネロトハ他峯也。ロハ休字也。アラネロトハ吾峯也。ヲトロト又休字也。イサヨフハ〔猶予ノ字〕・徘徊ノ字〔タメラヒテタチモトホル義也〕。意ハ、他人ノ妻トイハル、モノカラ、又我ニモ付キナトスルハ〔空ユク〕^⑭雲ノサタメナクテ、アナタコナタノ峯ニ浮ヘルカコト、イヘルナリ。

安都佐由美須惠波余利祢牟麻左可許曾比等目乎於保美奈乎波思尔
於家礼

アツサユミハ梓弓也。末ハ依トイハン頭辞也。マサカトハ唯今ノ端的ヲ云也。〔ナハ汝也〕。オカレハ〔59才〕オケ也。置ノ字也。カレノ反ハ、ケ也。意ハ、末ハ終ニ相依テ寐ンツレトモ、唯今ハ人目ノ多クシテコソ汝ヲ端ニハオケトイヘルナリ。

等保斯等布故奈乃思良祢尔阿抱思太毛安波乃敏思太毛奈尔已曾與

佐礼

トホシトフトハ、遠トホシトイフ云トイヘルナリ。イヲ略セルナリ。タトヘハ万葉ニ遠云トカキテ、トホシトイフトモ、トホシトフトモ、トホシテフトモ、トホシチフトモヨメル類オホカリ。是皆詞語之詳略、音響之〔通〕^④變也。故奈ハ所名、シラネハ白峯也。アホハ逢也。ホトフト同音也。

シタトハ下ノ字也。時ト云意也。アハノヘトハ不逢也。アハナヘトモ、アハナフトモヨメリ。ナトノト同音也。ナヘノ反ハ、ネ也。ナフノ反ハ、ヌナリ。ナニハ于汝也。ヨサレハ所依也。意ハ、逢時モアハヌトキモ心ハ汝ニコソヨスレトイフナリ。」(59ウ)

万葉第二

秋田之穂アキタノホ向乃所縁ムカヒノソノソノ異所縁イソノソノ君爾キミニ因奈名イナナ事痛有登母コトヲカカリトモ

〔田ノ秋ニナリテ〕穂ニ出ヌレハ、末重クナリテカタヨリムキテナヒク也。ソノコトク一片ニ君ニヨリナント也。コチタトハ、コチタクナリ。言痛トモカケリ。同意也。人ノイハンコトハハナハタシクトモトイヘル也。事痛有ヲ委クイヘハ、コトイタクアリト云ヲコチタカリトヨムハ、トイノ反ハチ也、クアノ反ハカナレハナリ。タトヘハ、為政ト書テマツリコチトモ、マツリコツトモヨムハ、マツリコトシト云、トシノ反ハチ也。マツリコトスト云、トスノ反ハツナレハナリ。^⑤(サテ)右ノ歌トモヲ以テ案スルニ、此歌ノ意ハ、山鳥ノ雄ニ鏡ヲカケテ見スレハ、影ヲナツカシミテナク(ヘカ)ランヤウニ我モ(イトヲシミテ)^⑥(汝ニ)心ヲヨスルトイヘルナリ。庭鳥ノナクヲ雞鳴トモ、雞唱トモイヘレハ、トナフハナクコト、オモヘルハタカフヘカラス。ヘ

ミハ可ノ字也。(顯昭、汝ニヨソルヲ名ニヨソルトミルハ、アシ、)

(60オ)

類也。ハツオトハ、長キ尾ハシメニオフレハ、初尾ト云也。山鳥ノオロノハツオトツ、クルハ、山鳥ノオノナカキオノツツ、クルカ如シ。

(古今ニ同文字ナキ歌トテ、世ノウキメミエヌヤマチヘイランニハ

オモフヒトコソホタシナリケレ 此ミエヌノエト、ヤマチヘノヘト、キ、ハ同シケレトモ、仮字ツカヒノチカヒタレハ、同文字ナ

キ歌トハイヘルナリ。此ヘノ字濁リテヨマントイヘル人ハヘリ。カナツカヒノ旨ヲモシラヌ彼狂惑法師、明魏法師カトモカラナル

ヘシ。

(第十一、寄物陳思歌ニモ、珍海、濱辺小松根深 吾戀度人子

姫)

〔78〕○万葉卷九、高橋連蟲麻呂登^ニ筑波嶺^ニ爲^ニ嬖歌^ニ会^ニ一日作^レ歌^ニ

鷲住筑波乃山之裳羽服津乃其津乃上爾率而未通女壯士之往集加
カフカヒニヒトツマニワレモカヨハムワカツマニヒトモコトトヘアヤマツラウシハクカミノムカシ
賀布耀歌爾他妻爾吾毛交牟吾妻爾他毛言問此山乎牛掃神之從來
イハメワヤソクフノミハメクレモミルナコトモトカム
不禁行事叙今日耳者目申毛勿見事毛咎莫 嬖歌者東俗語曰^ニ

賀我比^ト

越中守仲実歌

人コフルカ、ヒモワヲハイトヒケリワシノケ、ナクシラネコユレ

童蒙抄云、カ、ヒトハ、オトコニステラレタル女ヲイフ、ワヲトハ我
ヲト云也、シラネトハ奥山ヲ云歟、能野ノ本宮ト那智トへ通ヘル道ニ
アル山ヲソカクハイフ。(60ウ)袖中抄云、カ、ヒトハ、男ニステラ
レタル女ヲ云、ケ、ナクハ、カ、ナクト云歟、同五音ナリ、万葉常陸
防人歌云、

筑波祢尔可加奈久和之能祢乃未乎可奈岐和多里南牟安布登波奈思
尔 ニハネニカトナクワシノホノミツカナキワクリナムアフトハナレ
ル 袖中抄ニハネノマヲナリ。末ノ
字ヲ末ノ字ト見テマレル歟。

此歌ノ意ハ、此カ、ヒノ事ハ、筑波山ニホリテヨミタルニ、又ツク
ハネニカ、ナクワシト云歌モアレハ、二ツヲトリアハセテ、彼鷲ノ鳴
山ヲ越レト、カ、ヒニモアハストヨメルナルヘシ、シラネヲ奥山ト云
事ハイカ、甲斐ノ白嶺、越ノ白嶺ナトコソヨミナラハシタレ、仲実
ハ越中守ナレハ、コシノシラネヲコユル身ナレト、ヨメルニコソ、ト
イヘリ。今考、韻書、嬭、徒了切、韓詩、嬭歌、巴人、歌也。釈
日本紀、引常陸、国風土記曰、香嶋郡童子女松原古有二年少童子
俗云加味乃乎
止古加味乃乎(61オ)死、男称那賀寒田之郎子、女号海上安是(之)
嬭女、並顔容端正光華、郷里相聞、名声、同存望念、自愛心
感、経月累日、嬭歌之会 俗云字多我故、選返相遇、于時郎子歌
又云加我故也

モトイフ義ニヤ。此モ未熟ニキコユル也。裳羽服津ハ所名也。牛掃ト
云ルハイカナル詞ニカシラス。姑ク愚案ヲ廻スニ、主ノ字歟。ウシト
モ、ヌシトモ、(ノ)シトモヨメリ。音韻ノ通用也。又アルシトモ、ツ
カサトルトモヨメリ。山ヲウシハクトハ、ヌシトシ、ツカ(61ウ)サ
トルト云コト歟。古事記上卷曰、建御雷神、問大国主神言、汝之
志波那流葦原中国者、我御子之所知国言依賜、故汝心奈何
云々。万葉第六、石上乙麻呂卿配土佐国ニ之時歌曰
繫卷裳湯湯石恐石住吉乃荒人神舩舩尔牛吐賜付賜將賜島之
埼前依賜將賜儀乃埼前荒浪風尔不令遇草管見身疾不有 急
令變賜根本國部爾 第十七、越中守家持、立山賦曰
須賣加未也乃字之波伎伊麻須爾比可波也 能曾能多知夜麻山也爾等
許奈都也爾由伎布理之伎底而也

此等ヲミレハ、ウシハクトハ主ノ字ニ叶ヘリ。目申トハ目奇歟。クシ
トモ、メツラシトモ、アヤシトモ(62オ)ヨメリ。目ニアヤシト見ル
ナトイヘル歟。日本紀ニ歌ノ字ヲメク、トモ、メクシトモヨメリ。此
ハアハレムコトナリ。今歌ニハ不叶。

[79] ○万葉十七、家持思放逸應ニ夢ニ感悦作歌
二上能乎底母許能爾安美佐之底安我麻都多可乎伊米尔都氣追母
(万葉十四、筑波祢乃乎氏毛許能母尔毛利敏須波播已毛礼杼母多
麻曾阿比尔家流 相聞常陸国歌)

乎底母ハ彼面也。彼方ト書テヲチカタトヨメリ。ヲチトヲテトハ通音
ナリ。又底ノ字ニ、チノ音モアリ。許能母ハ此面也。ヲテモコノモハ、

コノモカノモトイヘルト同也。

^{〔62ウ〕}十四、安思我良能乎底毛許乃母尔佐須和奈乃トモヨメリ。十七、

安之比奇能乎底許乃毛爾

^{〔尙右〕}(又)、遠面近面トモカクヘシ)

〔80〕○同題同人歌

矢形尾能多加乎手尔須惠美之麻野爾可良奴日麻禰久都奇曾倍尔家

流〔62ウ〕

〔81〕○堀河院百首、俊頼朝臣歌

住吉ノチキノカタソキユキモアハテ霜ヲキマヨフ冬ハ来ニケリ

此ハ、世ニ住吉ノ御歌トナンツタフル、

夜ヤ寒キ衣ヤウスキカタソキノユキアハヌマヨリ霜ヤラクラン

ト云ルヲ用ラレタリ。孫姬式・奥義抄等ニハ、カタソキヲカサ、キト

ナシテ、男女ノナカラヒニソヘテヨメルナリト思ヘリ。旧クヨリマチ

ノニイヒアヘル事ナメリ。サレト、新古今ニハ、カタソキノユキア

ヒノマトナシテ入ラレタリ。カツハ、此朝臣ナトノカクヨメルニモヨ

レルナルヘシ。チキトハ、旧事記ニハ樽木ト書キ、古事記ニハ水椽ト

モ水木トモカキ、日本紀ニハ樽風トカケリ。源順倭名類聚抄引并色立

成云、樽風板、上音布悪反、倭名如字。シカレハ、音ニテハ〔63オ〕

ハフトヨミ、訓ニテハチキトヨム、雨打ヲユタトモ、アマウチトモヨ

メル類也。神社ノ両端ニウチ、カヘテ、カタナノヤウニテタテル木ヲ

云也。太神宮、其外ノ明神等ノ社ニハ、ハフヨリスクニ作りノホセテ、

末ヲ偏〔サツ〕鍛〔ヒトシナカキホコ〕ニソクナリ。権現ノハ、チキヲコトニマウケテ、ハフノ

上ニノセマタカラシメテ、末ヲハソカヌトソ。按、樽当作搏。恐伝写

之誤也。樽与搏、同倭名久礼、又多多利加太、(又比知岐)。搏、擊也。

倭訓字都。俗ニ、ハフヲ破風トカケリ。カサキリトモ云リ。風ヲウチ

ヤフリテハラフ義ナルヘシ。此歌、新後拾遺ニ〔エラハレ〕タリ。

〔82〕○万葉第十二、旋頭歌

^{〔オホミ〕}岡前〔オホミ〕多未足道乎人莫通在乍毛公之來曲道爲

タミタルハ迂字〔ラモ回ノ字ヲモヨマセリ〕。韻書、迂、雲俱切、遠

也、〔選〕也、(又於武切、曲廻貌)ト註セリ。マハリトヲナルミチ

〔63ウ〕ヲイフ也。オホミアシチト点スルハワロシ。

へ一行分欠

又源氏玉鬘卷ニ、大夫監ヲ、コトハタミタリトイヘリ。此等ハ迂ノ

字、シカルヘシ。漢書王吉伝、其言迂濶。国語、見其語迂。又万葉第

一、大宝二年太上天皇幸于参河国時、高市連黒人歌

何国爾可船泊爲良武安禮乃崎榜多味行之棚無小舟

第十七、家持〔夢〕ニ放逸〔逸〕作歌

知加久安良波伊麻布都可太未等保久安良婆奈奴可乃字知波須疑米

也母伎奈牟和我勢故

此等ハ、回ノ字可然也。榜回〔二日回〕トカクナリ。幾回ヲイクタヒト

ヨメリ。ヒトミト〔64オ〕通音也。ヨキミチハ避道也。人ヲヨクルミ

チ也。曲道毛直路ナラネハ、訓ニテミチトハ点セルナリ。

〔83〕○袖中鈔第四

タマタレノ小簾ノ〔キケキ〕ニ入カヨヒキネタラチネノ母カトハ

レハ風トマウサン

顯昭云、キケキハ、シケキトイヘル詞歟、万葉歌云

むさし野(むさ、マ)のをくきかきけしたちわかれいにしかひよりよるにあはなふに

此きけしは、しけしといふか、東国の風俗の詞とみえたり、俊賴歌云

としふれとこすのきけきのたえまよりみえししなひは面影にたつ

今案、万葉第十一、旋頭歌

玉垂タマシロコ小簾之寸鷄吉仁スノキケキニイリカミヒキネ通來根足乳根之母ネノハハ我問者風跡將カハレハカセトワカ申ム〔64ウ〕

寸鷄吉ハ（今本ニモ）キケキト（点セリ。サハ）ヨムヘカラス。スケ

キトヨムヘシ。秀ノ字也。拾遺恋部、亡名氏

玉タレノスケル心トミテシヨリツラシテフコトカケヌ曰ハナシ

トヨメルモ、秀ノ字ニ好色ヲソヘタリ。スケキ、スケル、同詞也。ス

キラスケキト云ハ、ウキツラキヲウケキツラケキナト云類也。

第十四、武蔵国相聞往来歌

武蔵野ムサシノノ乃乎具奇我ノノツクキカ吉藝志多知和可禮伊爾之與比欲利世呂爾安波奈キシクナチワカレイニシホヒヨリセロニアハナ布與フ

ラクキハ小野也。日本紀第十五二、少郊〔ト書テ〕ラクキトヨメリ。

少ハ小也。郊ハ野。吉藝志ハ、キケシトヨムヘカラス。キマシトヨム

ヘシ。雉也。キマシ、キ、ス、通音ナリ。日本紀ノ歌ニモ、狹野ツ鳥

キ、シナトヨメリ。其上、藝ノ字、ケノ音ハアレトモ、万葉〔65オ〕

集中ニテハ、皆キトヨメルカヨキナリ。雉トヲケルハ、起別トイハン

料也。第十二、悲別歌

足檜木乃片山雉キヤシ立往牟君爾後而打四鷄目八方

ナトモヨメリ。與比キ、スハ宵也。世ハ夫也。呂ハ助字也。アハナフハ不逢也。ナフノ反ハヌ也。俊賴ノ歌モ、万葉ヲアシク心得ラレタルナルヘシ。シナヒトハ、是モスカタノタハヤカナル意（ニイヘルニヤ）。第十、（秋相聞）、寄花歌

率イマニ爾ニ今毛欲見イマモシカ秋芽之四搓アキノトサヒニ將有妹之光儀乎ツカムイモカスガツ

第二十、上総国朝集使大掾大原真人今城向京之時、郡司妻女等餞之歌

多知之奈布伎美我須我多乎和須礼受波與能可藝里爾夜故非和多里ワシレナフキミカスカタツワスレスハホクノカキリニヤコヒワツタリ奈無ナム〔65ウ〕

〔84〕○明道先生和温公諸人禊飲一詩、不須愁ルコト日暮ツ、天際是

輕陰。拾遺集恋部、後朝ノ歌ノ中ニ、亡名氏

イツシカトクレヲ待間ノ大空ハクモルサヘコソウレシカリケレ

詩ハクル、ヲウレヘテ、暮ルハクル、ニアラス、陰也ト見セ、歌ハ

クモルヲウレシメテ、クモルハ陰ルニアラス、クル、也ト思ヘリ。ア

ルハ友ニ会ヒテ、ヲソクカヘランコトヲシタヒ、アルハ妹ニ離レテ、

ハヤクキタランコトヲコヒタリ。イモヲコヒ、トモヲシタフ、其意ハ

カハルトモ、其情ハオナシカルヘシ。長嘯子、此歌ヲトリテ、雪ヲ

クモレケフ今宵トタノム中ナラテ日影ニチルハ雪ノ初花

チルトハキユル也。花ノ字ニムカヘテイヘルトソ。〔66オ〕

〔85〕○惺齋先生惺齋八、京極黃門ヨリ十二世ノムマコニテオハシケレハ、必

トシモシタマハストモ、サスカニイハンモサラナルヘシ。羅浮子羅浮子

杏庵老人啓正・活所源ナト世ノ博士ニテ、詩文ナトノウルセクメテタカ
ランハサルコトナレト、詞ノ露ノタマサカニスシナセルスサミタニ、
和歌ノ浦ノナミ／＼ニハアラサナルソ、アヤシキヤ。文学イタレハ歌
学イタル、ソノコトハリ、然ルニヤ。(順・文時、名歌ナシトシモイフ
ヘカラス)。羅浮子、江嶋ニテ

神代イカニ今ムツマシミワタツミノ八重ノシホチニコトツテヤラ
ン

杏庵老人、蒲原駅ニテ

蚊遣火ノ煙クエカ、ルアシノヤニ明シカネタルミシカヨノ月

活所、鎌倉山ヲ見ヤリテ」(66ウ)

アリヘシハ昨日ノ夢カナカメヤルカマクラ山ノアケカタノ月

是、其人ノスクレタル歌也トイフニハアラス。ヒサシウ相交シコトナ
レト、アフゴトニハタ、文学ノコトノミ沙汰シテ、和歌ノウハサハ語
リアヘルコトモハヘラサリケレハ、オホクモ見侍ラスカシ。此歌トモ、
其紀行ノ詩ノ中ニ侍リシヲ見ハヘリシ也。

[86] ○惺齋先生、赤松左兵衛督ヨコシマコトニカ、リテ因幡山ニテミマカ
ラシメラレシコトヲ悼テアマタヨメル中ニ

アマツソラウラミントテモ我涙カ、ル人ニシカ、ルヘキカハ

論語曰、不レ怨レ天、不レ尤レ人。又曰、伯牛有レ病、子問之、自レ牖執
ニ其手一曰、亡レ之命一哉、夫斯人一也而有ニ斯疾一也、斯人
也而有ニ斯疾一也ト云ヲ用テ、ワカナミタカ、ルヘキカハナトツ、キ
タル、イトメテタク」(67オ) コソ。

[87] ○後拾遺、王昭君ヲヨメル、懷円法師

ミルタヒニ鏡ノ影ノツラキ哉カ、ラサリセハカ、ラマシヤハ
或人ノイヘル、カ、ラサリセハトハ、胡ノ國ヘキタラサリセハ也、カ、
ラマシヤハトハ、ヤツレテカタチノミニクカラマシヤハ也ト。非也、
形ノウツクシカラサリセハ、(画カキニマヒハンスレハ)、胡ノ國ヘキ
タラマシヤハトイヘルニコソトイヘハ、或人、愁苦辛勤憔悴レ尽、如
今却似ニ画圖一中一トイフ詩モハヘルモノヲトイヘルホトニ、玉貌ハ風
沙ニ勝ニ画圖一、琵琶難写旧恩疎トモイヘルニヤトイヘハ、ソレハ画
図ニマサリテウツクシトイヘルニアラス、マサリテミニクシトイヘル
ナリ、玉貌モトヨムヘシ、ハトヨムヘカラス、風沙ニハトヨムヘシ、
ニモトヨムヘカラストナン。イカ、ハヘラン。歌モ詩モ(以下欠)」(67
ウ)

[88] ○拾遺恋四、題シラス、ヨミ人シラス

ナケキコル人イル山ノヲノ、エノホト／＼シクモナリニケルカナ
ナケキハ、歎ノ字ニ木ノ字ヲコメテイヘリ。ホト／＼シクトハ、斧ノ
音ニソヘテアヤウシトイヘリ。ナケキヲノミスレハ、身モ死ヌヘクア
ヤウクシモナリニタルトイヘル也。然ルニ、源氏物語藤末葉卷、マカ
テン空モホト／＼シウコソ侍リヌヘケレ、トアル註ニ、花鳥余情曰、
河海ニノセタル拾遺ノ歌ノホト／＼シクモ成ニケルカナノ程々シキハ、
ウト／＼シキナトヤウナル意也、爰ノ詞ノホト／＼シウハ、拾遺ノ今
一首、宮ツクルヒタノタクミノテヲノヲトホト／＼シカルメヲモミシ
哉、トイフ意也、ソレハ、オトロ／＼シキトイフ意也。ハヤ夜モ更タ

ルホトニ、道ノ空モオトロクシカルヘキ意ニ、宰相中将ノイヘル也、フルキ詞ハ一定セル事ナシ、事ニヨリテモチヰカユ」(68才)ヘキコト事ナリトイヘリ。イカ、今案、ホトノハ、日本紀・万葉等ニ殆ノ字ヲヨメリ。ホトノトモ、ホト、トモイヘル、同詞也。シミノヲシミ、トイヒ、タハノヲタハ、トイヒ、ウラノヲウラ、トイヒ、イヨノヲイヨ、トイヒ、シホノヲシホ、トイヒ、ニコノヲニコ、トイヒ、イトノヲイト、トイヘル類オホカリ。サテ、ホトノシトイヘルハ、アヤウシトイヘル也。ヤカテ、殆ノ字ヲアヤウシトモヨメリ。又何事ニマレ、物ノソレニナリヌヘクチカヨリタルコトヲ、ホトノト、トイフ。殆ノ字ヲヤカテ、亦チカシトモヨメリ。又チカヨリタルコトヲ、アフナシトモイヘリ。タトヘハ、世俗ノ詞ニ、此歌ハ誰シカヨミツランナト問フニ、尊丈某ソアフナキナトイフハ、誰トシモシラレヌウチニモ、某ノヨメルニチカシトイフ義也。アヤウキヲ、俗ニアフナキトイフ、同事也。然レハ、ホトノ・ホトノト・アヤウシ・チカシ、皆同詞也。殆ノ字・危ノ字・幾ノ字、イツレモカヨヒテ、ホトノ・ホトノト・アヤウシ・チカシトヨメリ。文書ニモ侍リ。」(68才)日本紀第十四曰、然、国之危、殆シキコト本ナリカヨメルニ過ニ於累ニ卵トアルモ、危殆ヲアヤフミホトノシキトヨメリ。又曰、官軍不レ救、必コトヲシテ為所乘マシナリトシテ成三人地、殆ニ於此役トアルモ、殆ヲホト、シトヨメリ。漢書宣元六王伝、我危、得レ之、注云、危、殆也。シカレハ、此文ノ点ヲモ、ワレアヤウクセハコレヲエテマシトモ、又ワレホトノコレヲエテントモ、又ワレコレヲウルニチカシトモ、ア

ナシトモ訓スヘシ。アヤウクセトハ、俗ニワロクセハトイヘルニ意カヨヘリ。紀貫之、土佐日記二、五日住吉ノ渡ヲコキユクニ、ユクリナク風吹テ、ユケトモノシリヘシソキシソキテ、ホトノシクウチハメツヘシトイヘルモ、アフナク船ヲウチハメントストイヘルナリ。又船ヲウチハムルニチカシトモイフヘシ。然ルヲ、真字本ニ程々數トカケル、万葉ガキニカケルニヤ侍ラン。モシ程フルコ、ロニモチヒテカケラハ、コトタカヒタルヘシ。又後撰集雜歌三ノ詞書ニ、久シウコ、チワツラヒテ、ホトノシクナ」(69才)ンアリツルトイヘルモ、アヤウシクトイヘルナリ。拾遺集ノホトノシクモナリニケルカナ、ホトノシカルメラモミシカナ、皆アヤウシトヨメル、疑ナカルヘシ。或人曰①、(一字ニシテ数音、数訓ノタカヒアルコト、每字シカリ、シカルニ)殆ノ字ヲホトノ・アヤウシ・チカシトヨメレハトテ、(ナヘテ)ヒトツ意トイハンコトハイカニソヤ(ト)。ソレモサルコトニテ、又此例ナキニアラス。端ノ字、ハシ(トヨメリ。物ノハシナリ。然ルヲ)端清ハシキリ(ナ)トイヘルトキハ、ウツクシキコトニモナレリ。申ノ字、マシ(トヨメリ)⑤。猿ノマシナリ。然ルヲ、(申述ナトイヘルトキハ)⑥、モノイフコトニモナレリ。申ラマウシトモ、マシトモヨムハ、詞之広略也。マシハウノ字ヲ(略シ)タルナリ。日本紀ニ屈請トカキテ、ツ、シミマセテトヨメリ。此マセテモ、マウシテ也。セトシト同音ナリ。今モ貴人ナト屈請スルヲ、オマウシナトイフモ是也。実ノ字、ミトヨメリ。草木ノミ、魚肉ノミナトナリ。然ルヲ、マコト、イフ(コト)⑦ニモ、ミトヨメリ。万葉十一云」(69才)

住吉之濱尔縁云打背貝實無言以余將戀八方

[89] ○万葉第十、夏相聞、寄鳥歌

春之在者醉輕成野之霍公鳥保等穂跡妹爾不相來爾家里

スカルハ、日本紀第十四、(雄略天皇六年三月辛巳朔丁亥、天皇欲使后妃親桑以勸蚕事、爰命蜾蠃聚国内蚕、於是、蜾蠃誤聚嬰兒、奉獻天皇、天皇大咲賜嬰兒於蜾蠃曰、汝宜自養、蜾蠃即養嬰兒於宮墻下、仍賜姓為少子部連)。註、蜾蠃、人名也。此云須我屢、公望私記曰、蜾蠃取他子為己子、若因此而為名歟、右大相曰、此說可謂宜矣。本草曰、蠶蟪此云在沙利一名蜾蠃此云須、又云佐留理一名細腰蜂此云胡志、保得波知、俗ニ似我蜂トイフ、是也。

万葉第九、詠上総末珠名娘子歌

腰細之須輕娘子之其姿之端正爾如花咲而立者

又第十六、竹取翁偶逢九箇神女歌(70オ)

海神之殿蓋丹飛翔為輕如來腰細丹取飾氷真十鏡取雙戀而已蚊ワタシノノトミカニトヒケルスカルノコトキコホツニリカガヒマツツカ、ミトリオウカクテオウカ
果還氷見乍カネカサヒミツ、

此モ細腰蜂ノスカルノコトニソヘテ、身ノスカルクウツクシキコトライヘリ。楚王宮之細腰、趙飛燕之輕體、可并按焉オモヒアハスヘシ。(此外ニ、万葉ニスカルトモ、スカルキトモヨメル歌ミエス)。身ノスカルシト云ニハ、嫫ノ字ヲヨメリ。韻書、嫫、隳緣、烏玄、二切、身輕便貌、一曰、便嫫輕麗貌、一曰、輕拳也。サテ、醉輕成ハ、(スカルナルトヨムヘカラス)、スカルナストヨムヘシ。「狭」④蠅成・鶉成・鹿成・水鳥成ナト云ヘル、ナスノ字也。ナストハ如クトイヘル詞也。春ノ比ホヒ、ニナリテ蜾蠃ノ(キシカ)コトク、(今夏)野ニラル杜鵑トイヘルナリ。杜鵑ト

イヒイタセルハ、下ニホト〜トウケン料也。ホト〜イモニアハスキニケリトハ、ステニアハントシツルヲアハテキタルトイヘルナリ。第八、大伴家持和歌コトナレ

吾屋戸乃一村芽子乎念兒尔不令見殆令散都類香聞(70ウ)

コレモ、既ニ見セントシツルヲミセスシテ、チラシタルトイヘルナリ。何レモアフナカリツルノ義也。或人曰、スカルナルトハ、鳴ノ字ノ義也、第九ニ垣保成人トアルニ、第十一ニハ垣廬鳴人トカケリ、字ヲヤウ〜ニカヨハシカケル、万葉ノ常ナレハ、鳴ヲ成トモカキツヘシ、蜂ノ声ヲナクトハ(ヨマスシテ)⑤ナルトヨメル事、尤オモシロシ、ナクモナルモ共ニ鳴ノ字ナレトモ、物ニヨリテ訓カハルヘシトイヘリ。イカ、イリホカニキコユルニヤ。「袖中抄」⑥曰、スカルナルトハ、醉輕成野トカケリ、草ノスノカレテカクルナル野ト云歟、草ノストハ茎也、万葉ニハ、コシホソノ醉輕キイモナトモヨメリ、カルキ事ニモカクカケリ、スクロノス、キト云モ、薄ノヤケテスノ黒キヲ云カコトシ、但是ハ末ノクロキライフト云義アリ、但古今歌ニ、

スカルナク秋ノ萩原朝立テ旅行人ライツトカマタン

此スカルヲハ、無名抄・綺語抄・奥義抄・童蒙抄等ニ皆鹿ヲ云トイヘリ、或(71オ)ハ、ワカキシカトモイヘリ、慥ナル証文ハミエネト、カヤウニ申伝ヘツレハ、和歌ノ事ハサテコソハ侍レ、其中奥義抄ニソ、サソリト云虫ヲモスカルト云、万葉云、春ナレハスカルナルノ、如前ハサソリ也、彼集ニハ醉輕成野トソ書タルト云々、今案日本紀、スカルト云人ノ名アリ、文字ハ蜾蠃トカケリ、蠶蟪、サソリ・サ、リ。

スカル、或人ノ関東へ下リテ侍シハ、アツマニハ蜂ヲスカルト申トソ、サ、リ蜂ト申セハ、ハチ・サ、リハ同物也、文書ニアヒカナヘリ、然ハ、サソリヲモ、シカラモ、共ニスカルト申スニコソ、スカルト云詞ニ付テ、スカルナルノ、ト云万葉ノ詞ヲ、奥義ニサソリト釈シタル、イカ、トキコユ、スカルナル野トイハンコト如何。顕昭ハカクノコトクイ(ヘリ)⑦。スカルナルトハ如螺麻ト云義ヲハ、オモヒヨラサリケルニヤ。シカノスカルハ、或物ニ牝鹿ノコト也トモ、又メノキ(ト云シカノコトナリトイヘト)⑧、只鹿ノ別名也トモイヘリ。愚謂、スカルトハ、少鹿トモ小鹿トモカクヘシ。スハ(71ウ)スコシキ也。ワカキト云フ義ニタカフヘカラス。カルハ、スナハチ鹿ノ字也。吉野首等ヨシノオウトラカトラフ祖ニ、キヒカルト云神オハセリ。日本紀ニハ井光トカキ、古事記ニハ井水鹿トカケリ。是、其証也。又或鈔ニ、スカルハ鹿ノ異名也、蜂ヲモスカルト云一説不用、以鹿為正説、或ハ日本紀云、スカルハ人名ナリ。此説イハレナシ。同名異物ハ草木禽虫共ニアルコトナリ。鹿ヲスカルト云トテ、蜂ヲスカルトイハシトハ、イハレナシ。古今歌、スカルハ蜂ニハアラス、鹿ナリトイハンハ、イハレタリ。又人名也ト云トテ、蜂ニ(アラス)⑨トオモヘルモ、イハレナシ。日本紀第十四、膳臣班鳩、注、人名也、此云伊柯屢餓。(コレ)⑩モ、イカルカハ人名也。豆耳鳥トスヘカラストイハレマシヤハ。又螺麻ヲスカルトイフハ、借巢之義也。就此數説不同、詳見本草綱目虫部蠶蟻正誤下、欲多識之人者可考見。此歌ニ不用ナレハ、コ、ニ贅セス。又春之在者ハ、ハルノアレハトモ、ハルシアレハトモヨムヲ、ハルナレハトモ、ハルサレハト

モヨムハ(72オ)、ノアノ反ハナ也、シアノ反ハサナル故也。美作ニ里ノ名林田ト云ヲ(ハヤシタトハヨマテ)⑪、ハイタトヨメリ。コレモ、ヤシノ反ハイナル故ナリ。⑫

[90] ○万葉第一、額田王歌

フユコナリトハ、或物ニ、冬木ノ姿也ト註セリ。姿トハイカニイヘルニカ。俗ニナリフリナト云ナリノ字ニ意得ラレタルニヤ。日本紀第十四ニハ、山野之体勢ヲ、ヤマノ、ナリトヨマセタリ。冬木ノ姿、春トハイカニツ、ケタル詞トモシラレスヤ。今案、冬木成ハ、フユキナストヨムヘシ。古事記ノ歌ニモ、布由紀能須加良賀志トヨメリ。

(72ウ・國書)
ルモアリ。カラカシハ葉ヲチス
ノストナストハ(通)⑬音同詞也。ナストハ、コトシト云詞ナリ。古事記、久羅下那洲多陀用幣疏トイヘルモ、如水母浮漂也。又サハヘナスト云(古事記)⑭ニハ、(72ウ)狭蠅那須トカキテ、日本紀ニハ如五月蠅トカキ、万葉ニハ五月蠅成トカケリ。然レハ、冬木ハ葉ヲチスシテ常ニ青ヲ云フ。春ノ色ハ青モノナレハ、冬木ノコトク青キ春トツ、ケタルナリ。第十一ニハ、春楊葛木山トカキテ、アラヤキノカツラキヤト訓シテ、即チ春ノ字ヲアラシトヨマセタリ。第三、丹比真人国歌、冬木成時敷時路トモヨメ(ル)⑮。トキシクハ、トキシモトモイフ、同詞也。非時トモ、不時トモ、無時トモカケリ。常住不変ノ義也。日本紀ニ橘ヲ非時香菓トイヘルモ、是也。又、時重トモ、時繁トモカケ

ル、同義也。シカレハ、コレモ冬木ノコトク（「イツモノ」^④）時トイヘルナリ。万葉、此詞數多ナリ。玉藻成トモヨメリ。

第一、藤原宮之役民作歌

玉藻成浮倍流礼真木（73オ）

第二、柿本朝臣人鷹從石見國別妻上來時歌

玉藻成依宿之妹乎 又云、玉藻成廢寐之兒乎

（第十一）寄物陳思歌、敷袴之衣手離而玉藻成廢可宿檻和乎待離尔

カ、ミナストモヨメリ。第二、明日香皇女木庭殯宮之時、柿本朝臣人

鷹作歌

鏡成雖見不歎三五月之益日煩染所念之君

ウツラナストモヨメリ。第二、高市皇子尊城上殯宮之時、柿本朝臣人

鷹作歌

鶉成伊波比廻 雖侍候佐母良比不得者春鳥之佐麻欲比奴礼者

ミカモナストモヨメリ。第三、大伴宿禰家持悲傷亡妾又作歌

妹之有世婆水鴨成二人双居

（トリハナストモヨメリ。第二、山上臣憶良追和有間皇子自傷結松

枝歌 鳥翔成有我欲比管見良目杼母人杜不知松者知良武

クモノストモヨリ。第三、長田王被遣筑紫渡水鳥之時又作歌

单人乃薩摩乃迫門乎雲居奈須遠毛吾者今日見鶴鴨（73ウ）

山部宿禰赤人登春日野作歌

雲居奈須心射左欲比

ニノホナストモヨメリ。第五、筑前守山上憶良哀世間難住歌

尔能保奈酒意母提乃字倍爾伊豆久由可斯和何伎多利斯

丹穗ノ如クアカキ面上ニ、何処ヨリカ皺ノ搔垂ル、ト云ナリ。又（真

珠成）トモヨメリ。第五、山上憶良詠鎮懷石歌

麻多麻奈須布多都能伊斯乎世人尔斯咩斯多麻比氏

（又第十三、木梨之太子自死之時作歌 真珠奈須我念妹毛鏡成我念

妹毛有跡謂者社国尔毛家尔毛由可未誰故可將行）

トナワナストモヨメリ。第五、山憶良重病思兒等歌

水沫奈須微 命母袴繩能千尋尔母何等慕久良志都

サワエナストモヨメリ。同題長歌（74オ）

五月蠅奈周佐和久兒等遠

カハヲトナストモヨメリ。第六、養老七年癸亥夏五月幸于芳野離宮時、

車持朝臣千年作歌

千鳥鳴三吉野川之川音成止時梨二所念思公

川音ノヤムトキナキカコトク思フトイヘリ。或本ニ川音ノ川ノ字（ヲ

落シテ）、音成ヲヲトシケミトヨメリ。非也。川ノ字アルカキ也。ウ

ミヲナストモヨメリ。第六、神龜二年乙丑冬十月幸于難波宮時、笠朝

臣金村作歌

續麻成長柄之宮爾真木柱 太高敷而食國乎収賜者 第十三、雜歌

処女等之麻笥垂有續麻成長門之浦丹朝奈祇爾依來波乃

イハホナストモヨメリ。第六、市原王 宴 禰父安貴 王 歌（74ウ）

春草者後波 落易 巖成常磐爾座 貴 吾君

（今世板行ノ本ニ）巖ヲ巖トナシテ、落易巖ノ四字ヲ、カルトモイツ

クシクト点セリ。非也。

ニシキナストモヨメリ。第六、田辺福曆讚久邇新京歌

巖者山下燿錦成花咲乎呼里

〔アシヒナス〕トモヨメリ。第七、詠井歌

安志妣成榮之君之穿之井之石井之水者雖飲不飽鴨

アシヒハ〔空格〕花也。トキハナストモヨメリ。第七、芳野作

能野川石迹柏笑時齒成吾者通万世左右二

〔一行分欠〕

カキホナストモヨメリ。第九、田辺福曆思娘子作歌〔75オ）

垣保成人之横辭繁香裳不遭日數多月乃經良武 第十一、正述心緒

歌云 垣廬鳴人雖云 狛錦紐解開公 無

ヤミヨナストモヨメリ。第九、田辺福曆哀弟死去作歌

闇夜成思迷匍匐所射十六乃意矣痛

オトハヒハ、マトヒ也。ハヒノ反ハ、ヒ也。匍匐ノ字ニ意ナシ。ヨミ

ヲカルハカリ也。イユシ、ハ、射ラル、鹿也。

コツミナストモヨメリ。第十一、寄物陳思歌

冷風之千江之浦回乃木積成心者依後者雖不知

〔一行分欠〕

アサヒナス・ユフヒナストモヨメリ。第十三、雜歌

山、辺乃五十師乃原尔内日刺大宮都可倍朝日奈須目細毛暮日奈須

浦細毛

〔書入〕ミカトナストモヨメリ。

神風之伊勢乃国者国見者之毛山見者高貴之河見者左夜氣久清之水
門成海毛廣之云々〔75ウ）

ナクコナストモヨメリ。第十三、挽歌

哭兒如言谷不語思納 悲 物者世間有

ホタルナストモヨメリ。第十三、挽歌

螢成髣髴聞而

鳴沢成トモヨメリ。第十四、相聞、駿河国歌

麻可奈思美奴良久思家良久佐奈良久波伊豆能多可祢能奈流左波奈

須與

マカナシミハ、真悲也。〔シケハ、シハシト云歌。妹トヌルハシハシ

也、サモナクテ独ヌル夜、鳴沢ノコトクト也。鳴沢ハ富士ニアリ。〕

降雪成トモヨメリ。同題

阿敵良久波多麻能乎思家也古布良久波布自乃多可祢尔布流由岐奈

須毛〔76オ）

マナコナストモヨメリ。同卷、相模国歌

相模治乃余呂伎能波麻乃麻奈胡奈須兒良久可奈之久於毛波流留可

毛

マナコハ真砂也。又真実ニ愛スルヲマナコトイフ。真名子也。〔愛子ト

モカケリ。真砂ヲ真名子ニソヘテ、真実ノ子ノコトクイトラシクカナ

シクオモフ兒トイヘル也。兒トハ、愛ニテハ妹ヲ指ス也。ラクハ助字

也。老ラク、恋ラク、見ラクナト云類也。

鹿成トモヨメリ。第十四、相聞歌

伊母乎許曾安比美尔許思可麻欲婢吉能與許夜麻敵呂能思之奈須於
母敵流

マヨヒキハ、眉曳也。ヨコヤマハハ横山辺、ハロハ助語也。妹ヲ相見
ント来リシカ、山ノ鹿ノコトク思ヘルト也。木都寄成トモヨメリ。同
題

奈流世呂尔木都能余須奈須伊等能伎提可奈思家世呂尔比等佐敵余
須母〔76ウ〕

ナルセハ、鳴瀬也。ロハ助字也。キツハ〔木也〕^①。ツハ助字也。イトノ
キテトハ、イト、シクト云ト同詞也。万葉第五、(山上憶良)貧窮問答
歌、伊等乃伎提短物乎端伎流等、又(同人)、重病思兒等歌、伊等能伎
提痛伎瘡尔波鹹塩遠灌知布何其等久トイヘリ。又イトノキタトモヨメ
リ。第十二、正述心緒歌、五十殿寸太薄寸眉根乎徒^{イイトノキタトモヨメリ}令搔管不相人
可母^{カモ}。カナシキセハ、悲兄也。(イトラシキラツト、)云義也。ロハ助
字也。意ハ、(ヨノツネニテサヘアヒカタキセナニ)、鳴瀬ナトノハヤ
キ所へ杣木ナトノナカレヨルカコトク他人ノヨルホトニ我ハイト、
ウスクナルトイヘルナリ。

ミツホナストモヨメリ。第廿、大伴宿祢家持願壽作歌

美都煩奈須可礼流身曾等波之礼礼杼母奈保之祢可比都知等世能伊

乃知乎

(^{カミ}ミツ)ホハ水末也。泡ノコト也。ミツホノアハナトモイヘリ。日本

紀二ハ、浪秀トカキテ、ナミホトヨメリ。

又ナスヲノストモヨメリ。ナトノト同音也。コレモ如クト云詞也。第

十四、相聞、上野国歌〔77オ〕

乃祢河泊乃可波世毛思良受多多和多里奈美尔安布能須安敵流伎美

可母

タ、ワタリトハ、徒涉トカケリ。

同卷下野国歌

之母都家野美可母乃夜麻能許奈良能須麻具波思兒呂波多賀家可母
多牟

コナラハ小櫓也。マクハシハ真細也。日本紀二ハ、美妙トモカケリ。
クハシトモ、マクハシトモ、ウラクハシトモ、マウラタシトモヨメリ。
皆同詞也。タカハ誰也。ケハイヘナリ。家ノ字、ヤケトモ、ヤカトモ
ヨムヲ、ヤヲ略シテケトモ、カトモイフ也。新家トカキテニヒケトヨ
ミ、山家トカキテヤマカトヨメリ。音ニハアラス、訓也。音モ訓モ同
詞ナル文字アリ。茂字^①、モノ音ニテ、又モカラントスナト云フハ、シ
ケカラントスルト云コト也。日本紀二、扶疎ノ字ヲ、シキモセリト訓
ス。シキハ重也、繁也。モセリハ茂也。意ハ、小櫓ノワカヤカニウツ
クシキカコトクナル兒ハ、タレカイヘヲカモチテ、イヘトウシトハナ
ラントシタヒイヘルナリ。八雲御抄、衣食部、マクハシコロモ〔77
ウ〕、万葉、下ツケノミカモ山ノコナラノストツ、ケタリトアソハセ
リ。イカナル意ニカワキマヘカタシ。

へ一行分欠

第十四、相聞歌

多可伎祢爾久毛能都久能須和礼左倍尔伎美尔都吉奈那多可祢等毛

比氏

同題

水久君野尔可母能波抱能須兒呂我字倍尔許等於呂波敵而伊麻太宿

奈布母

ミク、ノハ水潜野也。名所ニアラス^⑧。ハホハ這也。ホトフト同音也。

コトオハ異男也。ロハ助字也。ハヘテモ亦道、ヘトヒト同音也。意ハ、

水ノク、ル野ニ這ヘル免ノコトク、コトオトコノ妹カ上ニハヘルホト

ニ、我ハイマタネヌト也。ネナフハ不寐也。】(78才)

同題

安受倍可良古麻乃由胡能須安也波刀文比登豆麻古呂乎麻由可西良

布母

アスハ橋敵。アトハト同韵、ストシト同音也。ヘハ上也。ウヲ略セリ。

ユコハ行也。コトクト同音也。アヤハハ危也。ハトフト同音也。ヒト

ツマハ他妻也。コロハ兒也。ロハ助字也。マユカセラフハ、真行セル

ナリ。ラフノ反ハ、ルナリ。意ハ、橋ノ上ヨリ駒ノユクコトクアヤウ

ケレトモ、他人ノ妻ヲカトヒテ、己カモトヘユカセルト也。真ハマカ

ナシミナト云類也。

同題

麻都我字良爾佐和惠字良太知麻比等其等於毛抱須奈母呂和賀母抱

乃須毛

マツカウラハ松浦也。待ノ字ニソヘタリ。サワエハ爽也。(或曰騷

也)。ウラハ、ヤ、ト云詞ト同シ。ウラカナシ。ウラサヒシナトノウラ

也。上ノ浦ノ字ニカケタリ。タチハ立也。マヒトコトハ真一如也。於

毛ホスハ】(78ウ)所念也^⑧。ナモ、汝妹也。ロハ助字也。ナイモトモヨ

メリ。ナセト云モ汝兒也。又ウチカヘシテ、兄爾トモ、妹爾トモ、兒

爾トモヨメリ。文書ニモコレアリ。乃翁・乃公ノ類也。ワカハ我也。

モホハ思也。意ハ、松カ浦ニサワヤキタチテ相見ントオモホスラン、

【ワレモサオモヘハ、其心ハマコトニ一ツコトクナリトイヘルナリ。

ヒトツコトクモ】、ノスモ同事ナレト、古歌如此事オホカリ。

(十四云、雜歌、伊毛奈呂我都可布河泊豆乃佐在良乎疑安志等比登

其等加多里与良斯毛

十四相聞云、奈勢能古夜等利乃乎加】(78ウ)耻志奈可太乎礼安乎祢

志奈久与伊久豆君麻氏尔 同題 字倍兒奈波和奴尔故布奈毛多刀都

久能奴賀奈敵由家婆故布思可流奈母】

同題

可奈刀田平安良我伎麻由美比賀刀礼婆阿米乎萬刀能須伎美乎等麻

刀毛

カナトハ金門也。日本紀(十三、訶那杜加礙)、私記曰、師説、古以金

鎌(天)門戸乎久左礼利、故曰訶那杜加礙、謂門戸之蔭也。アラカキ

ハ荒播也。田ヲウヘントテ五六日モサキヨリ、方耙トイフモノヲ以テ

三四返モカクラ、アラカキトイフ也。ウフル日ニノソミテカクラ、ニ

コカキトイフ也。マユミハ檀弓也。(ヒク)トイハン料也。ヒカトレ

ハ、引ツレハ也。カト】(79才)キト同音、ト、ツト同音也。アメハ兩

也。マトハ待也。ト、ツト同音也。意ハ、門田ヲアラカキシテヒキツ

レハ、雨ヲエテウヘントマツコトクニ君ヲ待トイヘリ。
第二十卷、防人主張武蔵国荏原那物部歳徳歌

志良多麻乎氏尔刀里母之氏美流乃須伊弊奈流伊母乎麻多美氏毛母也

シラタマハ真珠也。トリモシテハ取持也。イヘナルハ家在也。ミテモハ、ミテン也。モトムト同音也。モヤハ、モカト同(詞ナリ)。カモトモイヘリ)。欲得トカケリ。冀トモカケリ。

[91] ○(廿)防人亡名氏歌

佐弁奈弁奴美許尔阿礼婆可奈之伊毛我多麻久良波奈礼阿夜尔可奈之母

サヘナヘハ不禁也。ヌハ、ヌル也。ヤンコトナキノ義也。オサヘト、メラレヌト云也。ミコトハ命也。アヤハ益也。

[92] ○第廿、防人亡名氏歌(79ウ)

宇麻夜奈流奈波多都都古麻乃於久流我弁伊毛我伊比之乎於伎氏可奈之毛

六百番歌合、若草、左持、顕昭

アレヌレハナハタツ駒ライイカニシテツナキトムランノヘノワカク

サ

右方申云、左歌、詞花集ニ俊恵法師歌ニ、マコモ草ツノクミワタル沢ヘニハツナカヌコマモハナレサリケリ 其意同キ上ニ、ナハタツラフシニシタル、ソレモ耳ニタツヤウナリ。俊成卿判云、左歌ハ俊恵法師カ歌ニ相似之由、右方云々、ケ様ノ意ハ、サラテモ常ノ事也、但平貞

文歌、拾遺ニ、タ、ニハヨラテ春駒ノ綱引スルソナハタツトキクト詠セルハ、女ニヨセテ名ハタツトイヘルナリ、コレハヒトヘニ繩ヲ断トイヘル、尤凡ナルニヤ。今案、名ハタツト必シモ女ニヨセテヨマンコト、オモヘル判者ノ心得如何。ヒトヘニ繩ヲ断トイハンニ、何ノ苦ミカハ侍ラン。万葉云々、歌ノ意ハ、厩ニ伏タル駒ノ繩ヲ断(80オ)テオクルカ如ク起ルカハト我ヲ慕ヒシ妹ヲ置テ旅立シカ悲シトナリ。悲シトハ、妹ヲアハレミカナシムナリ。

[93] ○六百番歌合、遅日、右負、経家卿

春ノ日ノナクサメカタキツレノニイクタヒケフモヒルネツラン判云、右歌、昼寝ヲタヒノニサヘナランコト、無下ニ懈怠ニヤ侍ヘカラン。今案、後拾遺集、増基法師歌

冬ノ夜ニイクタヒハカリネサメシテ物オモフヤトノヒマシラムラ

ム

此ハ春日ノ永ライヒ、彼ハ冬夜ノ長キライヘリ。タヒノイネ、イクタヒネサム、其趣造ハ似タレトモ、工拙ハ遙ニヘタ、レリ。

[94] ○六百番歌、稻妻、左持、顕昭(80ウ)

稻妻ノ光ニノミヤナクサメン田中ノ里ノユフヤミノ空

判云、左歌、上句ハ宜見エ侍ヲ、田中ノ里トハ何処ニカ侍ラン、只田中ニアル家ナトヲ今イヘルニヤ侍ラン、聞ナレテモ覺侍ラヌ、イカ、。今案、四方ニ田アリテ、中ニ在家アル所モヲツカラアレハ、田中ノ里トモイヒ侍ルヘケレト、誠ニ田中ノイホナトイハンニハヲトルヘクヤ。田廬ナトイフコトアレハ、ソレハ今少タシカルヘシ。但

堀河院次郎百首、頭仲歌

ハカナシヤ田中ノ里ハ稻妻ノホトナキ影ヲタノミテソフル

頭昭ハ、全ク此歌ヲトレリ。田中ノ里ヲ難センヨリ、頭仲ノ歌ト語意

カハルコトナシトイハ、マシ。

[95] ○同歌合、鶉、左持、頭昭

鷹ノ子ヲ手ニハスエネトウツラナクアハツノ原ニケフモクラシ

ツ」(81オ)

判云、左歌、催馬楽ノ鷹ノ子歌ノ意ヲヨマハ、唯手ニモスエ侍レカシ、

是ハ手ニスエネト、イヒテ、アハツノ原ニケフモクラシツトイヘル、

鶉ヲトラハヤトノミ思ヒテクラセルニヤ侍ラン、又風躰モ無下ニタ、

詞ニヤ侍ラン。今案、鶉ヲトラハヤト思ヘルニハアラシ。鳴声ヲ賞ス

ルナルヘシ。タカツカフ人コソ曰ラクラセ、ワレハサナラテモクラス

トイヘルニヤ。催馬楽律歌、鷹ノ子ハ、丸ニタウハラシ、手ニスエテ、

粟津ノ原ノ、ミクルスノ、メクリノ鶉、トラセンヤ、サキンタチヤ。

[96] ○同歌合、広沢池眺望、左持、頭昭

広沢ノ池サエワタル月影ハ宮古マテシク氷ナリケリ

判云、広沢池サエワタルトモ、都マテシクコホリト見エンコトイカ、

今案、秦旬之一千余里、凜々氷鋪、(漢家之三十六宮、澄々粉飾)ト、

公乘億長安八月十五夜賦(カケレハ、都マテシカン氷、サモアルヘク

ヤ)①。旬、韻書、堂練切(81ウ)旬之為言治也。礼記、王制千里之内

曰旬。註疏云、案禹貢五百里曰旬、服主治王田出穀稅以供祭祀。

(81ウ頭書)
(凜々、寒清貌)

[97] ○同歌合、怨恋、左負、頭昭

引カヘテアラキ(気色)①ヲミタラヲノコマノトコソウラミカケ

ツレ

右方申云、左歌コマシケ也、但コマノ不廣幾哉。判云、アラキケシ

キラミタラヲ、風体尤非可庶幾。今案、源順和名抄引説文云、驄、

音聆、青白雜毛馬也。漢語鈔云、驄、青馬也、黃驄馬、葦花毛馬也。

日本紀私記云、美太良乎乃字万。引ノ字、気色ノ字、駒ノ縁語也。日

本紀ハ、第十四雄略ニミエタリ。

[98] ○同歌合、昼恋、頭昭(82オ)

ミニスキテウマコソ物ハカナシケレ恋ヤヒツシノアユミナルラン

巳ヲ身ニソヘ、午ヲ今ニソヘタリ。古歌ニ例多シ。

ウタカタノムマヤハ人ヲ思ヒイテ句ヒ色コクソメテシモノヲ

旅衣イタクモ夢ノタエヌランオモヒアカシノムマヤノト

ホト、キスキコユルコトモ梨原ノムマヤノトマチアカシツル

篠塚ノムマヤノト待ワヒシ君ハムナシク 是皆駅ヲ今ヤト云ニ

ソヘタル也。

[99] ○同歌合、旧恋、頭昭

我中ヲフルノアラヲ田ウチ捨テ誰ニ行アヒノワセツクルラン

判云、左、イヒハ叶ヘテ侍ヲ、下句イミシク品ナク聞エ侍リ。今案、

布留ハ大和ノ名所也①。行合ハ(摂津ノ名所也)②。(意ハ、我中ヲハフル

シテ誰ニアヒテアタラシクシタシメルソトイフ也)。万葉第十、詠花歌

(82ウ)

嬭孀等行相乃速稻乎刈時成來下芽子花咲

第九、大宝二年春三月、諸卿大夫等下難波經宿明日還來之時歌

射行相乃坂上之踏本尔開乎為流櫻花乎令見兒毛欲得

(開乎為流ヲヒラケタルト点セルハアシ)、サキヲセルト点スヘ

シ。万葉第二(二)、長歌云、山辺ニハ花咲乎為里河瀧ニハ年魚小狹

走。第九、小鞍ノ嶺ニ開乎為流櫻ノ花ハ。第一(一)、石橋生靡、玉

藻モソタユレハオフル打橋生乎為礼流川藻モソカルレハハユル

云々)

[100] ○同歌合、絶恋、顕昭

海原ヤネヤハラコスケ今更ニタレニヒカレテミエスナルラン

判云、左ノネヤハラコスケ、ニクイケナキニアラサルニヤ。今案、万

葉第十四、相聞歌

宇奈波良乃根夜波良古須氣安麻多阿礼婆伎美波和須良酒和礼和須

流礼夜

根柔小管ヲ寝柔児トソヘタリ。君ニハヤハラカニヌル人オホケレハ、

我ヲハワスル、ナリ、サ」(83オ)レトモ、君ヲハワスレヌトイヘリ。

ワスラストハ、ワスル也。ラスノ反ハ、ル也。

(83オ同書) 意ハ、ネヤハラコスケヲ妹ニタトヘテイヘリ。万葉ノ詞ナレトモ、

此歌ニトリテハ、スコヒテキコユルトニヤ)

(袖中抄ニ、海ニ生タル管ハ其根潮ニタ、ヨヒテ、ヤハラナルニヤ

トイヘリ)

[101] ○同歌合、遠恋、顕昭

思フコト千島ノ奥ヲヘタテネットエソカヨハサヌツホノイシフミ

判云、左ノ千島、フルクイヒナレテモオホエハヘラヌニヤ。今案、袖

中抄云、石文トハ陸奥ノ奥ニ都茂ノ石文アリ、日本東ノハテトイヘリ、

但田村將軍征夷之時、弓ノ弭ニテ石ノ面ニ日本之中央之由ヲ書付タレ

ハ、石文トイヘリ、信家侍従ノ申シハ、石ノ面長サ四五丈許ナルニ文

字ヲエリツケタリ。其所ヲハ都保ト云ト云々、ソレヲ都茂トハイフナ

リ、私云、ミチノクニハ東ノハテトオモヘト、エソノ島ハオホクテ千

島トモイフハ、陸地ヲイハンニ、日本ノ中央ニテモ侍ニコソトイヘリ。

按、夷千島トイヘル歌、誠ニフルクハキコエヌニヤ。慈鎮和尚花月百

首ノ歌ノ中ニ」(83ウ)

アタラシヤエソカチシマノ春ノ花ナカムル人モナクテチリナン

トヨメリ。(當時ナレトモ、此歌ヨリハ先ナリ)。此壺ノ碑ニ就テ鎌倉

ノ右大将ノ事、思出侍リ。近世ノ武士ハオホヤウ、歌ナトヨムコトヲ

ハ、ニウニヤクナルカタニ思ヒナセルハ、イカナルコ、ロエニカハハ

ヘラン。サラハ、孫呉カ術ヲ得、韓白カ勢ヲフルヘルトニモアラス。

タ、モノヲマウニノミセントニヤアラン。虎狼ハ獸也。人ニアラス。

人ハタ、人タルヘシ。况虎皮羊質ノ真虎実狼ナラサルモノヤ。孫子

猶言、百戰百勝非善之善者也、不戰而屈人之兵善之善者也。如何シ

テカハ不戰而屈人之兵トナラハ、入道積徳人ノ心ヲ和クルニアリ。人

ノ心ノヤハラキナハ、イツコニアタナフモノアリテカ、ホコヲフリ、

タテヲナラフルコトノアラン。カラモイレレスシテタケキモノ、フノ心

ヲモヤハラクルハ歌也トカイヘレハ、和歌豈非和人心之一助哉。抑右

大将^⑤、廿余年流離孤独ノ中ヨリオ」(84オ)コリテ一朝ニ亡朝之敵、報父之讎セルコト

〔以下九行分欠〕

拾玉集云、建久六年ニ前右大将頼朝卿、東大寺供養ニアハントテ、三月四日入洛ノ後、地頭ナニカノ沙汰シテ五月マテ在京之間、内裡ニテ対面シタリキ、又六波羅ノ家ニテモアヒツ、契リナト浅カラス、其後文ツカハシタリシカハ、殊ニ物ノ譬ニ人ノ心ノ我身ナラネハト歌ニモ申タリ、又カ、ル手ニテ返事コソナニハノコトモオホユレトナト申タリシカハ、返事消息ノ中ニ何トナキヤウニ書マセテ申遣タリシ、

イナヒシト思ヒアマリノシルシヲハアシニハアラテヨシトコソミレ

返事、前幕下、オホツカナヨシトミエケル難波カタナラハサリケン恨

ヲソスル

其翌日月、彼又申遣タルヲミレハ、アヒミテシ後ハイカコノ海ヨリモ

フカシヤ人ヲオモフ心ハ

返シ、タノム事ヲフカシトイハ、ワタツ海モカヘリテ浅クナリヌヘキ

カナ」(85オ)

副遣歌、オモフコトイナミチノクノエソイハヌツホノ石フミカキツク

サネハ

鹿ヲサシテ

万葉第九、秋芽子乎妻問鹿許曾」(85ウ)

辛子年初秋從忠順卿借用令新写早

甚態切之書也

通善朝臣調畢

甲寅四月六日本紙者類失早(へ朱)

(花押)

注記

[12] ①ハグ、ム——「ハムグ、ム」と書き、「ハム」の「ム」を抹消。

②イヤシキ……タレト——「ミトリコノスルモリメノト、ツヰケタルニヤ又スモジサモジナドハ詞ノ助ニテスハダサハダスゴロモナトイヘルタグヒニスモリメノト、イヘルニヤ」を消して改める。

[14] ①ヨメリ——以下「住吉ノ弟日娘ハ清江娘子ト同シ人也」と書き、これを抹消。

②太上天皇……也——「清江娘子ハ……人也」の文のあとにあるが、入れ替えの記号に従つて今順を改めた。

[17] ①程シテ——以下「ナリハ塩尻ノ様ニナンアリケル」と書き、これを抹消。

[18] ①フシテ——「ヤスラヒフシテ」を消して改める。

②其——「ハ恋」に)を付して改める。

③ラシモ——「ノミ」を消して改める。

④ノ具シテ——「ソナハリテ」を消して改める。

⑤大娘——以下「大娘」を符、これを抹消。

⑥夏ノ……タクヒ——「婆奴楊妃カコトク」を消して改める。

⑦ソレハ……ニモ——「イハレス」を消して改める。

⑧心——「語」を消して改める。

⑨ナシ……改メテ——「改メテ」を消して改める。

⑩モ亦……ナリ——「ニ可并按焉」の「可」以下を消して改める。

⑪この段、以下次のような抹消記事がある。(11オ)

マデナリトイヘリイカ、是ハ棚橋ニタノムゾ駒ノ足ヲツマツカシメテ(棚橋

ニ)オリテ(ヨト下知シタル也)「エサセヨトイヘルナリ」を消して改める

ナユキノマデナリトイヘルハイツレニモタガフベカラズ後撰集トマレト思フ

オトコノイテ、マカリケレバヨミビトシラス

シキテユクコマノアシオルハシラダニナドワガヤドニワタサマリケル 古今

ノ歌ヲ思ヘルニコソ

〈頭書〉棚橋ハ膝ヲリカシコマルハカリハイツコニテモアリ(ワキテ)抹

ナン(ワキテ)橋ニシモイフヘカラスヤ

[19]①先頃——以下「長嘯子ガリ」と書き、これを抹消。

②ニテ——「ニエテ」と書き、「エ」を抹消。

[26]①似タリ——以下「夕顔花ノ詩此工部ガ外ニ見出タルコトナシタマ〜」と書き、

これを抹消。

②詩学大成——以下「ヲ閲シハヘリシニ」と書き、これを抹消。

③下ノ句——以下「ソ」と書き、これを抹消。

④也——「ニハ侍ル」を消して改める。

⑤タリミユ——「テ作レルニコソ」を消して改める。

[27]①心——「意」に○を付して改める。

②意——「心」に○を付して改める。

[32]①オリノ——以下「コレナンソノオリノ」を衍、これを抹消。

[37]①纏綿——右に「ヨレモツレルノ意。ネンコロ」と傍書。左に「ムツマカナルコ、

ロハハ」と書入。

[39]①ムカシヨリ——「古来」を消して改める。

②カケマクモ……カシコキ——「挂文忌之伎鴨言久母綾畏伎」の万葉表記を抹消。

[41]①趣造……所ノ——「躰ノ」の「躰」を消して右に書入。

[42]①作也——以下「ソレニ」と書き、これを抹消。

[45]①衣手——「袖」に○を付して改める。

[47]①云々——以下「コレイカニソヤ既ニ息長河トカケルモノヲオシテ奥中トイハンモ

コトハリナシ」と書き、これを抹消。

②息長ハ——「ハ」の右に「大和ニアル」と書いた上、これを抹消。

[48]①同——「通」に○を付して改める。

[49]①士——「人」に○を付して改める。

②カラ——「故」に○を付して改める。

③ソヘ——「用ヒ」の「用」を消して改める。

④歌論義ニ——「古今集第十五」を消して改める。

⑤ヨリ……マテ——「道スカラ」と書き、「スカラ」を消さないまま「ヨリ……マテ」

と書入。書入の本文を補入し、「スカラ」を省いた。

[50]①点——「訓」に○を付して改める。

②ヨミ——以下「タテ」と記し、左に○を付し抹消。

③キヨラ——「キヨラナ」の「ナ」を抹消。

④アカル——「アカレル」の「レ」を抹消。

⑤シニタリ——「ニヨミタリ」を消して改める。

[52] ①本中段、底本では改行をせず、前段に続けて記されているが、一章段と認め改行した。

②「大能備ハ」の前「トヨメル」と書き、これを抹消。

③ト……ヘシ——「然ルヲ」を消して改める。

④ノ——「イ」の「ー」の部分抹消。

⑤江都督説——「江都督ノ説」の「ノ」を抹消。

⑥云々——以下「カクサマくニ申シタレト唯ヤスク大野辺ニテアリナン」と書き、これを抹消。

[53] ①故也——以下「又キヘノハヤシ」と書き、これを抹消。

②或物——「古点」を消して改める。

③イフ——「引ケル」を消して改める。

④ソレヲ……モノヲ——底本、抹消するが生かした。

⑤イレンハ——「イレンハ」の「ラ」を抹消。また、「ハ」の次、右に「籠」と書き、これを抹消。

⑥若——「是モ」を消して改める。

[54] ①詞——「事」を消して改める。

②タカハス——以下「シカレハ」と書き、これを抹消。

[55] ①スヘシ——「セリ」の左に○を付して改める。

②サテハ——以下「日本ノ」とあるを消す。

③自——「ワレヲ」を消し、改める。

④伝写ノ誤也——右に「字形似タルニヨツテ」と重ねて書入。

⑤歟——「乎」を消し、改める。

⑥云々——「而上」を消し、改める。

⑦木——「オ」(木偏)に○を付し、改める。

⑧イヘル——「イヘルハ」の「ハ」を抹消。

[56] ①ライヘリ——「也」を消して改める。

②スマ——「アカ」を消して改める。以下三例とも同じ。

[60] ①万葉……トモニ——「シカルヲ或物ニ」を消して改める。

②オモ——「イ」を消して改める。

③類也——以下「此歌鴨君足人香具山歌」と書き、これを抹消。

④コ——「ホ」を消して改める。

⑤実——「真」に○を付して改める。

⑥ウタテ——「アマリ」を消して改める。

⑦ノ説……ケレ——「ニイヘルカコトク」を消して改める。

⑧メリ——以下「サテ」と書き、これを抹消。

[61] ①意——「イフヲ」の右に「意ヲ」と書入。

②タリケニ——「テミルヘシケニ」を消し、この「ミ」以下を「レハイト」に改め、さらにこれを消して改める。

③クモ——「オモシロシト人ノイヘルモケニトソ」の「ト」以下を消し、「シ」の右に「クモ」と書入。また、「トソ」の右に「コソト」と記した上、これを抹消。

④ハヘル——右下に「カシ」と書入れた上、これを抹消。

⑤ト——右傍に「亦」と記し、これを抹消。

⑥往来ヲシウツリ——「ヒマナクヲシウツリ」を消し、左に「ウツリカ」と書いた

上、これを抹消、その下に「ヲシウツリ」と記す。また、「ヒマナク」の右に「往來」と書入。

⑦ 誠……ヲ——抹消するが、削ると文意が続かなくなるので生かした。

⑧ ナラヒ……リ——⑦に同じ。

[62] ① タトヘミンニハ——「見ルニハ」を消して改める。

② ナカルヘシ——「ナシ」を消して改める。

③ アラス——以下「然ルヲ」と書き、これを抹消。

④ メツラシク——「アタラシク」を消して改める。

⑤ コレ——「此」を消して改める。

⑥ ヒシ後——「ヘリ」を消して改める。

⑦ オホエス——以下「ナン」と書き、これを抹消。

[63] ① イヘリ——以下「歌ノ意ハ」と書き、これを抹消。

② 亭子——「店屋」を消して改める。

③ 葬り——以下「タテ」と書き、これを抹消。

④ 天武十年ニ——「持統ノ御時」を消して改める。

⑤ 持統——「朱鳥」を消して改める。

[65] ① クタリハ——以下「町」と書き、これを抹消。

② カク——以下○を付し「韻番行寒剛切列也」と書入れ、さらにこれを抹消。

③ 楚詞歩——「韻番」を消して改める。

[66] ① キタレル——「イテタル」を消して改める。

[67] ① キコユル——以下「モノ」と書き、これを抹消。

[69] ① 第七——「同題歌ヲ同」を消して改める。

② 左右——「左モ右モ」の「モ」を二箇所とも抹消

③ トモカクモ——「モ」の右に二箇所とも「二歌」と記した後、これを抹消。

④ トイヘリ今案——「云云」を消して改める。

⑤ トスルモ……ナ——「トカク」を消して改める。

⑥ ノ……モト——「亀毛ハ」を消して改める。

⑦ モ……ズ——「ニアラス」を消して改める。

⑧ オモ——「イ」を消して改める。

⑨ 亦——「又」を消して改める。

⑩ タリ……ナリ——「二梶トカキテマカチトヨマセリ然レハ独手独梶トカキテカタ
テカタカチトヨマセタルハ」を消して改める。

⑪ ナリ——以下「西北トモカキツヘシ」とあるを消し、「此ヲ例シテ」以下を書入。

⑫ 此ヲ……イハ、——「由是イハ、」を消して改める。

⑬ ヘカラス——以下「四方ノ字ハサテラキ」と書き、これを抹消。

⑭ 有無是非——「長短輕重」を消して改める。

⑮ 西筋——以下「ヲコナタノフネアナタノフネトヨマセタルハ」と書き、これを抹消。

⑯ 義——「正」を消し、改める。

⑰ 也——「ニハアラストシルヘシ」を消して改める。

⑱ トニカクニ……タリ——「トニカクニト訓セルモイヒシイヘハトヨメル点モアリ
云ヲトニカクトヨメルモ義訓ナリ」を消して、その右に「イヒシイヘハトヨ
メル点モアルトヨロシカラス トニカクモトヨマセタル」と書入れた後さらにこ
れを消して改める。

⑮日本紀ニハ——以下「云云ヲ」と書き、これを抹消。

⑯云々——以下「兼語也又曰」と書き、これを抹消。

⑰如此也——以下「トニカクニイヘルハ兼語也ノ註ニカナヒシカクトイヘルハ如此々々ノ註ニ叶ヘリ」と書き、これを抹消。

⑱ヘカラス——以下「右」と書き、これを抹消。

⑳意——「義理」を消して改める。

㉑ナル……ニ——「イヘル詞ソトナラハト何ノ字カクハ此ノ字ナルヘシ」を消して改める。

㉒トセンカクセン——「トヤセンカクヤセン」と書き、二箇所「ヤ」を抹消。

㉓カハ……ト——「カクハ」を消して改める。

㉔カハ……云——「云」を消して改める。

㉕大工……ナリ——「名替アル大工ノ代々ニイテケルナリ」を消して改める。

㉖トモ——以下「イヘトイヘ」を消して改める。

[71] ①イフト——「イヒテ」を消して改める。

②クヤ——「シ」を消して改める。

③アル——以下「常ノ事」と書き、これを抹消。

④右近トカク——「右近」の左に「ミツニチカキ」と書入れた上、これを抹消。「ク」の右傍に「柏」と記した上、これを抹消。

⑤ハカハラス——「ハカリノ」を消して改める。

⑥カキノス——「イフヘキ」を消して改める。

⑦如ク——「コトシ」を消して改める。

⑧意也——以下「歌ノ意ハ堅磐ノトキハナルカコトク」と書き、これを抹消。

⑨ノ——「ニハ点」を消して改める。

⑩カハラス——「トキハニ」を消して改める。

⑪ミュキ——「御幸」を消して改める。

⑫リ——「シ」を消して改める。

[72] ①安萬射可流……安里——「天離ル夷ノ都ニ天齋シカク戀スラハ生験アリ」を消して改める。

②司——「史」を消して改める。

③ノ国——「守」を消して改める。

[73] ①赤人——以下「熟田津ヲ飽田津トモイ^{アトク}ル^イ賦又飽ノ字ヲニ」と書き、これを抹消。

②第二——「万葉」に○を付して改める。

③榜来——「コキコ」を消して改める。

④イデ——以下「ヨメリ」とあるを消さず、その上に○を付して、右に「ト云訓アリ」と書入。また、「ヨメリ」の次、「許藝乞菜ハ」と書き、これを抹消。

⑤イヘル也——以下「諸本皆コキコナト点セルハ誤レハ歟」と書き、「本」以下を抹消。

[74] ①アレハ——以下「是モ」と書き、これを抹消。

[76] ①カハ——「河」に○を付して改める。

[77] ①イヘリ——以下「ハツオハ長キ尾初メニオフレハ初尾ト云也」と書き、これを抹消。

②或人——「又」を消して改める。

③消慎法……文ニモ——「後江相公作消慎公第三度表云」の「作」に○を付し「ノ」

と改め、「云」を消して「作ル文ニモ」とした上、語順を改める。

④足檜之——「足檜木之」の「木」に○を付して抹消。

⑤ハ——「レハ」を消して改める。

⑥奥——「オク」に○を付して書入。

⑦皆……イヘリ——「混乱シテカケリ」を消して改める。

⑧ワカ——「我」を消して改める。

⑨ナリ其——「ノ」に○を付して改める。

⑩ニ——「ヲ出サルニ」を消して改める。

⑪続曰——「万葉」に○を付して改める。

⑫仮——「遣」に○を付して改める。

⑬ハシメ定メテ——「初テ」を消して改める。

⑭ワレ——「我」を消して改める。

⑮トハ……モ——「イハレテモ」を消して改める。

⑯字——以下「也」と書き、これを抹消。また、その後、「タチメクル意也」と小書するを消し、その左に「タメラヒ……義也」と書入。

⑰空ユク——「浮」を消して改める。

⑱通——「転」に○を付して改める。

⑲田ノ……テ——「秋ノ田」を消して改める。

⑳ナリ——以下「此歌ハ」と書き、これを抹消。また、「ナリ」の次に○を付し、右に「如シサテ」と書入、今、「サテ」のみを生かした。

㉑イトラシミテ——「汝ニ心ヲツカシミテ」を消して改める。

[81] ①エラハレ——「載ラレ」を消して改める。

[82] ①迂ノ字——以下「也」とあり、その左に「ヲモ……セリ」と書入。今、「也」を省略した。

②難——「曲」に○を付して改める。

③イヘリ——「トイヘリ」の右に「コトタミテコソモノイヒケレ」と書入。

④夢——「思」に○を付して改める。

⑤鷹——以下「夢見感悦」に各々○を付して抹消。

[83] ①キケキ——「寸鷄去」を消して改める。

②ト書テ——「ヲ」に○を付して改める。

③ナリ——以下「心ヲツクヘシ」と書き、これを抹消。

④世——「世呂」と書き、「呂」を抹消。

⑤ニイヘルヤ——「ナリ」に○を付して改める。

⑥寄花歌——「寄花相聞歌」と書き、「相聞」を抹消。

[88] ①或人曰——以下底本の記号(○△)の指示に従って、「一字ニシテ……シカルニ

の文と、「殆ノ字ヲ……ソヤト」の文の順序を入れ換えた。

②ナヘテ——「ソレヲ皆」を消して改める。

③トヨメリ……然ルヲ——「トモウツクシトモヨメリ」を消して改める。

④申ノ字——以下「サルトモ」と書き、これを抹消。

⑤トヨメリ——「トモヨメリ」を消して改める。

⑥申述……トキハ——「モノイフコトヲマシト」を消し、その右に「ヲマシトイヘルトキハ」と書入。さらにこの「マシ」以下を消し、左に「申述……トキハ」と書入。

⑦略シ——「ソヘ」を消して改める。

⑧実ノ字——以下「真ノ字」と書き、これを抹消。

⑨コト——「トキ」を消して改める。

[89] ①螺嵐——以下「注」と書き、これを抹消。

②宜矣——以下「ニレハ借集之謂ナリ」と書き、これを抹消。

③一名——「二名」の前、「一名土蜂一名蒲葎」と書き、これを抹消。

④狭——「五月」に○を付して改める。

⑤ヨマスシテ——「イフヘカラス」を消して改める。

⑥袖中抄——「顕昭」を消して改める。

⑦ヘリ——「ヒタレト」を消して改める。

⑧ト云……イヘト——「トモ云トモイヘレト只」を消して改める。

⑨アラス——「ナルマシキ」を消して改める。

⑩コレ——「云々此」を消して改める。

⑪正誤下——以下「ヲ歌ニ不用ナレハ不贅于此ヒロク」と書き、これを抹消。

⑫ハヤシタトハヨマテ——「所ノ名ヲ」を消して改める。

⑬故ナリ——以下「春之雨ヲ」と書き、これを抹消。

[90] ①通——「同」に○を付して改める。

②古事記——「万葉」を消して改める。

③ル——「ルモ」と書き、抹消するが「ル」のみ生かした。

④イツモノ——「常」を消して改める。

⑤真珠成——「マタマナス」を消して改める。

⑥ヲ落シテ——「ナクシテ」を消して改める。

⑦今世……本ニ——「或本」を消して改める。

⑧アシヒナス——「トキハナス」を消して改める。

⑨第七——以下「芳野作」を書き、これを抹消。

⑩シケハ……アリ——「意ハ悲テヌル夜ハシケクサモナクテ妹」を消して改める。

⑪木也——「杣木ナトノ流レヨル也」を消して改める。

⑫イトラシキヲツト、——「夫ヲ」を消して改める。

⑬コトク——以下「サナラテサヘアヒカタキ」と書き、これを抹消。

⑭茂字——以下「ノ如キ」と書き、これを抹消。

⑮衣食部——以下「ニ云」と書き、これを抹消。

⑯アラス——以下「水ノ下ヲク、ル野也」と書き、これを抹消。

⑰水ノ——以下「シタヲ」と書き、これを抹消。

⑱所念也——以下「奈」と書き、これを抹消。

⑲乃公——「乃兄乃公」と書き、「兄乃」を○を付して抹消。

⑳ワレモ……コトクモ——「其ノ心ハワカ思フ」を消して改める。

㉑天——「鏝」に○を付して改める。

㉒ヒク——「ヒカン」を消して改める。

㉓同——以下「韻也」とあり、右に「詞……イヘリ」と書入。今、「韻也」を省いた。

た。

[94] ①ハ……ヘシ——「ライハレヌヘシ」を消して改める。

[96] ①カケレハ……ヤ——「ニカケリ」を消して改める。

[97] ①気色——「心」に○を付して改める。

[98] ①巳ヲ——以下「通テ」と書き、これを抹消。

[99] ①名所也——以下「旧ノ字ニソヘタリ」と書き、これを抹消。

② 撰津……也——「所名」を消し、右に「紀伊ノ名所撰津ノ名所也」と書入。

③ 二——「第三」と書き、右に「第二ニカクヘシ」と書入。

④ 一——「第二」と書き、右に「第一ニカクヘシ」と書入。

[10] ① イヘリ——以下「思」と書き、これを抹消。

② ニヤ——以下「此歌ノ前後ハシラネトモ」と書き、これを抹消。なお、「ノ」の右

に「ヨリ」と書入。

③ ラフルヘル——右に「フルヒテ君ノタメ人ノタメ身ノタメニセルニモアラス」と

書き、これを抹消。また、「セルニモ」の右に「ナルトニ」と加えるが、これも抹消。

④ モノヤヤ——以下「孫子」以下にかけて右に「君ノタメ人ノタメ身ノタメ」と書

入。

⑤ 右大将——「右大将家」と書き、「家」を抹消。